

# Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.1

ユーザーズガイド



Part No: E35727-01  
2012年5月

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS: Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性(redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことに起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

OracleおよびJavaはOracle Corporationおよびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

Intel, Intel Xeon は、Intel Corporation の商標または登録商標です。すべての SPARC の商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc. の商標または登録商標です。AMD, Opteron, AMD ロゴ、AMD Opteron ロゴは、Advanced Micro Devices, Inc. の商標または登録商標です。UNIX は、The Open Group の登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

# 目次

---

|  |    |
|--|----|
| このドキュメントの使用方法 .....                            | 5  |
| 関連ドキュメント .....                                 | 5  |
| ドキュメントのフィードバック .....                           | 6  |
| 製品のダウンロード .....                                | 6  |
| Oracle ILOM 3.1 ファームウェアのバージョン番号方式 .....        | 7  |
| サポートとアクセシビリティ .....                            | 8  |
| Oracle ILOM の概要 .....                          | 9  |
| 関連情報 .....                                     | 9  |
| Oracle ILOM について .....                         | 9  |
| Oracle ILOM の特長と機能 .....                       | 10 |
| サポートされる管理インタフェース .....                         | 12 |
| サポートされているオペレーティングシステムの Web ブラウザ .....          | 13 |
| ほかの管理ツールとの統合 .....                             | 14 |
| Oracle ILOM 3.1 の使用を開始する .....                 | 15 |
| 関連情報 .....                                     | 15 |
| Oracle ILOM にログインする .....                      | 15 |
| 再設計された 3.1 Web インタフェースをナビゲートする .....           | 18 |
| コマンド行インタフェース (CLI) のターゲットネームスペースをナビゲートする ..... | 27 |
| システム情報の収集、健全性ステータスの監視、およびホスト管理の開始 .....        | 35 |
| 関連情報 .....                                     | 35 |
| 情報とステータスの収集、および一般的なアクションの開始 .....              | 35 |
| 未解決の問題の管理 .....                                | 42 |
| 保守作業の管理: Sun ブレードシャーシ NEM .....                | 44 |
| Oracle ILOM のログエントリの管理 .....                   | 47 |
| 一般的に使用されるホスト管理アクションの実行 (Web) .....             | 52 |
| ホストおよびシステムの管理アクションの適用 .....                    | 63 |
| 関連情報 .....                                     | 63 |
| ホスト管理構成アクションの管理 .....                          | 63 |

---

|  |     |
|--|-----|
| システム管理構成アクションの管理 .....                       | 64  |
| Oracle ILOM インタフェースを介したリアルタイム電力監視 .....      | 65  |
| 関連情報 .....                                   | 65  |
| 消費電力の監視 .....                                | 65  |
| 電力割り当ての監視 .....                              | 69  |
| 電力使用統計情報の分析 .....                            | 79  |
| 電力履歴パフォーマンスの比較 .....                         | 80  |
| Oracle ILOM 管理対象デバイスのトラブルシューティング .....       | 83  |
| 関連情報 .....                                   | 83  |
| ネットワーク接続の問題: Oracle ILOM インタフェース .....       | 83  |
| システム動作の監視およびデバッグのためのツール .....                | 85  |
| Oracle ILOM 診断ツールを使用可能にして実行する .....          | 86  |
| Oracle ILOM 障害管理シェルによる Sun ハードウェア障害の管理 ..... | 99  |
| 関連情報 .....                                   | 99  |
| ハードウェア障害から保護する: Oracle ILOM 障害マネージャー .....   | 99  |
| Oracle ILOM 障害管理シェル .....                    | 101 |
| fmadm を使用してアクティブな Sun ハードウェア障害を管理する .....    | 104 |
| fmdump を使用して障害管理履歴ログを表示する .....              | 108 |
| fmstat を使用して障害管理統計レポートを表示する .....            | 111 |
| コマンド行インタフェースの使用 .....                        | 115 |
| 関連情報 .....                                   | 115 |
| コマンド行インタフェース (CLI) について .....                | 115 |
| CLI コマンド構文 .....                             | 116 |
| サポートされているコマンドおよびオプション .....                  | 117 |
| CLI コマンドを実行して1つ以上のプロパティを変更する .....           | 120 |
| 管理タスクを CLI ネームスペースターゲットにマッピングする .....        | 123 |
| <br>   |     |
| 用語集 .....                                    | 149 |
| <br>   |     |
| 索引 .....                                     | 171 |

# このドキュメントの使用法

---

このガイドは、Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.1 ドキュメントライブラリのほかのガイドとともに使用してください。このガイドは、技術者、システム管理者、Oracle 認定サービスプロバイダ、およびシステムハードウェアの管理経験があるユーザーを対象としています。

- 5 ページの「関連ドキュメント」
- 6 ページの「ドキュメントのフィードバック」
- 6 ページの「製品のダウンロード」
- 7 ページの「Oracle ILOM 3.1 ファームウェアのバージョン番号方式」
- 8 ページの「サポートとアクセシビリティ」

## 関連ドキュメント

| ドキュメント  | リンク   |
|---|---|
| すべての Oracle 製品  | <a href="http://www.oracle.com/documentation">http://www.oracle.com/documentation</a>   |
| Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.1 ドキュメントライブラリ | <a href="http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31">http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31</a>   |
| システム管理、単一システム管理 (SSM) セキュリティ、および診断ドキュメント                    | <a href="http://www.oracle.com/technetwork/documentation/sys-mgmt-networking-190072.html">http://www.oracle.com/technetwork/documentation/sys-mgmt-networking-190072.html</a> |
| Oracle Hardware Management Pack 2.2                         | <a href="http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ohmp">http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ohmp</a>   |

注: 使用している Sun サーバプラットフォームに固有の Oracle ILOM 3.1 ドキュメントを見つけるには、そのサーバで使用できる管理ガイドで Oracle ILOM のセクションを参照してください。

---

## ドキュメントのフィードバック

このドキュメントについてのフィードバックをお寄せください:

<http://www.oracle.com/goto/docfeedback>

## 製品のダウンロード

各 Sun サーバーまたは Sun ブレードシャーシシステムの Oracle ILOM 3.1 ファームウェアの更新は、My Oracle Support (MOS) Web サイトからダウンロードできるスタンドアロンのソフトウェア更新プログラムによって入手できます。このようなソフトウェア更新プログラムを MOS Web サイトからダウンロードするには、次の手順を参照してください。

### ▼ 製品のソフトウェアおよびファームウェアのダウンロード

- 1 <http://support.oracle.com> にアクセスします。
- 2 **My Oracle Support** にサインインします。
- 3 ページ上部にある「パッチと更新版」タブをクリックします。
- 4 「パッチ検索」パネルの「検索」タブの上部で、「製品またはファミリー (拡張)」を選択します。
- 5 「対象製品」リストボックスで、製品名の全体または一部を入力し、一致する製品のリストがリストボックスに表示されたら該当する製品を選択します。  
製品名の例: Sun Fire X4470 M2 Server or Sun Enterprise SPARC T5120
- 6 「リリース」リストボックスで次のようにします:
  - a. 「リリース」リストボックスで下矢印をクリックして、一致する製品フォルダのリストを表示します。  
1つまたは複数の製品フォルダのアイコンのリストが表示されます。
  - b. 製品フォルダのアイコンの横にある三角形(>)をクリックして、ソフトウェアリリースのリストを表示します。
  - c. 目的のソフトウェアリリースを選択します。  
例: X4170 M2 SW 1.4 または Sun SPARC Enterprise T5120

- 7 「検索」をクリックします。  
「パッチ検索結果」画面が表示され、パッチ名のリストと説明が示されます。
- 8 「パッチ検索結果」画面で、目的のパッチ名を選択します。  
例: X4170 M2 SW 1.4. ILOM and BIOS (Patch) または Firmware SPARC Enterprise T5120 Sun System Firmware 7.1.3.2
- 9 パッチ名の選択で、次のいずれかのアクションをクリックします:
  - **Readme** – 選択したパッチの **Readme** ファイルを開きます。
  - **Add to Plan** – 選択したパッチを新規または既存のプランに追加します。
  - **ダウンロード** – 選択したパッチをダウンロードします。
  - **コピー** – 選択したパッチの詳細をメモリーにコピーします。

## Oracle ILOM 3.1 ファームウェアのバージョン番号方式

Oracle ILOM 3.1 では、使用しているサーバーまたはシャーシ監視モジュール (CMM) で実行しているファームウェアバージョンを識別しやすいファームウェアバージョンの番号方式を使用しています。この番号方式では、5つのフィールドがある文字列を使用しています。たとえば、a.b.c.d.e となり、ここでは:

- a - Oracle ILOM のメジャーバージョンを示します。
- b - Oracle ILOM のマイナーバージョンを示します。
- c - Oracle ILOM の更新バージョンを示します。
- d - Oracle ILOM のマイクロバージョンを示します。マイクロバージョンは、プラットフォームまたはプラットフォームのグループ単位で管理されます。詳細は、使用しているプラットフォームの製品ノートを参照してください。
- e - Oracle ILOM のナノバージョンを示します。ナノバージョンは、マイクロバージョンの増分反復です。

たとえば、Oracle ILOM 3.1.2.1.a の意味は、次のとおりです:

- Oracle ILOM 3 はメジャーバージョンです
- Oracle ILOM 3.1 はマイナーバージョンです
- Oracle ILOM 3.1.2 は2つ目の更新バージョンです
- Oracle ILOM 3.1.2.1 はマイクロバージョンです
- Oracle ILOM 3.1.2.1.a は3.1.2.1のナノバージョンです

---

ヒント - 使用している Sun サーバーまたは CMM にインストールされている Oracle ILOM ファームウェアバージョンを確認するには、Web インタフェースで「System Information」 > 「Firmware」の順にクリックするか、コマンド行インタフェースで `version` と入力します。

---

## サポートとアクセシビリティ

---

| 説明                                    | リンク  |
|---------------------------------------|--|
| My Oracle Support を通じた電子的なサポートへのアクセス。 | <a href="http://support.oracle.com">http://support.oracle.com</a><br>聴覚障害の方へ:<br><a href="http://www.oracle.com/accessibility/support.html">http://www.oracle.com/accessibility/support.html</a> |
| アクセシビリティに対する Oracle のコミットメントについて。     | <a href="http://www.oracle.com/us/corporate/accessibility/index.html">http://www.oracle.com/us/corporate/accessibility/index.html</a>  |

---

# Oracle ILOM の概要

---

| 説明   | リンク   |
|--|---|
| Oracle ILOM の特長、機能、およびサポートされるブラウザの概要については、これらのトピックを参照してください。 | <ul style="list-style-type: none"><li>■ 9 ページの「Oracle ILOM について」</li><li>■ 10 ページの「Oracle ILOM の特長と機能」</li><li>■ 12 ページの「サポートされる管理インタフェース」</li><li>■ 13 ページの「サポートされているオペレーティングシステムの Web ブラウザ」</li></ul> |
| サードパーティーの管理ツールの統合については、このトピックを参照してください。                      | <ul style="list-style-type: none"><li>■ 14 ページの「ほかの管理ツールとの統合」</li></ul>   |

## 関連情報

- 『構成および保守』の「Oracle ILOM への管理接続の設定とログイン」
- 『SNMP、IPMI、CIM、WS-MAN プロトコル管理』の「SNMP の概要」
- 『SNMP、IPMI、CIM、WS-MAN プロトコル管理』の「IPMI を使用したサーバー管理」

## Oracle ILOM について

Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) は、Sun ハードウェアの管理と監視に使用できる高度なサービスプロセッサ (SP) ハードウェアおよびソフトウェアを提供します。Oracle ILOM は、すべての Sun ラック搭載型サーバー、ブレードサーバー、およびシャーシ監視モジュール (CMM) に取り付け済みです。Oracle ILOM は、データセンターに不可欠な管理ツールであり、Sun サーバーにすでに取り付けられているほかのデータセンター管理ツールと統合できます。

Oracle ILOM を使用すると、すべての Sun サーバーおよび CMM で単一の一貫した標準ベースのサービスプロセッサを使用できます。これにより、次のような利点があります:

- オペレータ用の単一で一貫性のあるシステム管理インタフェース

- 豊富な標準プロトコルのサポート
- サードパーティーの管理ツールとインタフェース
- 追加コストなしで統合されたシステム管理機能

Oracle ILOM サービスプロセッサ (SP) は、独自の組み込みオペレーティングシステムを実行し、専用の Ethernet ポートを持つことで、帯域外管理機能を提供します。Sun サーバーに電源が投入されるとすぐに、Oracle ILOM は自動的に初期化されます。完全な機能を備えたブラウザベースの Web インタフェース、および同等なコマンド行インタフェース (CLI) を備えています。さらに、業界標準の SNMP インタフェースと IPMI インタフェースも利用できます。

## 関連情報

- 10 ページの「Oracle ILOM の特長と機能」
- 12 ページの「サポートされる管理インタフェース」
- 13 ページの「サポートされているオペレーティングシステムの Web ブラウザ」
- 14 ページの「ほかの管理ツールとの統合」

# Oracle ILOM の特長と機能

Oracle ILOM は、サーバーシステムの監視と管理に役立つ特長、機能、およびプロトコルの完全なセットを備えています。

表 1 Oracle ILOM の特長と機能

| Oracle ILOM の機能              | 可能な操作   |
|------------------------------|---|
| 新しく設計された Web およびコマンド行インタフェース | x86 SP、SPARC SP、および CMM プラットフォームに共通の簡単な標準化された形式で概要情報を表示します。   |
| 専用のサービスプロセッサとリソース            | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ システムリソースを消費することなくサーバーを管理します。</li> <li>■ サーバーの電源が切れた時でも、スタンバイ電源を使用してサーバーの管理を続行します。</li> </ul>   |
| 簡単な Oracle ILOM 初期構成         | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ Oracle ILOM は IPv4 および IPv6 のデフォルトの設定を使用し、サーバー SP または CMM のネットワークアドレスを自動的に検出します。</li> <li>■ x86 SP プラットフォームで BIOS 設定を構成します。</li> </ul> |
| ダウンロード可能なファームウェア更新           | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ ブラウザベースの Web インタフェースを使用してファームウェア更新をダウンロードします。</li> </ul>   |

表1 Oracle ILOM の特長と機能 (続き)

| Oracle ILOM の機能          | 可能な操作  |
|--------------------------|--|
| リモートハードウェアの監視            | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ システムの健全性とシステムイベントログを監視します。</li> <li>■ ハードウェアイベントログを監視します。</li> <li>■ 監査イベントログを監視します。</li> <li>■ 電源装置、ファン、ホストバスアダプタ (HBA)、PCI デバイス、ディスク、CPU、メモリー、マザーボードなどの顧客交換可能ユニット (CRU) および現場交換可能ユニット (FRU) を監視します。</li> <li>■ 環境温度 (コンポーネントの温度) を監視します。</li> </ul> |
| ハードウェアと FRU のインベントリおよび有無 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 取り付けられている CPU と FRU、およびそれらのステータスを識別します。</li> <li>■ パーツ番号、バージョン、および製品シリアル番号を識別します。</li> <li>■ NIC カードの MAC アドレスを識別します。</li> </ul>  |
| リモート KVMs                | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ シリアルポートと LAN を通じてシステムシリアルコンソールをリダイレクトします。</li> <li>■ リモートの x86 システムや一部の SPARC システムのキーボード、ビデオ、およびマウス (KVM) にアクセスします。</li> <li>■ リモートクライアントブラウザに OS のグラフィカルコンソールをリダイレクトします。</li> <li>■ リモートの CD/DVD/フロッピーをリモートストレージとしてシステムに接続します。</li> </ul>            |
| システムの電源制御と監視             | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ システムの電源をローカルまたはリモートで投入または切断します。</li> <li>■ 即時停止のために電源を強制的に切断、または正常な停止を実行してホストオペレーティングシステムを停止してから電源を切断します。</li> <li>■ Web インタフェースを使用して電力管理および電力履歴チャートを監視します。</li> </ul>  |
| ユーザーアカウントの構成と管理          | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ ローカルユーザーアカウントを構成します。</li> <li>■ LDAP、LDAP/SSL、RADIUS、および Active Directory を使用してユーザーアカウントを認証します。</li> </ul>  |

表1 Oracle ILOM の特長と機能 (続き)

| Oracle ILOM の機能                                 | 可能な操作   |
|---|---|
| エラーと障害の管理                                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ すべての「サービス」データについて一貫した方法でイベントを記録します。</li> <li>■ 専用のユーザーインタフェースページ、SP ログ、syslog、およびリモートログホストに報告される、ハードウェアおよびシステム関連のエラーと ECC メモリーエラーを監視します。</li> <li>■ ユーザーが保守作業を実行して障害に対処すると、Oracle ILOM はほとんどの障害状態を自動的にクリアします。</li> </ul> |
| SNMP トラップ、IPMI PET、リモート syslog、電子メール警告などのシステム警告 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 業界標準の SNMP コマンドと IPMItool ユーティリティを使用してコンポーネントを監視します。</li> </ul>  |

## サポートされる管理インタフェース

このドキュメントでは、Oracle ILOM の Web およびコマンド行インタフェースの概念と手順が説明されています。ただし、Oracle ILOM のすべての機能にアクセスするには、次に示すインタフェースとプロトコルのいずれかまたはすべての組み合わせを使用できます。

- **Web** インタフェース - Web インタフェースを使用すると、Web ブラウザ経由で Oracle ILOM SP または CMM にアクセスできます。Oracle ILOM の Web インタフェースから日常的なシステム管理操作をリモートで実行できます。また、Web インタフェースからツールを起動し、KVMS をリダイレクトしたり保守および診断の操作を実行したりできます。
- コマンド行インタフェース (CLI) - SSH クライアントを使用すると、サーバー SP または CMM にある Oracle ILOM CLI にアクセスできます。コマンド行インタフェースを使用すると、業界標準の DMTF 形式のキーボードコマンドやスクリプトプロトコルを使用してサーバー管理操作をリモートで実行できます。
- **Intelligent Platform Management Interface (IPMI)** - IPMI は、多くの異なる種類のネットワーク上でサーバーシステムを管理するために設計された、業界標準のオープンなインタフェースです。IPMI の機能には、現場交換可能ユニット (FRU) インベントリのレポート、システム監視、システムイベントの記録、システム復旧 (システムのリセットと電源の投入および切断を含む)、警告などがあります。
- **WS-Management/CIM** - バージョン 3.0.8 から、Oracle ILOM は Distributed Management Task Force (DMTF) の Web Services for Management (WS-Management) プロトコルと Common Information Model (CIM) をサポートしています。これらの DMTF 標準が Oracle ILOM でサポートされていることにより、開発者は Oracle の Sun システムハードウェアに関する情報を監視および管理するネットワーク管理アプリケーションを構築して配備できます。

- 簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP) インタフェース – Oracle ILOM は、HP OpenView や IBM Tivoli などのサードパーティアプリケーション用に SNMP v3.0 インタフェースも提供します。Oracle ILOM では、次のような MIB をサポートしています:
  - SUN-PLATFORM-MIB
  - SUN-ILOM-CONTROL-MIB
  - SUN-HW-TRAP-MIB
  - SUN-ILOM-PET-MIB
  - SNMP-FRAMEWORK-MIB (9RFC2271.txt)
  - SNMP-MPD-MIB (RFC2572)
  - SNMPv2-MIB (RFC1907) のシステムグループと SNMP グループ
  - ENTITY-MIB (RFC2737) の entPhysicalTable

### 関連情報

- 16 ページの「[Oracle ILOM Web インタフェースにログインする](#)」
- 17 ページの「[Oracle ILOM CLI にログインする](#)」
- 『SNMP、IPMI、CIM、WS-MAN プロトコル管理』の「IPMI を使用したサーバー管理」
- 『SNMP、IPMI、CIM、WS-MAN プロトコル管理』の「WS-Management と CIM を使用したサーバー管理」
- 『SNMP、IPMI、CIM、WS-MAN プロトコル管理』の「SNMP の概要」
- 『構成および保守』の「Oracle ILOM への管理接続の設定とログイン」

## サポートされているオペレーティングシステムのWeb ブラウザ

Oracle ILOM は次のオペレーティングシステムの Web ブラウザをサポートしています。

注 – 管理対象の Sun サーバーでサポートされているオペレーティングシステムのリストについては、Sun サーバーの管理ガイドまたはプロダクトリリースノートを参照してください。

表2 サポートされている Web ブラウザ

| オペレーティングシステム      | Web ブラウザ   |
|-------------------|--|
| Oracle Solaris 10 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ Mozilla 1.4 および 1.7</li> <li>■ Firefox 3.6.x および 6</li> </ul> |

表 2 サポートされている Web ブラウザ (続き)

| オペレーティングシステム                                    | Web ブラウザ   |
|---|--|
| Linux (Oracle、Red Hat、SuSE、Ubuntu 10.10)        | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ Firefox 3.6.x および 6</li> </ul>  |
| Microsoft Windows (XP Service Pack 2、Windows 7) | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ Internet Explorer 7.x、8.x (Windows XP Service Pack 2 の場合)、および 9 (Windows 7 の場合)</li> <li>■ Firefox 3.6.x および 6</li> </ul> |
| Macintosh (OSX v10.6 以降)                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ Firefox 3.6.x および 6</li> <li>■ Safari すべて</li> </ul>  |

## 関連情報

- [18 ページの「Oracle ILOM 3.1 時点での再設計された Web インタフェース」](#)
- [16 ページの「Oracle ILOM Web インタフェースにログインする」](#)

## ほかの管理ツールとの統合

Oracle ILOM は、ほかの管理ツールやプロセスと簡単に統合できます。サポートされているサードパーティーのシステム管理ツールおよびそれらによる Oracle Sun システムのサポートについては、次に説明されています:

<http://www.oracle.com/technetwork/server-storage/servermgmt/tech/isv-hardware-connectors/index.html>

Oracle Enterprise Ops Center 管理ツールについては、[14 ページの「Oracle Enterprise Ops Center について」](#)を参照してください。

### Oracle Enterprise Ops Center について

Oracle Enterprise Ops Center は、ネットワーク上の新しい Sun システムや既存の Sun システムの発見に役立ちます。たとえば、Oracle Enterprise Ops Center を使用して次のことが可能です:

- サーバーを最新のファームウェアおよび BIOS イメージに更新する。
- オペレーティング環境に既製のディストリビューションや Oracle Solaris イメージをプロビジョニングする。
- 更新と構成変更を管理する。
- ブート制御、電源ステータス、インジケータ LED など、サービスプロセッサの主要機能をリモートで制御する。

Oracle Enterprise Ops Center の詳細については、次を参照してください:<http://www.oracle.com/in/products/enterprise-manager/enterprise-manager-opscenter-044497-en-in.html>

# Oracle ILOM 3.1 の使用を開始する

---

| 説明   | リンク   |
|--|---|
| Oracle ILOM CLI および Web インタフェースへのログインについて説明するトピックについては、このセクションを参照してください。   | ■ 15 ページの「Oracle ILOM にログインする」                      |
| 新しく設計された Oracle ILOM 3.1 Web インタフェースについて説明するトピックと、Sun 管理対象デバイスについて使用可能なナビゲーションオプションについて説明するトピックについては、このセクションを参照してください。 | ■ 18 ページの「再設計された 3.1 Web インタフェースをナビゲートする」           |
| 更新された Oracle ILOM 3.1 CLI ネームスペースについて説明するトピックと、CLI コマンドを実行する手順について説明するトピックについては、このセクションを参照してください。                      | ■ 27 ページの「コマンド行インタフェース (CLI) のターゲットネームスペースをナビゲートする」 |

## 関連情報

- 『構成および保守』の「Oracle ILOM への管理接続の設定とログイン」
- 『SNMP、IPMI、CIM、WS-MAN プロトコル管理』の「IPMI を使用したサーバー管理」
- 『SNMP、IPMI、CIM、WS-MAN プロトコル管理』の「SNMP の概要」

## Oracle ILOM にログインする

- 15 ページの「ログインするためのネットワーク要件」
- 16 ページの「Oracle ILOM Web インタフェースにログインする」
- 17 ページの「Oracle ILOM CLI にログインする」

## ログインするためのネットワーク要件

ネットワーク接続経由で Oracle ILOM にログインするには、次のことが必要です:

- サーバー SP または CMM への物理的なネットワーク管理接続を確立します。

- サーバー **SP** または **CMM** に割り当てられたネットワークアドレスを取得します。IPv4 および IPv6 アドレスを入力するために容認されている入力形式は、次のとおりです:

---

注 - IPv6 アドレスまたはリンクローカル IPv6 アドレスが正しく機能するためには、アドレスの入力時にそのアドレスを角括弧で囲む必要があります。ただし、SSH を使用して Oracle ILOM にログインするために IPv6 アドレスを指定する場合は、IPv6 アドレスを角括弧で囲まないようにしてください。

---

- **IPv4** アドレス - 192.0.2.0
- **IPv6** アドレス - [2001:db8:0:0:0:0:0/32]
- **SSH** と **root** ユーザーアカウントを使用した **IPv6** アドレス - `ssh root@ipv6address`
- リンクローカル **IPv6** アドレス - [e80::214:4fff:feca:5f7e/64]
- **DNS** ホストドメインアドレス - company.com
- **Oracle ILOM** のユーザーアカウントを入手します。

## 関連情報

- 13 ページの「サポートされているオペレーティングシステムの Web ブラウザ」
- 16 ページの「Oracle ILOM Web インタフェースにログインする」
- 17 ページの「Oracle ILOM CLI にログインする」
- 『構成および保守』の「Oracle ILOM への管理接続の設定とログイン」
- 『構成および保守』の「ユーザーアカウントの設定および管理」

## ▼ Oracle ILOM Web インタフェースにログインする

始める前に

15 ページの「ログインするためのネットワーク要件」に記載されている要件を満たします。

- 1 Web ブラウザで、サーバー **SP** または **CMM** の **IPv4** または **IPv6** アドレスを入力します。  
「Oracle Integrated Lights Out Manager Login」 ページが表示されます。
- 2 ユーザー名とパスワードを入力し、「**Log In**」をクリックします。

---

注 - 初回ユーザーはデフォルトの root アカウントおよび changeme パスワードを使用してログインできます。

---

## 参考 関連情報

- 13 ページの「サポートされているオペレーティングシステムの Web ブラウザ」
- 83 ページの「ネットワーク接続の問題: Oracle ILOM インタフェース」
- 『構成および保守』の「Web ブラウザのセキュリティ設定の解決」
- 『構成および保守』の「Oracle ILOM への管理接続の設定とログイン」
- 『構成および保守』の「CLI および Web セッションのデフォルトタイムアウト」
- 『構成および保守』の「root アカウントのパスワードの復旧」

## ▼ Oracle ILOM CLI にログインする

始める前に

15 ページの「ログインするためのネットワーク要件」に記載されている要件を満たします。

- 1 **Secure Shell (SSH)** セッションを使用して、次のいずれかの方法で **Oracle ILOM** にログインします:
  - デフォルトの **root** アカウントパスワードでログインする場合、システムプロンプトで次のように入力します:  
`$ ssh root@system-ip-address`
  - システム管理者によって作成されたユーザーアカウントでログインする場合、システムプロンプトで次のように入力します:  
`$ ssh system-ip-address`

Oracle ILOM がデュアルスタックネットワーク環境で動作している場合、*system-ip-address* を IPv4 または IPv6 のいずれかのアドレス形式で入力できます。

- 2 システムプロンプトにユーザーアカウントのパスワードを入力します (デフォルトの **root** アカウントの場合、これは **changeme** です)。

Password: *password*

Oracle ILOM CLI のプロンプト (->) が表示されます。

例:

```
Oracle(R) Integrated Lights Out Manager
```

```
Version 3.1.0.0 r54408
```

Copyright (c) 2011, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

->

#### 参考 関連情報

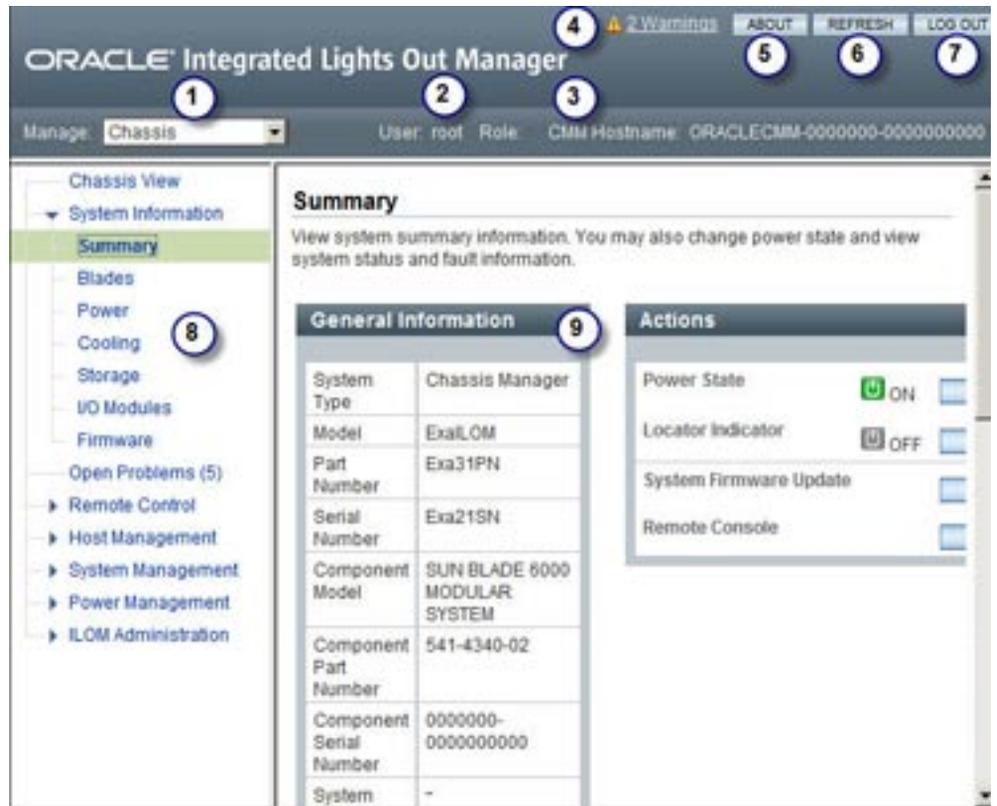
- 83 ページの「ネットワーク接続の問題: Oracle ILOM インタフェース」
- 27 ページの「コマンド行インタフェース (CLI) のターゲットネームスペースをナビゲートする」
- 『構成および保守』の「Oracle ILOM への管理接続の設定とログイン」
- 『構成および保守』の「CLI および Web セッションのデフォルトタイムアウト」
- 『構成および保守』の「root アカウントのパスワードの復旧」

## 再設計された 3.1 Web インタフェースをナビゲートする

- 18 ページの「Oracle ILOM 3.1 時点での再設計された Web インタフェース」
- 20 ページの「Sun 管理対象デバイス用の Web インタフェースナビゲーションオプション」
- 27 ページの「CMM Web インタフェース: ブレードサーバーのビュー」

## Oracle ILOM 3.1 時点での再設計された Web インタフェース

図1 再設計された 3.1 Web インタフェース



| 番号 | 説明   |
|----|--|
| 1  | 「 <b>Manage</b> 」リストボックス - Oracle ILOM に CMM 接続している場合にのみ表示されます。矢印をクリックするとシャーシ内のブレードが表示され、ブレードをクリックするとそのブレードが管理されます。  |
| 2  | 「 <b>User</b> 」および「 <b>Role</b> 」フィールド - Web インタフェースに現在ログインしているユーザーのユーザー名および役割を表示します。  |
| 3  | 「 <b>CMM Hostname</b> 」(CMM 接続の場合)または「 <b>Server</b> 」(SP 接続の場合) - CMM のホスト名またはサーバー SP を表示します。   |
| 4  | 「 <b>Warning</b> 」メッセージ - 管理している CMM または SP で Oracle ILOM が検出した警告の番号を表示します。「ILOM Administration」>「Notifications」ページで警告しきい値を定義し、警告を受け取るタイミングと場所を定義できます。詳細は、『構成および保守』の「警告通知とイベントログ用の Syslog サーバーの設定」を参照してください。 |
| 5  | 「 <b>About</b> 」ボタン - クリックすると、製品の著作権情報を表示します。  |

| 番号 | 説明   |
|----|--|
| 6  | 「Refresh」ボタンをクリックすると、インタフェースの内容ペインの情報をリフレッシュします。「Refresh」ボタンでは、ページ上で入力または選択した新しいデータは保存されません。 |
| 7  | 「Log Out」ボタンをクリックすると、Web インタフェースの現在のセッションを終了します。   |
| 8  | ナビゲーションペイン - Web インタフェースをナビゲートできる階層メニューで、Oracle ILOM 3.0 Web インタフェースのナビゲーションタブから置き換えました。     |
| 9  | 内容ペイン - ナビゲートした各ページの内容を表示します。  |

## Sun 管理対象デバイス用の Web インタフェースナビゲーションオプション

次の表に、Sun 管理対象デバイスで使用できる Web インタフェースナビゲーションオプションを示します。

注 - Web インタフェースに提供されている CMM および SP ナビゲーションオプションは、Sun 管理対象デバイスに現在インストールされている Oracle ILOM ファームウェアバージョンによって多少異なる場合があります。

表 3 管理対象デバイス用の Web インタフェースナビゲーションオプション

| 第 1 レベルのメニュー       | 第 2 および第 3 レベルのメニュー | 可能な操作   | 管理対象デバイス |
|--------------------|---------------------|---|----------|
| Chassis View       |                     | シャーシの前面図および背面図のグラフィカル表示を示し、シャーシに取り付けられているブレードおよび監視モジュールを含みます。 | CMM      |
| System Information |                     |   |          |

表3 管理対象デバイス用のWeb インタフェースナビゲーションオプション (続き)

| 第1レベルのメニュー | 第2および第3レベルのメニュー | 可能な操作  | 管理対象デバイス                  |
|------------|-----------------|--|---------------------------|
|            | Summary         | <p>システムのサマリーを表示します。次の操作も実行できます:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ システムの電源の状態をオフまたはオンにします。</li> <li>■ システムインジケータLEDをオンまたはオフにすることによって、シャーシ内のシステムの位置を特定します。</li> <li>■ システムファームウェアを更新します。</li> <li>■ リモートコンソールを起動します。</li> <li>■ 全般的なシステムステータスと、システム全体での問題の数を表示します。</li> </ul> | <p>サーバー SP</p> <p>CMM</p> |
|            | Blades          | ブレードシャーシ内のブレード、監視モジュール、およびNEMについてのサマリーおよび詳細情報を表示します。   | CMM                       |
|            | Processors      | システムのプロセッサについてのサマリーおよび詳細情報を表示します。  | サーバー SP                   |
|            | Memory          | システムに取り付けられているメモリーについてのサマリーおよび詳細情報を表示します。  | サーバー SP                   |
|            | Power           | システム内の電源についてのサマリーおよび詳細情報を表示します。  | <p>サーバー SP</p> <p>CMM</p> |
|            | Cooling         | システムを冷却するファンについてのサマリーおよび詳細情報を表示します。  | サーバー SP                   |

表 3 管理対象デバイス用の Web インタフェースナビゲーションオプション (続き)

| 第 1 レベルのメニュー    | 第 2 および第 3 レベルのメニュー | 可能な操作  | 管理対象デバイス       |
|-----------------|---------------------|--|----------------|
|                 | Storage             | SP または CM 内のストレージについてのサマリー情報を表示します。Oracle ILOM は次のストレージについて報告します: <ul style="list-style-type: none"> <li>■ ディスク</li> <li>■ ボリューム (論理ボリュームを含む)</li> <li>■ コントローラ</li> <li>■ エクスパンダ</li> </ul> | サーバー SP<br>CMM |
|                 | I/O Modules         | システム内の I/O モジュールについてのサマリーおよび詳細情報を表示します。  | CMM            |
|                 | Networking          | システムネットワークについてのサマリーおよび詳細情報を表示します。  | サーバー SP        |
|                 | PCI Devices         | システム内の PCI デバイスについてのサマリーおよび詳細情報を表示します。   | サーバー SP        |
|                 | Firmware            | 現在のファームウェアレベルを表示し、必要な場合はファームウェアの更新を選択します。  | サーバー SP<br>CMM |
| Open Problems   |                     | 障害状態のシステムおよびサブシステムに関する情報を表示します。  | サーバー SP<br>CMM |
| Remote Control  |                     |  |                |
|                 | Redirection         | 使用しているローカルコンピュータにシステムコンソールをリダイレクトすることにより、ホストをリモート管理します。  | サーバー SP<br>CMM |
|                 | KVMS                | キーボード、ビデオ、マウス、またはストレージデバイスのリモート管理状態を有効または無効にします。   | サーバー SP        |
| Host Management |                     |  |                |

表 3 管理対象デバイス用の Web インタフェースナビゲーションオプション (続き)

| 第 1 レベルのメニュー      | 第 2 および第 3 レベルのメニュー | 可能な操作  | 管理対象デバイス       |
|-------------------|---------------------|--|----------------|
|                   | Power Control       | 電源の状態 (「Immediate Power Off」、 「Graceful Shutdown and Power Off」、 「Power On」、 「Power Cycle」、 または 「Reset」) を選択します。 | サーバー SP<br>CMM |
|                   | Diagnostics         | x86 プロセッサベースのシステムまたは SPARC プロセッサベースのシステムの診断を有効または無効にします。   | サーバー SP        |
|                   | Host Control        | ホスト制御情報を表示および構成します。次のシステム電源投入時のブートデバイスを構成します。  | サーバー SP        |
| System Management | BIOS                | BIOS 構成のバックアップと復元を管理します。   | サーバー SP        |
|                   | SAS Zoning          | Zone Manager の設定を有効または無効にしたり、Zone Manager のパスワードをリセットしたりします。   | CMM            |
|                   | Policy              | シャワーシ電源の管理、電源装置ファンの強制的な高速または低速実行、特定の電源装置の監視などのシステムポリシーを有効または無効にします。  | サーバー SP<br>CMM |
| Power Management  | Consumption         | 実電力と許容電力の消費電力基準値を表示し、電子メール警告または SNMP 通知を生成するための消費電力しきい値を設定します。   | サーバー SP<br>CMM |
|                   | Limit               | サーバー電源の制限を表示または構成します。  | サーバー SP        |
|                   | Allocation          | 容量計画のためにシステム電力要件を表示します。  | サーバー SP<br>CMM |
|                   | Settings            | SPARC サーバーの消費電力のポリシーオプションを構成します。   | SPARC          |

表 3 管理対象デバイス用の Web インタフェースナビゲーションオプション (続き)

| 第 1 レベルのメニュー               | 第 2 および第 3 レベルのメニュー                 | 可能な操作   | 管理対象デバイス       |
|----------------------------|-------------------------------------|---|----------------|
|                            | Redundancy                          | CMM 電源装置の冗長性オプションを表示および構成します。   | CMM            |
|                            | Statistics                          | CMM および Sun サーバーの電力統計データを表示します。   | サーバー SP<br>CMM |
|                            | History                             | 消費電力の移動平均の履歴を表示します。   | サーバー SP<br>CMM |
| <b>ILOM Administration</b> |                                     |   |                |
|                            | Identification                      | ホスト名またはシステム識別子を割り当てることにより、サービスプロセッサの識別情報を入力または変更します。                    | サーバー SP<br>CMM |
|                            | Logs > Event                        | イベント ID、クラス、種類、重要度、日付と時間、イベントの説明を含む、特定の各イベントに関するさまざまな詳細を表示します。          | サーバー SP<br>CMM |
|                            | Logs > Audit                        | ユーザーログイン、ログアウト、構成変更などインタフェースに関するユーザーアクションを表示します。                        | サーバー SP<br>CMM |
|                            | Management Access > Web Server      | HTTP Web サーバーや HTTP ポートなど、Web サーバーの設定を編集または更新します。                       | サーバー SP<br>CMM |
|                            | Management Access > SSL Certificate | デフォルトの SSL 証明書に関する情報を表示するか、オプションで新しい SSL 証明書を検索および入力します。                | サーバー SP<br>CMM |
|                            | Management Access > SNMP            | SNMP の設定を編集または更新します。  | サーバー SP<br>CMM |
|                            | Management Access > SSH Server      | Secure Shell (SSH) サーバーのアクセスと鍵の生成を構成します。                                | サーバー SP<br>CMM |
|                            | Management Access > IPMI            | コマンド行インタフェースを使用して、サーバープラットフォームに関する情報を取得するだけでなく、サーバープラットフォームを監視および制御します。 | サーバー SP<br>CMM |

表 3 管理対象デバイス用の Web インタフェースナビゲーションオプション (続き)

| 第1レベルのメニュー | 第2および第3レベルのメニュー                     | 可能な操作  | 管理対象デバイス       |
|------------|-------------------------------------|--|----------------|
|            | Management Access > CLI             | CLI の設定を構成します。「Session Time-out」の値は、CLI の自動ログアウトが発生するまでのアイドル時間を分単位で示します。                       | サーバー SP<br>CMM |
|            | Management Access > WS-MAN          | WS-Management の設定を構成します。WS-Management は、サーバーとデバイスを管理するための Web サービスおよび SOAP ベースのプロトコルです。        | サーバー SP        |
|            | Management Access > Banner Messages | ログイン前に表示されるメッセージとユーザーログイン後に表示されるログインメッセージを表示および構成します。  | サーバー SP<br>CMM |
|            | User Management > Active Sessions   | 現在 Oracle ILOM にログインしているユーザーと、各ユーザーが開始したセッションの種類を表示します。  | サーバー SP<br>CMM |
|            | User Management > User Accounts     | ローカルの Oracle ILOM ユーザーアカウントを追加、削除、または変更します。  | サーバー SP<br>CMM |
|            | User Management > LDAP              | LDAP ユーザーの Oracle ILOM へのアクセスを構成します。   | サーバー SP<br>CMM |
|            | User Management > LDAP/SSL          | Secure Socket Layer (SSL) テクノロジーによって実現される高度なセキュリティ設定を使用して、LDAP ユーザーの Oracle ILOM へのアクセスを構成します。 | サーバー SP<br>CMM |
|            | User Management > RADIUS            | RADIUS ユーザーの Oracle ILOM へのアクセスを構成します。   | サーバー SP<br>CMM |
|            | User Management > Active Directory  | Active Directory ユーザーの Oracle ILOM へのアクセスを構成します。   | サーバー SP<br>CMM |
|            | Connectivity > Network              | Oracle ILOM およびローカル相互接続インタフェース設定の IPv4 と IPv6 のネットワーク設定を表示および編集します。                            | サーバー SP<br>CMM |
|            | Connectivity > DNS                  | ホスト名を指定し、ドメインネームサービス (DNS) を使用してそのホスト名を IP アドレスに解決します。   | サーバー SP<br>CMM |

表 3 管理対象デバイス用の Web インタフェースナビゲーションオプション (続き)

| 第 1 レベルのメニュー | 第 2 および第 3 レベルのメニュー                       | 可能な操作  | 管理対象デバイス       |
|--------------|---|--|----------------|
|              | Connectivity > Serial Port                | 内部および外部のシリアルポートのボーレートを表示および編集します。  | サーバー SP<br>CMM |
|              | Configuration Management > Backup/Restore | サービスプロセッサの構成を、セキュアな方法でリモートホストまたは取り外し可能なストレージデバイスにバックアップしたり復元したりします。                                  | サーバー SP<br>CMM |
|              | Configuration Management > Reset Defaults | サービスプロセッサの構成データを管理します。   | サーバー SP<br>CMM |
|              | Notifications > Alerts                    | それぞれの警告に関する詳細を表示したり、構成された警告のリストを変更したりします。  | サーバー SP<br>CMM |
|              | Notifications > Syslog                    | syslog メッセージの送信先となるサーバーのアドレスを構成します。  | サーバー SP<br>CMM |
|              | Notifications > SMTP Client               | 警告の電子メール通知の送信に使用する SMTP クライアントの状態を構成します。   | サーバー SP<br>CMM |
|              | Date and Time > Clock                     | Oracle ILOM クロックの時間を表示および手動で編集したり、Oracle ILOM クロックを NTP サーバーと同期させたりします。                              | サーバー SP<br>CMM |
|              | Date and Time > Timezone                  | サービスプロセッサによって表示されるタイムスタンプをほかの場所 (Oracle Solaris オペレーティングシステムなど) で作成されるログに対応付けできるように、特定のタイムゾーンを指定します。 | サーバー SP<br>CMM |
|              | Maintenance > Firmware Upgrade            | Oracle ILOM のファームウェアのアップグレードを取得する処理を開始します。   | サーバー SP<br>CMM |
|              | Maintenance > Reset Components            | サービスプロセッサおよび CMM コンポーネントをリセットします。  | サーバー SP<br>CMM |

表 3 管理対象デバイス用の Web インタフェースナビゲーションオプション (続き)

| 第 1 レベルのメニュー | 第 2 および第 3 レベルのメニュー    | 可能な操作  | 管理対象デバイス       |
|--------------|------------------------|--|----------------|
|              | Maintenance > Snapshot | 環境、ログ、エラー、および FRUID に関するデータを収集し、CLI を使用するか、ダウンロードされたファイルとして、USB フラッシュドライブまたは外部ホストに送信します。 | サーバー SP<br>CMM |

## CMM Web インタフェース: ブレードサーバーのビュー

CMM Web インタフェースは、Oracle ILOM ファームウェアバージョン 3.0.x および 3.1.x を実行しているブレードサーバーをサポートします。CMM Web インタフェースで Oracle ILOM 3.1 を実行中のブレードサーバーをクリックすると、新しく設計された 3.1 Web インタフェースが表示されます。CMM Web インタフェースで Oracle ILOM 3.0 を実行中のブレードサーバーをクリックすると、レガシーの 3.0 Web インタフェースが表示されます。

## コマンド行インタフェース (CLI) のターゲットネームスペースをナビゲートする

- 27 ページの「Oracle ILOM 3.1 CLI のターゲットネームスペース」
- 32 ページの「ターゲットにナビゲートしてターゲットのプロパティおよびサポートされるコマンドを一覧表示する」
- 34 ページの「レガシーターゲットを表示する」

## Oracle ILOM 3.1 CLI のターゲットネームスペース

次の表では、Sun サーバープラットフォームまたはブレードシャーシプラットフォームのいずれかに対して Oracle ILOM 3.1 で提供されている CLI 管理ターゲットネームスペース (システム内で管理可能なすべてのオブジェクトを含む階層ツリー) について説明します。次の表に一覧表示されているターゲットは、ツリー階層の最高レベルにあります。

| ターゲット    | 説明  |
|----------|---|
| /SP      | ラックマウントまたはブレードサーバーでは、このターゲットの下にあるターゲットおよびプロパティは、Oracle ILOM サービスプロセッサ (SP) の構成、ログの表示、コンポーネントの管理、およびコンソールへのアクセスに使用されます。  |
| /CMM     | ブレードシャーシでは、このターゲットが /SP に置き換わり、Oracle ILOM シャーシ管理モジュール (CMM) の構成に使用されます。  |
| /HOST    | ラックマウントまたはブレードサーバーでは、このターゲットの下にあるターゲットおよびプロパティは、ホストオペレーティングシステムを監視および管理するために使用されます。   |
| /System  | ラックマウントサーバー、ブレードサーバー、またはブレードシャーシでは、このターゲットの下にあるターゲットおよびプロパティは、インベントリのステータスおよび環境センサーの管理に使用されます。ファームウェアの保守やサービスタスクなど、一部の管理タスクも使用できます。このターゲットの下のターゲットは、ハードウェアコンポーネント (SP と CMM のいずれかにログインしているかによって、サーバーまたはシャーシのいずれか) の名前に直接対応しており、一部は物理的なハードウェアに出力されています。  |
| /Servers | ブレードシャーシでは、このターゲットの下のターゲットおよびプロパティは、インベントリのステータスおよび環境センサーの監視や、シャーシ内のブレードのコンポーネントの管理に使用されます。ブレードサービスプロセッサにログインしたときに通常表示されるターゲットが使用できます (/SP、/HOST、/System など)。サーバーに対して使用可能になっている場合は、レガシータラゲット (/SYS や /STORAGE など) も表示されます。  |
| /SYS     | これは Oracle ILOM 3.1 以前のレガシータラゲットで、CLI <code>legacy_targets</code> が (SP または CMM から) 有効にされている場合にのみ表示できます。ラックマウントまたはブレードサーバーでは、このターゲットの種類は /System タラゲットに似ていますが、Oracle ILOM 3.0 で使用可能なすべてのターゲットを含みます。このターゲットの下のターゲットおよびプロパティは、既存の Oracle ILOM ユーザースクリプトとの下位互換性を確保するために、(表示されていなくても) 常に使用できます。   |
| /STORAGE | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ ラックマウントまたはブレードサーバーでは、これは 3.1 以前のレガシータラゲットで、CLI <code>legacy_targets</code> が SP から有効にされている場合にのみ表示できます。このターゲットは /System/Storage タラゲットに似ており、Oracle ILOM の以前のバージョンで使用可能でした。このターゲットの下のターゲットおよびプロパティは、既存の Oracle ILOM ユーザースクリプトとの下位互換性を確保するために、(表示されていなくても) 常に使用できます。</li> <li>■ ブレードシャーシでは、このターゲットはシャーシストレージ (ストレージブレード上のストレージ) を管理するために使用されます。シャーシストレージはシャーシ内のブレードサーバーに割り当てることができます。</li> </ul> |

| ターゲット | 説明  |
|-------|---|
| /CH   | これは Oracle ILOM 3.1 以前のレガシータラゲットで、CLI <code>legacy_targets</code> が CMM から有効にされている場合にのみ表示できます。ブレードシャーシでは、このターゲットの下のターゲットおよびプロパティは、インベントリのステータスおよび環境センサーを監視したり、コンポーネント (BL など、設置されたサーバーまたはストレージブレードを示す) にアクセスして管理したりするために使用されます。このターゲットの下のターゲットは、ハードウェアコンポーネントの名前に直接対応します。 |

使用可能なターゲットの詳細については、次を参照してください:

- 29 ページの「デフォルトの Oracle ILOM 3.1 タラゲット」
- 31 ページの「レガシータラゲット」
- 32 ページの「ターゲットにナビゲートしてターゲットのプロパティおよびサポートされるコマンドを一覧表示する」
- 34 ページの「レガシータラゲットを表示する」

## デフォルトの Oracle ILOM 3.1 タラゲット

Oracle ILOM 3.1 以降がインストールされた状態で出荷されるサーバーおよびブレードシャーシのネームスペース階層の例を、次に示します。表示される実際のターゲットはシステム間で異なります。レガシータラゲットはデフォルトで非表示になります。

表 4 Oracle ILOM 3.1 CLI タラゲット

| サーバー (SP 経由で接続)       | ブレードシャーシ (CMM 経由で接続) |
|-----------------------|----------------------|
| <b>/HOST</b>          | <b>/STORAGE</b>      |
| bootmode (SPARC のみ)   | sas_zoning           |
| console               |                      |
| diag                  | <b>/System</b>       |
| domain (SPARC のみ)     | Cooling              |
| provisioning (x86 のみ) | Power                |
| tpm (SPARC のみ)        | Storage              |
|                       | Firmware             |
|                       | Open_Problems        |
|                       | IO_Modules           |
|                       | Blades               |

表 4 Oracle ILOM 3.1 CLI ターゲット (続き)

| サーバー (SP 経由で接続) | ブレードシャーシ (CMM 経由で接続) |
|-----------------|----------------------|
| <b>/System</b>  | <b>/CMM</b>          |
| Cooling         | alertmgmt            |
| Processors      | cli                  |
| Memory          | clients              |
| Power           | clock                |
| Storage         | config               |
| PCI_Devices     | diag                 |
| Firmware        | faultmgmt            |
| Networking      | firmware             |
| Open_Problems   | logs                 |
| BIOS (x86 のみ)   | network              |
| IO_Modules      | policy               |
|                 | powermgmt            |
|                 | preferences          |
|                 | serial               |
|                 | services             |
|                 | sessions             |
|                 | users                |
| <b>/SP</b>      | <b>/Servers</b>      |
| alertmgmt       | Blade_0              |
| cli             | Blade_1              |
| clients         | Blade_2              |
| clock           | Blade_3              |
| config          | Blade_4              |
| diag            | Blade_5              |
| faultmgmt       | Blade_6              |
| firmware        | Blade_7              |
| logs            | Blade_8              |
| network         | Blade_9              |
| policy          |                      |
| powermgmt       |                      |
| preferences     |                      |
| serial          |                      |
| services        |                      |
| sessions        |                      |
| users           |                      |

使用可能なターゲットの詳細については、次を参照してください:

- 27 ページの「Oracle ILOM 3.1 CLI のターゲットネームスペース」
- 31 ページの「レガシーターゲット」

## レガシータラゲツト

Oracle ILOM 3.1 より前のレガシータラゲツトの例を次に示します。ご使用のシステムが、Oracle ILOM 3.1 と一緒に出荷されたものか、以前のバージョンから 3.1 にアップグレードされたものかによっては、これらのネームスペースターゲットが、サーバーおよびブレードシャーシに対して非表示になることがあります。/SP/cli または /CMM/cli で legacy\_targets を有効にすることで、これらの非表示を解除できます。表示される実際のターゲットはシステム間で異なります。

| サーバー (SP 経由で接続) | ブレードシャーシ (CMM 経由で接続)   |
|-----------------|--|
| <b>/SYS</b>     | <b>/CH</b>   |
| MB              | CMM  |
| MB_ENV          | MIDPLANE   |
| SP              | BL <i>n</i> (サーバーブレードには <b>HOST</b> 、 <b>System</b> 、および <b>SP</b> タラゲツトがあります) |
| USBBD           |  |
| DVD             | BL <i>n</i> (ストレージブレードには <b>HDD</b> および格納装置 タラゲツトがあります)                        |
| PS <i>n</i>     |  |
| DBP <i>n</i>    | NEM <i>n</i>   |
| PWRBS           | FM <i>n</i>  |
| INSTSW          | PS <i>n</i>  |
| SASBP           | T_AMB  |
| PDB             | HOT  |
| CONNBD          | VPS  |
| FANBD           | OK   |
| VPS_CPUS        | SERVICE  |
| VPS_MEMORY      | TEMP_FAULT   |
| VPS             | LOCATE   |
| T_AMB           |  |
| OK              |  |
| LOCATE          |  |
| SERVICE         |  |
| PS_FAULT        |  |
| TEMP_FAULT      |  |
| FAN_FAULT       |  |
| <b>/STORAGE</b> |  |
| raid            |  |

使用可能なターゲットの詳細については、次を参照してください:

- [27 ページの「Oracle ILOM 3.1 CLI のターゲットネームスペース」](#)
- [29 ページの「デフォルトの Oracle ILOM 3.1 タラゲツト」](#)
- [34 ページの「レガシータラゲツトを表示する」](#)

## ターゲットにナビゲートしてターゲットのプロパティおよびサポートされるコマンドを一覧表示する

help コマンドを使用すると、システムの CLI ネームスペース内で使用可能なすべてのターゲットが、簡単な説明とともに一覧表示されます。

### help targets

cd コマンドを使用すると、ネームスペース階層をナビゲートできます。

たとえば、/SP の下の services ターゲットにナビゲートするには、次のようにします:

### cd /SP/services

show コマンド (または ls) を使用すると、services のすぐ下にあるターゲットと、services ターゲットで使用できるコマンドを一覧表示できます。

例:

```
-> show

/SP/services
Targets:
http
https
ipmi
kvm
servicetag
snmp
ssh
sso
wsman

Properties:

Commands:
cd
show

->
```

---

注-絶対パスを使用し、コマンドが目的のターゲットによってサポートされているかぎり、コマンドを CLI 階層の任意の場所で実行できます。前の例では、**show /SP/services** と入力しても同じ結果を得られます。

---

ターゲットがプロパティを持つ場合、show コマンドは、現在のプロパティと、ターゲットについてサポートされるコマンドを一覧表示するために使用されます。

たとえば、単純なリストを表示できます:

```
-> show http
/SP/services/http
Targets:

Properties:
port = 80
secureredirect = enabled
servicestate = disabled
sessiontimeout = 15

Commands:
cd
set
show

->
```

または、表出力を表示できます:

```
-> show -o table http
Target | Property | Value
-----+-----+-----
/SP/services/http | port | 80
/SP/services/http | secureredirect | enabled
/SP/services/http | servicestate | disabled
/SP/services/http | sessiontimeout | 15

->
```

help コマンドを使用すると、構成可能なすべてのプロパティ、サポートされる値、およびターゲットのプロパティを構成するための役割要件が表示されます。

---

注- 構成可能なプロパティがすべてのターゲットにあるわけではありません。一部は表示のみです。

---

たとえば、HTTP アクセス用の Oracle ILOM 内部 Web サーバーを構成するために、ターゲットについてのヘルプを取得するには、次のようにします:

```
-> help http

/SP/services/http : HTTP service
Targets:

Properties:
port : Port number for http service
port : User role required for set = a

secureredirect : HTTP secure redirect
secureredirect : Possible values = enabled, disabled
secureredirect : User role required for set = a
```

```
servicestate : HTTP service state
servicestate : Possible values = enabled, disabled
servicestate : User role required for set = a

sessiontimeout : Timeout in minutes for http session
sessiontimeout : Possible values = Range: 1-720 minutes
sessiontimeout : User role required for set = a
```

->

## 関連情報

- 27 ページの「Oracle ILOM 3.1 CLI のターゲットネームスペース」
- 34 ページの「レガシータラゲツトを表示する」
- 115 ページの「コマンド行インタフェースの使用」

## レガシータラゲツトを表示する

Oracle ILOM 3.1 では、/SYS、/STORAGE (サーバーの場合)、および /CH (ブレードシャーシの場合) のネームスペースは /System によって置き換えられました。/System ネームスペースは /SYS の簡素化バージョンで、簡潔さと使いやすさのために再設計されたものです。互換性を確保するために、/SYS、/STORAGE、および /CH ネームスペースターゲットが非表示の場合でも、Oracle ILOM 3.1 を実行中のシステム上でこれらのターゲットに対してコマンドを実行できます。これにより、Oracle ILOM 3.0 上で実行していたコマンドおよびスクリプトが Oracle ILOM 3.1 上で引き続き動作するようになります。

次のいずれかのコマンドを実行することによって、/SYS、/STORAGE、および /CH ネームスペースターゲットの非表示をオプションで解除できます。

- サーバーのサービスプロセッサの場合、次のように入力します:  
**set /SP/cli legacy\_targets=enabled**
- ブレードシャーシ CMM の場合、次のように入力します:  
**set /CMM/cli legacy\_targets=enabled**

---

注 - 以前のバージョンの Oracle ILOM から Oracle ILOM 3.1 にアップグレードしたシステムの場合、レガシータラゲツトはデフォルトで使用可能です。

---

## 関連情報

- 27 ページの「Oracle ILOM 3.1 CLI のターゲットネームスペース」
- 32 ページの「ターゲットにナビゲートしてターゲットのプロパティおよびサポートされるコマンドを一覧表示する」
- 115 ページの「コマンド行インタフェースの使用」

# システム情報の収集、健全性ステータスの監視、およびホスト管理の開始

| 説明   | リンク   |
|--|---|
| システム情報を収集し、サブコンポーネントの健全性の詳細を表示する方法が説明されているトピックについては、このセクションを参照してください。        | ■ <a href="#">35 ページの「情報とステータスの収集、および一般的なアクションの開始」</a>  |
| 未解決の問題を表示し、必要な保守作業を決定する方法が説明されているトピックについては、このセクションを参照してください。                 | ■ <a href="#">42 ページの「未解決の問題の管理」</a>                    |
| システムイベントとユーザーアクションに関するログエントリにアクセスして管理する方法が説明されているトピックについては、このセクションを参照してください。 | ■ <a href="#">47 ページの「Oracle ILOM のログエントリの管理」</a>       |
| 一般的なシステム管理アクションを Web インタフェースから実行する方法が説明されているトピックについては、このセクションを参照してください。      | ■ <a href="#">52 ページの「一般的に使用されるホスト管理アクションの実行 (Web)」</a> |

## 関連情報

- 『構成および保守』の「ホストサーバー管理操作の構成」
- 『構成および保守』の「システム管理ポリシー構成の設定」
- 『構成および保守』の「警告通知とイベントログ用の Syslog サーバーの設定」

## 情報とステータスの収集、および一般的なアクションの開始

Oracle ILOM インタフェースには、システム情報の表示、および一般的に使用されるホスト管理アクションの管理のために、次のようなアクセスしやすいプロパティが用意されています:

- Web インタフェースの「Summary」ページまたは CLI の /System ターゲットから、ひと目で、管理対象デバイスに関するシステム固有の情報を収集し、管理対象デバイスの健全性状態を判定し、管理対象デバイスに未解決の問題が検出された場合にそれらを表示できます。
- 「Summary」ページの「Actions」パネルから、ホストの電源状態やロケータ LED インジケータの状態など、一般的に使用されるホスト管理プロパティを表示および変更できます。また、ファームウェア更新の実行や Oracle ILOM リモートコンソールの起動など、一般的に使用されるシステム管理アクションを開始できます。

デバイス情報の収集方法、管理対象デバイスの健全性の監視方法、または一般的に使用されるホスト管理タスクの実行方法については、これらのトピックを参照してください:

- [36 ページの「システムレベルの情報と健全性ステータスを表示する \(Web\)」](#)
- [37 ページの「サブコンポーネントレベルの情報と健全性ステータスを表示する \(Web\)」](#)
- [38 ページの「システムレベルの情報と健全性ステータスを表示する \(CLI\)」](#)
- [39 ページの「サブコンポーネントレベルの情報と健全性ステータスを表示する \(CLI\)」](#)
- [41 ページの「健全性状態: 定義」](#)
- [52 ページの「一般的に使用されるホスト管理アクションの実行 \(Web\)」](#)

## ▼ システムレベルの情報と健全性ステータスを表示する (Web)

ホストサーバーまたは CMM に関するシステムレベルの健全性ステータスプロパティは、Web インタフェースの「Summary」ページから表示できます。

- 1 システムレベルの健全性ステータスの詳細を表示するには、「**System Information**」 > 「**Summary**」をクリックします。  
「Summary」ページが表示されます。
- 2 管理対象デバイスに関するシステム情報を収集するには、「**General Information**」テーブルに表示されるエントリを確認します。  
「General Information」テーブルに表示されるエントリには、モデル番号、シリアル番号、システムの種類、現在インストールされているファームウェア、インストールされているプライマリオペレーティングシステム、ホストの MAC アドレス、管理対象の SP または CMM の IP アドレス、管理対象の SP または CMM の MAC アドレスなどがあります。

---

注 - 管理対象デバイスにインストールされているプライマリオペレーティングシステムのプロパティ値は、管理対象デバイスに Oracle ILOM Hardware Management Pack がインストールされている場合にのみ表示されます。

---

- 3 管理対象デバイスに検出された問題を特定するか、問題の合計数を表示するには、「**Status**」テーブルに表示されるエントリを確認します。  
全体的な健全性ステータスと問題の合計数がテーブルの上部に表示されます。  
「**Status**」テーブルに報告されるサブコンポーネントカテゴリについて追加情報を表示するには、「**Subsystem**」列のリンクをクリックします。
- 4 管理対象デバイスにインストールされたファームウェア履歴を表示するには、「**System Information**」 > 「**Firmware**」をクリックします。

#### 参考 関連情報

- 41 ページの「健全性状態: 定義」
- 37 ページの「サブコンポーネントレベルの情報と健全性ステータスを表示する (Web)」
- 42 ページの「未解決の問題の管理」

## ▼ サブコンポーネントレベルの情報と健全性ステータスを表示する (Web)

ホストサーバーまたは CMM に関するサブコンポーネントレベルの健全性ステータスプロパティは、Web インタフェースの「**Summary**」ページから表示できます。

- 1 サブコンポーネントレベルの健全性ステータスプロパティを表示するには、「**System Information**」 > 「*subcomponent-category-name*」をクリックします。  
例:
  - SP ナビゲーションペインには、次のサブコンポーネント名が表示されます:  
Processors、Memory、Power、Cooling、Networking、Storage、および PCIe devices。  
ストレージデバイスについてサブコンポーネントレベルの健全性ステータスの詳細を表示するには、「**System Information**」 > 「**Storage**」をクリックします。
  - CMM ナビゲーションペインには、次のサブコンポーネント名が表示されます:  
Blades、Power、Cooling、Storage、および I/O Modules。  
I/O モジュールについてサブコンポーネントレベルの健全性ステータスの詳細を表示するには、「**System Information**」 > 「**I/O Modules**」をクリックします。

- 2 サブコンポーネントカテゴリのページでは、次のことが可能です:
  - サブコンポーネントカテゴリの全体的な健全性、および各カテゴリの取り付け済みサブコンポーネントの数を判定する。
  - 管理対象デバイスに現在取り付けられている各サブコンポーネントについて、健全性の詳細と取り付け位置を判定する。
  - テーブル内の「Details」リンクをクリックして、取り付け済みサブコンポーネントの詳細情報を表示する。

---

注 - Oracle ILOM 3.1.2 以降、「DIMM Details」ページでは、「DIMM Part Number」の値を記述するのに「= Oracle\_part number, vendor\_part\_number」という形式が使用されます。例: 5111616-01, M393B5270DH0-YK0。ここでは: 5111616-01 は Oracle のパート番号、M393B5270DH0-YK0 はベンダーのパート番号です。

---

## 参考 関連情報

- [41 ページの「健全性状態: 定義」](#)
- [42 ページの「未解決の問題の管理」](#)

## ▼ システムレベルの情報と健全性ステータスを表示する (CLI)

システムレベルのホスト健全性ステータスの CLI プロパティは、`/System` ターゲットで表示できます。

---

注 - また、管理対象デバイスが ILOM 3.0.x を以前サポートしていた場合、`/System` ターゲットの代わりに CLI レガシターゲット `/SYS` を使用できます。管理対象デバイスが Oracle ILOM 3.0 のバージョンを以前サポートしていなかった場合、レガシターゲット `/SYS` は Oracle ILOM 3.1 ではデフォルトで無効になっています。CLI レガシターゲット `/SYS` を有効にするには、[34 ページの「レガシターゲットを表示する」](#)を参照してください。

---

- システムレベルの情報を収集するか、システムの健全性ステータスを確認するには、次のように入力します:

**show /System**

例:

```
Properties:
  health = OK
  health_details = -
  open_problems_count = 0
  power_state = On
```

```
locator_indicator = Off
model = SUN FIRE X4270 M3
type = Rack Mount
part_number = 07011205
serial_number = 0328MSL-1119T4002F
system_identifier = (none)
system_fw_version = ILOM: 3.1.0.0
primary_operating_system = Not Available
host_primary_mac_address = Not Available
ilom_address = 10.123.45.255
ilom_mac_address = 00:12:34:D5:F2:F6
actual_power_consumption = 123 watts
action = (none)
```

---

注-管理対象デバイスにインストールされているプライマリオペレーティングシステムのプロパティ値は、管理対象デバイスに Oracle ILOM Hardware Management Pack がインストールされている場合にのみ表示されます。

---

## 参考 関連情報

- [41 ページの「健全性状態: 定義」](#)
- [39 ページの「サブコンポーネントレベルの情報と健全性ステータスを表示する \(CLI\)」](#)
- [42 ページの「未解決の問題の管理」](#)

## ▼ サブコンポーネントレベルの情報と健全性ステータスを表示する (CLI)

サブコンポーネントに関するホスト健全性ステータスの CLI プロパティは、`/System` ターゲットで表示できます。

- サブコンポーネントレベルの健全性の詳細に CLI からアクセスするには、次のように入力します:

```
show /System/subcomponent-category-name
```

`subcomponent-category-name` は、`show /System` の下にあるサブコンポーネントターゲット名のいずれかです。

例:

- メモリーに関するサーバーサブコンポーネントの健全性ステータスを表示するには、次のように入力します:

```
show /System/Memory
```

```
/System/Memory
Targets:
DIMMs
```

```
Properties:
health = OK
health_details = -
installed_memory = 16 GB
installed_dimms = 2
max_dimms = 16
```

```
Commands:
cd
show
```

- 特定の DIMM に関するサーバーサブコンポーネントの健全性ステータスを表示するには、次のように入力します:

```
show /System/Memory/DIMMs/DIMM_n
```

```
/System/Memory/DIMMs/DIMM_0
Targets:
```

```
Properties:
health = OK
health_details = -
part_number = 001-0003
serial_number = 00AD0111232F6E432B
location = P0/D0 (CPU 0 DIMM 0)
manufacturer = Hynix Semiconductor Inc.
memory_size = 8 GB
```

```
Commands:
cd
show
```

---

注 - Oracle ILOM 3.1.2 以降、DIMM\_n プロパティでは、part\_number の値を記述するのに「= Oracle\_part number, vendor\_part number」という形式が使用されます。例: 5111616-01, M393B5270DH0-YK0。ここでは: 5111616-01 は Oracle のパート番号、M393B5270DH0-YK0 はベンダーのパート番号です。

---

- ブレードシステムシャーシ内のすべてのブレードに関する健全性ステータスの詳細を表示するには、次のように入力します:

```
show -level all /System/Blades
```

```
/System/Blades
Targets:
Blade_0
Blade_1
```

```
Properties:
health = Service Required
health_details = BL1 (Blade 1) is faulty.
Type ?show /System/Open_Problems? for details.
installed_blades = 2
max_blades = 10
```

```
/System/Blades/Blade_0
```

Targets:

```
Properties:
health = OK
health_details = -
type = Storage Blade
model = ASSY,BLADE,X6275
location = BL0 (Blade 0)
actual_power_consumption = 10 watts
system_identifier = (none)
address = Not Available
part_number = 375-3604-01
serial_number = Not Available
```

/System/Blades/Blade\_1

Targets:

```
Properties:
health = Service Required
health_details = A device necessary to support a configuration
has failed. Type 'show /System/Open_Problems' for details.
type = Server Blade
model = SUN BLADE X6270 M2 SERVER MODULE
location = BL1 (Blade 1)
actual_power_consumption = 56 watts
system_identifier = ORACLESP-1044FMN00B
address = Not Available
part_number = 511-1418-03
serial_number = 000000-1042B903A6
```

Commands:

```
cd
show
```

## 参考 関連情報

- [41 ページの「健全性状態: 定義」](#)
- [42 ページの「未解決の問題の管理」](#)

## 健全性状態: 定義

| 健全性の状態           | 説明  |
|------------------|---|
| OK               | システムまたはサブコンポーネントは正常に動作しています。  |
| Service Required | <p>Oracle ILOM が管理対象デバイスに問題を検出し、その問題を解決するには保守作業が必要です。</p> <p>このステータスがシステムレベルで表示された場合は、管理対象デバイスに検出された未解決の問題を表示してください。</p> <p>このステータスが「Open Problems」テーブルに表示された場合は、テーブルに示された URL で追加の詳細を参照してください。</p> |

| 健全性の状態        | 説明  |
|---------------|---|
| Not Available | <p>Oracle ILOM ではこのコンポーネントの健全性ステータスを表示できません。</p> <p>Oracle ILOM は Hardware Management Pack のインストールを必要としている可能性があります。詳細は、次の場所にある Oracle Hardware Management のドキュメントライブラリを参照してください:<a href="http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ohmp&amp;26;id=homepage">http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ohmp&amp;26;id=homepage</a></p> |
| Offline       | <p>「Offline」は、シャーシサブコンポーネントの「Prepare to Remove」アクションの状態に適用されます。このステータスは、アクションプロパティが「Prepare to Remove」に設定され、物理サブコンポーネントがシャーシから物理的に取り外されていない場合に表示されます。</p> <p>注 - 保守作業(「Prepare to Remove」または「Return to Service」)のプロパティは、Oracle ILOM で管理されるすべてのシャーシサブコンポーネントでサポートされているわけではありません。</p>   |

## 関連情報

- [42 ページの「未解決の問題の管理」](#)

## 未解決の問題の管理

Oracle ILOM は、管理対象デバイス上のシステムハードウェア障害と環境条件を自動的に検出します。管理対象システムに問題が発生した場合、Oracle ILOM は自動的に次のようにします:

- 物理デバイスのサーバーアクション LED を点灯します。
- 読みやすい「Open Problems」テーブルで障害の状況を特定します。
- 障害の状況に関するシステム情報をイベントログに記録します。

障害のあるサーバーコンポーネントまたは障害のある Sun ブレードシャーシ現場交換可能ユニット (FRU) の修復 (または交換) が行われると、Oracle ILOM は「Open Problems」テーブルから障害状態を自動的にクリアします。

Oracle ILOM インタフェースで検出され報告された未解決の問題を管理する方法の詳細については、これらのトピックを参照してください:

- [43 ページの「未解決の問題の用語」](#)
- [43 ページの「管理対象デバイスに検出された未解決の問題を表示する」](#)

## 未解決の問題の用語

| 用語                  | 定義  |
|---------------------|---|
| 障害状態                | 障害状態は、コンポーネントは存在しているが、Oracle ILOM で1つ以上の問題が診断されたために使用できないか機能低下していることを示します。システムに損傷を与えないために、Oracle ILOM は自動的にコンポーネントを無効にします。  |
| 未解決の問題              | 未解決の問題とは、Web インタフェースの「Open Problems」ページまたは CLI に表示される「Open Problems」表形式出力を指します。<br><br>管理対象デバイスに問題が検出されると、Oracle ILOM は「Open Problems」CLI 出力または Web インタフェーステーブルで問題を特定します。 |
| Oracle ILOM 障害管理シェル | Oracle ILOM 障害管理シェルは、Oracle の保守担当者がシステムの問題を診断し、必要に応じて障害状態をオーバーライドできるようにします。お客様は、Oracle の保守担当者からリクエストがないかぎり、このシェルを使用しないでください。  |

### ▼ 管理対象デバイスに検出された未解決の問題を表示する

ホストサーバーまたはブレードシステムシャーシに検出された未解決の問題は、「Open Problems」Web ページまたは /System/Open\_problems CLI ターゲットから表示できます。

始める前に

- サーバーコンポーネントまたはブレードシャーシ FRU について「Open Problems」テーブルに報告された障害は、コンポーネントの修復または交換時に自動的にクリアーされます。
- ブレードシャーシの顧客交換可能ユニット (CRU) について「Open Problems」テーブルに報告された障害は、障害のある CRU の修復または交換後に「Open Problems」テーブルから手動でクリアーする必要があります。手順については、107 ページの「交換または修復された未検出のハードウェアコンポーネントについての障害をクリアーする」を参照してください。

CLI または Web インタフェースを使用して、ホストサーバーまたはブレードシステムシャーシの未解決の問題を表示するには、次の手順に従います:

- 1 次のいずれかを実行します:
  - **Web:**  
「System Information」 > 「Open Problems」 をクリックします。
  - **CLI:**  
次のように入力します: `show /System/Open_Problems`
- 2 「Open Problems」 Web ページおよび CLI ターゲットで次の情報が報告されます:
  - 検出された問題の合計数
  - 障害の発生した各コンポーネントのタイムスタンプ、名前、および CLI ターゲット
  - 障害の発生したコンポーネントのトラブルシューティングのための URL

#### 参考 関連情報

- 99 ページの「Oracle ILOM 障害管理シェルによる Sun ハードウェア障害の管理」
- 44 ページの「保守作業の管理:Sun ブレードシャーシ NEM」
- 『構成および保守』の「ファームウェア更新の実行」
- 『構成および保守』の「サーバー SP、NEM SP、または CMM の電源をリセットする」

## 保守作業の管理:Sun ブレードシャーシ NEM

Oracle ILOM には、Sun ブレードシャーシのネットワークエクスプレスモジュール (NEM) の取り外しまたはサービスへの復帰に使用する一連のプロパティが用意されています。このような NEM サービスプロパティの使用の詳細については、これらのトピックを参照してください:

- 44 ページの「NEM 保守作業プロパティ」
- 45 ページの「NEM の取り外しの準備またはサービスへの復帰 (Web)」
- 46 ページの「NEM の取り外しの準備またはサービスへの復帰 (CMM CLI)」

### NEM 保守作業プロパティ

| NEM のプロパティ                                      | 説明  |
|---|---|
| Prepare to Remove<br>(action=prepare_to_remove) | 物理 NEM が修復のためにブレードシャーシの NEM スロットから取り外されることを Oracle ILOM に通知します。 |

| NEMのプロパティ                                       | 説明   |
|---|--|
| Return to Service<br>(action=return_to_service) | 修復のために物理的に取り外されたNEMがブレードシャーシのNEMスロットに戻され、サービスの準備ができていないことを Oracle ILOM に通知します。 |

## ▼ NEM の取り外しの準備またはサービスへの復帰 (Web)

Oracle ILOM Web インタフェースの CMM プロパティを使用して、NEM の取り外しまたはサービスへの復帰のときのためにブレードシステムシャーシを準備します。

注 - NEM の取り外しまたはサービスへの復帰のための保守作業状態は、Oracle ILOM で管理されるすべての Sun ブレードシャーシ NEM でサポートされているわけではありません。

始める前に

- 44 ページの「NEM 保守作業プロパティ」を確認します。
- NEM の保守作業状態を変更するには、Oracle ILOM に Reset and Host Control (r) の役割が必要です。

- 1 CMM の Web インタフェースで、「System Information」>「I/O Modules」をクリックします。
- 2 「Network Express Module」テーブルで、次の手順を実行します:
  - a. 取り外しまたはサービスへの復帰が必要な NEM の横にあるラジオボタンをクリックします。  
テーブルでラジオボタンの選択を解除するには、ラジオボタンの列の最上部に表示される選択解除アイコンをクリックします。
  - b. アクションリストボックスをクリックし、「Prepare to Remove」または「Return to Service」のどちらかを選択します。  
確認のダイアログボックスが表示されます。
  - c. 確認ダイアログボックスで、「Yes」をクリックして続行します。  
選択したアクションに従って、NEM の健全性ステータスの状態が更新されます。詳細は、41 ページの「健全性状態: 定義」を参照してください。

## ▼ NEM の取り外しの準備またはサービスへの復帰 (CMM CLI)

Oracle ILOM CLI の CMM プロパティを使用して、NEM の取り外しまたはサービスへの復帰のときのためにブレードシステムシャーシを準備します。

---

注 - NEM の取り外しまたはサービスへの復帰のための保守作業状態は、Oracle ILOM で管理されるすべてのブレードシステムシャーシ NEM でサポートされているわけではありません。

---

始める前に

- 44 ページの「[NEM 保守作業プロパティ](#)」を確認します。
- NEM の保守作業状態を変更するには、Oracle ILOM に Reset and Host Control (r) の役割が必要です。

- 1 NEM の取り外しまたはサービスへの復帰を行うには、CMM CLI で次のいずれかのコマンドを入力します:

```
set /Systems/IO_Modules/NEMs/NEM_n action=prepare_to_remove|return to service
```

ここでは:

NEM\_n は、ブレードシャーシ内の NEM スロット番号と同等です。

変更を続行するかどうかを確認するプロンプトが表示されます。

---

注 - また、管理対象デバイスが ILOM 3.0.x を以前サポートしていた場合、/System ターゲットの代わりに CLI レガシターゲット /SYS を使用できます。管理対象デバイスが Oracle ILOM 3.0 のバージョンを以前サポートしていなかった場合、レガシターゲット /SYS は Oracle ILOM 3.1 ではデフォルトで無効になっています。CLI レガシターゲット /SYS を有効にする方法については、34 ページの「[レガシターゲットを表示する](#)」を参照してください。

---

- 2 プロンプトで **Yes** と入力して続行します。  
設定した保守作業に従って、NEM の健全性ステータスの状態が更新されます。
- 3 NEM の更新された健全性状態を確認するには、次のように入力します:

```
show /Systems/IO_Modules/NEMs/NEM_n health
```

健全性状態の詳細については、41 ページの「[健全性状態: 定義](#)」を参照してください。

## 参考 関連情報

- 『構成および保守』の「ブレードシャーシコンポーネントのファームウェアイメージを更新する」
- 『構成および保守』の「サーバー SP、NEM SP、または CMM の電源をリセットする」

## Oracle ILOM のログエントリの管理

Oracle ILOM では、イベントログ、監査ログ、および syslog の 3 つのシステム管理ログが維持されます。これらのログの詳細については、これらのトピックを参照してください:

- 47 ページの「Oracle ILOM: ログの説明」
- 48 ページの「Oracle ILOM: ログエントリ」
- 49 ページの「Oracle ILOM: ログのタイムスタンプ」
- 50 ページの「ログエントリを表示およびクリアする (Web)」
- 50 ページの「ログエントリを表示およびクリアする (CLI)」
- 51 ページの「ログエントリをフィルタリングする」

## Oracle ILOM: ログの説明

| ログ    | 説明   |
|-------|--|
| Event | <p>イベントログは、コンポーネントの追加または削除やコンポーネントの障害など、管理対象デバイスに関する情報、警告、またはエラーメッセージを追跡します。イベントログに記録されるイベントのプロパティには、イベントの重要度、イベントプロバイダ(クラス)、イベントが記録された日付と時間などがあります。</p> <p>イベントログは、問題が発生したときのシステムのトラブルシューティングに役立ちます。また、管理対象デバイスのパフォーマンスの監視に役立ちます。</p>                                   |
| Audit | <p>監査ログは、ユーザーのログイン、ログアウト、構成変更、パスワード変更など、インタフェース関連のすべてのユーザーアクションを追跡します。ユーザー操作を監視するユーザーインタフェースには、Oracle ILOM Web インタフェース、CLI、障害管理シェル (captive shell)、制限付きシェル、SNMP および IPMI クライアントインタフェースが含まれます。</p> <p>Oracle ILOM の監査ログは、ユーザーアクティビティを監査して権限違反が発生していないことを確認するために役立ちます。</p> |

| ログ     | 説明  |
|--------|---|
| syslog | <p>syslog は、イベントのログの一般的な機能セットと、ログエントリをリモートログホストに転送するためのプロトコルを定義します。</p> <p>Oracle ILOM の syslog は、複数の Oracle ILOM セッションのイベントを 1 箇所にまとめる場合に役立ちます。syslog に記録されるエントリには、ローカルのイベントログと同じ情報がすべて含まれています。</p> <p>注 - Oracle ILOM の syslog 機能はデフォルトでは無効になっています。Oracle ILOM で syslog のプロパティを構成する方法については、『構成および保守』の「警告通知とイベントログ用の Syslog サーバーの設定」を参照してください。</p> |

## Oracle ILOM: ログエントリ

| 列エントリ         | 説明  |
|---------------|---|
| Event ID      | 1 番から順番に付けられたイベントの番号。   |
| Date and Time | <p>イベントが発生した日付と時間。時間情報プロトコル (NTP) サーバーで Oracle ILOM 時間を設定できる場合、Oracle ILOM クロックは協定世界時 (UTC) を使用します。</p> <p>タイムスタンプの詳細については、<a href="#">49 ページ</a>の「Oracle ILOM: ログのタイムスタンプ」を参照してください。</p> |

| 列エントリ    | 説明   |
|----------|--|
| Class    | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>Audit/Log</b> – 構成が変更されるコマンド。説明には、ユーザー、コマンド、コマンドパラメータ、および成功と失敗が記述されます。</li> <li>■ <b>IPMI/Log</b> – IPMI SEL に記録されたイベントは、管理ログにも記録されます。</li> <li>■ <b>Chassis/State</b> – インベントリの変更および全般的なシステム状態の変更。</li> <li>■ <b>Chassis/Action</b> – サーバーのモジュール/シャーシの停止イベント、FRU コンポーネントのホットインサート/リムーブ、および押された「Reset Parameters」ボタンのカテゴリ。</li> <li>■ <b>Fault/Fault</b> – 障害管理の障害。説明には、障害が検出された時間および疑わしいコンポーネントが記述されます。</li> <li>■ <b>Fault/Repair</b> – 障害管理の修復。説明にはコンポーネントが表示されます。</li> </ul> |
| Type     | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>Log</b> – イベントログを表します。</li> <li>■ <b>UI</b> – 監査ログを表します。</li> </ul>  |
| Severity | 「Debug」、「Down」、「Critical」、「Major」、または「Minor」。  |

## Oracle ILOM: ログのタイムスタンプ

ローカルシステムのタイムスタンプは、デフォルトでは、ホストサーバーのシステムクロックの UTC/GMT タイムゾーンを使用して Oracle ILOM のログファイルに取り込まれます。ただし、別のタイムゾーンにあるリモートクライアントからログファイルが表示される場合、Oracle ILOM はログファイルのタイムスタンプを自動的に調整して、リモートクライアントとホストシステムのローカルタイムゾーンを反映します。この場合、一覧表示されるイベントエントリごとに2つのタイムスタンプがログに表示されます。Oracle ILOM では、時間情報プロトコル (NTP) サーバーを使用してリモートルーターのタイムスタンプを取り込むことができます。Oracle ILOM でログエントリのタイムスタンプを取り込む方法を変更する方法については、『構成および保守』の「SP または CMM クロックのプロパティの設定」を参照してください。

## ▼ ログエントリを表示およびクリアーする (Web)

ホストサーバーまたはブレードシステムシャーシのイベントログおよび監査ログのエントリは、サーバー SP または CMM の Web インタフェースから表示できます。

始める前に

- ログエントリをクリアーするには、Admin (a) の役割権限が必要です。

サーバー SP または CMM の Web インタフェースを使用してログエントリを表示およびクリアーするには、次の手順に従います:

- 1 イベントログと監査ログのエントリを表示するには、「**ILOM Administration**」 > 「**Logs**」をクリックし、「**Event**」または「**Audit**」タブをクリックします。  
クリックしたタブに応じて、「**Event Log**」または「**Audit Log**」ページが表示されます。
- 2 イベントログまたは監査ログに表示されるすべてのログエントリをクリアーするには、ログテーブルの「**Clear Log**」ボタンをクリックし、表示されるメッセージボックスで「**OK**」をクリックします。  
ログからすべてのエントリがクリアーされます。

### 参考 関連情報

- [51 ページの「ログエントリをフィルタリングする」](#)
- 『構成および保守』の「イベントログ用の Syslog の構成」
- 『構成および保守』の「SP または CMM クロックのプロパティの設定」

## ▼ ログエントリを表示およびクリアーする (CLI)

ホストサーバーまたはブレードシステムシャーシのイベントログおよび監査ログのエントリは、サーバー SP の CLI から表示できます。

始める前に

- ログエントリをクリアーするには、Admin (a) の役割権限が必要です。

サーバー SP または CMM の CLI を使用してログエントリを表示およびクリアーするには、次の手順に従います:

- 1 イベントログおよび監査ログのエントリを表形式の CLI リストで表示するには、次のいずれかを入力します:
  - **show /SP/Logs/event/list**

- `show /CMM/Logs/event/list`
- `show /SP/Logs/audit/list`
- `show /CMM/Logs/audit/list`

リストをスクロールするには q キー以外の任意のキーを押します。

- 2 表示されるログエントリをクリアするには、`clear=true` コマンドを使用し、プロンプトで `y` と入力します。

例:

- `set /SP/Logs/event/ clear=true`
- `set /CMM/Logs/event clear=true`
- `set /SP/Logs/audit clear=true`
- `set /CMM/Logs/audit clear=true`

## 参考 関連情報

- [51 ページの「ログエントリをフィルタリングする」](#)
- 『構成および保守』の「イベントログ用の Syslog の構成」
- 『構成および保守』の「SP または CMM クロックのプロパティの設定」

## ▼ ログエントリをフィルタリングする

サーバー SP または CMM のログエントリをフィルタリングするためのプロパティは、CLI と Web インタフェースで使用できます。

サーバー SP または CMM のログエントリをフィルタリングするには、次の手順に従います:

- イベントログまたは監査ログのエントリをフィルタリングするには、次のいずれかを実行します:
  - **Web:**  
ログテーブルの上部にあるコントロールをクリックします。
  - **CLI:**  
`show` コマンドに続けて、次のフィルタプロパティを 1 つ以上入力します:  
「Class」、「Type」、「Severity」。

例:

- ログエントリを「Class」でフィルタリングするには、次のように入力します:  
`show /SP|CMM/logs/event|audit/list Class==value`
- ログエントリを「Class」と「Type」でフィルタリングするには、次のように入力します:  
`show /SP|CMM/logs/event|audit/list Class==value Type==value`
- ログエントリをすべてのフィルタプロパティでフィルタリングするには、次のように入力します:  
`show /SP|CMM/logs/event|audit/list Class==value Type==value Severity==value`

ここでは:

- SP|CMMには、SPまたはCMMのどちらかを入力します。
- event|auditには、イベントログをフィルタリングする場合はeventと入力し、監査ログをフィルタリングする場合はauditと入力します。

#### 参考 関連情報

- [50 ページの「ログエントリを表示およびクリアーする \(Web\)」](#)
- [50 ページの「ログエントリを表示およびクリアーする \(CLI\)」](#)

## 一般的に使用されるホスト管理アクションの実行 (Web)

Oracle ILOM Web インタフェースの「Summary」ページにある「Actions」パネルは、次のことに使用できます:

- 管理対象デバイスの電源の状態やロケータインジケータ LED の状態など、一般的に使用されるシステムプロパティの状態を表示および変更する。
- 管理対象デバイスに現在インストールされているファームウェアイメージを更新する。
- Oracle ILOM リモートコンソールまたは x86 Oracle System Assistant を起動する。

---

注 - Oracle ILOM リモートコンソールを「Actions」パネルから起動する Web インタフェース機能は、Oracle ILOM CMM からは使用できません。Oracle ILOM System Assistant を「Actions」パネルから起動する Web インタフェース機能は、Oracle ILOM x86 サーバー SP からのみ使用できます。

---

一般的に使用されるこれらのホスト管理アクションを Web インタフェースの「Summary」ページの「Actions」パネルから開始する方法の詳細については、これらのトピックを参照してください:

- 53 ページの「デバイスの電源状態を「Actions」パネルから表示および変更する (Web)」
- 54 ページの「デバイスのロケータ状態を「Actions」パネルから表示および変更する (Web)」
- 55 ページの「デバイスのファームウェアを「Actions」パネルから更新する (Web)」
- 58 ページの「Oracle ILOM リモートコンソールを「Actions」パネルから起動する (Web)」
- 60 ページの「x86 Oracle System Assistant を起動する」

## ▼ デバイスの電源状態を「Actions」パネルから表示および変更する (Web)

ホストサーバーまたは CMM に関する「Power」状態プロパティは、Web インタフェースの「Summary」ページの「Actions」パネルから表示および構成できます。

始める前に

- 管理対象デバイスの電源状態を変更するには、Oracle ILOM に Admin (a) の役割権限が必要です。

---

注 - また、「Host Management」>「Remote Power Control」ページまたは CLI の /System ターゲットから管理対象デバイスの電源状態を変更することもできます。これらの代替方法を使用して電源状態を制御する詳細については、この手順の後の「関連情報」セクションのトピックを参照してください。

---

- 1 管理対象デバイスの電源状態を表示するには、「System Information」>「Summary」をクリックします。  
管理対象デバイスの現在の電源状態が「Actions」パネルに表示されます。
- 2 表示された管理対象デバイスの電源状態を変更するには、次のいずれかを実行します:
  - 「Actions」パネルで電源状態がオンに設定されている場合 - 「Turn Off」ボタンをクリックしてオペレーティングシステムの正常な停止を実行してから、ホストサーバーの電源を切断します。

---

注-ホストサーバーの電源停止に失敗する場合は、「Host Management Power Control」ページの「Immediate Power Off」をクリックして電源を強制的に停止できます。

---

- 「Actions」パネルで電源状態がオフに設定されている場合-「Turn On」ボタンをクリックしてホストサーバーに電源を再投入します。

続行するかどうかを確認するプロンプトが表示されたら、「Yes」をクリックして続行するか、「No」をクリックして操作を取り消します。

#### 参考 関連情報

- 『構成および保守』の「サーバーまたはブレードシステムシャーシに対するホスト電源の制御」

## ▼ デバイスのロケータ状態を「Actions」パネルから表示および変更する (Web)

ホストサーバーまたはCMMに関する「Locator Indicator」状態プロパティは、Webインタフェースの「Summary」ページの「Actions」パネルから表示および構成できます。

始める前に

- ロケータインジケータ状態を変更するには、Oracle ILOMにUser Management (u)の権限が必要です。
- 管理対象デバイス上の物理的なロケータインジケータLEDは、通常はデバイスのフロントパネルとバックパネルの両方にあります。

---

注-または、CLIの/Systemターゲットからロケータインジケータ状態を表示および変更することもできます。手順については、この手順の後の「関連情報」セクションのトピックを参照してください。

---

- 1 管理対象デバイスの現在のロケータインジケータ状態を表示するには、「System Information」>「Summary」をクリックします。

管理対象デバイスの現在のロケータインジケータ状態が「Actions」パネルに表示されます。

- 2 「Actions」パネルに表示されたロケータインジケータ状態を変更するには、ロケータの「Turn Off|ON」ボタンをクリックします。

続行するかどうかを確認するプロンプトが表示されたら、「Yes」をクリックして続行するか、「No」をクリックして操作を取り消します。

## 参考 関連情報

- 『クイックスタート』の「「Locator」 LED を使用して管理対象デバイスを探す」
- 『構成および保守』の「ホストサーバー管理操作の構成」

## ▼ デバイスのファームウェアを「Actions」パネルから更新する (Web)

ホストサーバーまたは CMM に関する「System Firmware Update」プロパティは、Web インタフェースの「Summary」ページの「Actions」パネルから表示および構成できます。

始める前に

- プラットフォームで必要になる場合は、サーバー SP のファームウェアイメージを更新する前に、ホストオペレーティングシステムを停止します。
- ログエントリをクリアするには、Admin (a) の役割権限が必要です。
- ファームウェア更新処理の完了には、数分かかります。この間、ほかの Oracle ILOM タスクを実行しないでください。ファームウェアの更新が完了すると、システムがリブートします。

---

注-または、Web インタフェースの「ILOM Administration」>「Maintenance」>「Firmware Upgrade」ページからファームウェアの更新プロセスを起動することもできます。また、Oracle ILOM CLI からファームウェアの更新プロセスを起動することもできます。詳細は、この手順の後の「関連情報」セクションのトピックを参照してください。

---

Web インタフェースの「Summary」ページの「Actions」パネルからファームウェアの更新プロセスを開始するには、次のようにします:

- 1 サーバー SP または CMM にインストールされている現在のファームウェアバージョンを判定します。

Web インタフェースから「System Information」>「Summary」をクリックし、「General Information」テーブルの「System Firmware Version Installed」値を確認します。

- 2 新しい Web ブラウザのタブまたはウィンドウを開き、次のサイトにナビゲートして Oracle ILOM ファームウェアイメージをダウンロードします:

<http://support.oracle.com/>

「My Oracle Support」Web サイトからソフトウェアの更新をダウンロードする方法の詳細は、6 ページの「製品のソフトウェアおよびファームウェアのダウンロード」を参照してください。

---

注- 管理対象デバイスのシステムファームウェアイメージを以前のファームウェアリリースに更新することは推奨されません。ただし、以前のファームウェアリリースが必要な場合、Oracle ILOM はダウンロードサイトから入手できる以前のファームウェアリリースへのファームウェア更新処理をサポートします。

---

- 3 **TFTP、FTP、HTTP、HTTPS** プロトコルのいずれかをサポートするサーバーにファームウェアイメージを配置します。

Web インタフェースでファームウェアを更新する場合は、Oracle ILOM Web ブラウザが動作しているシステムにイメージをコピーするようにしてください。
- 4 **Web** インタフェースの「**Summary**」ページの「**Actions**」パネルから **Oracle ILOM** ファームウェアイメージを更新するには、「**System Information Summary**」をクリックし、次の手順を実行します:
  - a. 「**Actions**」パネルで、「**System Firmware Update**」の「**Update**」ボタンをクリックします。

「Firmware Upgrade」ページが表示されます。
  - b. 「**Firmware Upgrade**」ページの「**Enter Upgrade Mode**」をクリックします。

更新プロセスが完了すると、ログインしているほかのユーザーのセッションが切断されることを示す「**Upgrade Verification**」ダイアログボックスが表示されます。
  - c. 「**Upgrade verification**」ダイアログボックスで、「**OK**」をクリックして続行します。

「Firmware Upgrade」ページが表示されます。
- 5 次の操作を実行します:
  - a. 次のいずれかの手順を実行して、イメージの場所を指定します:
    - 「**Browse**」をクリックし、インストールするファームウェアイメージの場所を選択します。
    - 使用しているシステムでサポートされている場合は、「**Specify URL**」をクリックします。テキストフィールドに、ファームウェアイメージがある **URL** を入力します。
  - b. ファイルのアップロードと検証のために「**Upload**」ボタンをクリックし、ファイルがアップロードされ検証されるまで待ちます。

「Firmware Verification」ページが表示されます。

6 次の任意のオプションを有効にします:

- **Preserve Configuration – Oracle ILOM** の既存の構成を保存して更新プロセスの完了後に復元する場合は、このオプションを有効にします。
- **Delay BIOS upgrade until next server power-off** – システムが次にリブートするまで BIOS のアップグレードを延期する場合は、このオプションを有効にします。

---

注 - 「Delay BIOS upgrade」オプションは、管理対象の x86 Sun サーバー上でファームウェアを更新する場合にのみ表示されます。

---

---

注 - x86 Sun サーバーの場合、Oracle ILOM は、管理対象デバイスの現在の BIOS プロパティを保持するかどうかを確認するプロンプトを表示します。「Yes」と回答すると、Oracle ILOM はファームウェア更新の完了後に現在の BIOS プロパティを保持します。「No」と回答すると、Oracle ILOM はファームウェア更新の完了後に BIOS プロパティを出荷時のデフォルトに設定します。

---

7 「**Start Upgrade**」をクリックして、アップグレードプロセスを開始するか、「**Exit**」をクリックしてプロセスを取り消します。

「Start Upgrade」をクリックすると、アップグレードプロセスが開始され、プロセスの続行を確認するプロンプトが表示されます。

8 プロンプトで「**OK**」をクリックして続行します。

「Update Status」ページが表示され、更新の進捗状況が表示されます。更新の進捗状況が 100% を示すと、ファームウェアのアップロードは完了です。

アップロードが完了すると、システムは自動的にリブートします。

---

注 - 更新の完了後、Oracle ILOM の Web インタフェースが正しくリフレッシュされないことがあります。Oracle ILOM の Web ページで情報が欠落している場合やエラーメッセージが表示される場合は、更新前のバージョンのキャッシュされているページが表示されている可能性があります。ブラウザのキャッシュをクリアしてブラウザをリフレッシュしてから、続行してください。

---

9 **Oracle ILOM SP** または **CMM** の Web インタフェースに再接続します。「**System Information**」 > 「**Summary**」をクリックして、**SP** または **CMM** のファームウェアバージョンが、インストールしたファームウェアのバージョンと一致することを確認します。

## 参考 関連情報

- 『構成および保守』の「ファームウェア更新の実行」
- 『構成および保守』の「ファームウェア更新時のネットワーク障害から回復する」
- 『構成および保守』の「サーバー SP または CMM のファームウェアイメージを更新する」
- 『SNMP、IPMI、CIM、WS-MAN プロトコル管理』の「Oracle ILOM ファームウェアを更新する (SNMP)」

## ▼ Oracle ILOM リモートコンソールを「Actions」パネルから起動する (Web)

サーバー SP と CMM の両方の「Summary」ページの「Actions」パネルに、Oracle ILOM リモートコンソールを起動するための「Remote Console」ボタンが用意されています。

x86 システムの管理者は「Actions」パネルの「Remote Console」ボタンを使用して、ビデオベースのリダイレクションセッションを起動できます。SPARC システムの管理者は「Actions」パネルの「Remote Console」ボタンを使用して、ビデオベースまたはシリアルベースのリダイレクションセッションを起動できます。CMM システムの管理者は「Actions」パネルの「Remote Console」ボタンを使用して、管理対象のブレードシステムサーバー SP ごとに個別のリダイレクションセッションを起動できます。

Oracle ILOM リモートコンソールは、ホストサーバーのキーボード、ビデオ、マウス、およびストレージデバイスのリモートリダイレクションを提供します。

始める前に

- はじめて使用する場合は、次の要件が満たされている必要があります:
  - ローカルシステムに Java Runtime Environment (1.5 以降) がインストールされている必要があります。Java 1.5 Runtime Environment をダウンロードするには、<http://java.com> にアクセスしてください。
  - 32 ビット JDK ブラウザプラグインの登録。詳細は、『構成および保守』の「Oracle ILOM リモートコンソールの最初の設定」を参照してください。
  - Oracle ILOM のデフォルトの KVMS 設定が、使用しているデスクトップ環境と一致することの確認。詳細は、『構成および保守』の「Oracle ILOM リモートコンソールの最初の設定」を参照してください。

- SPARC サーバー SP の「Actions」パネルの「Remote Console」ボタンは、「Remote Control」>「Launch Redirection」Web ページでシリアルリダイレクションセッションのプロパティが有効になっていないかぎり、デフォルトでビデオベースのリダイレクションセッションを起動します。

Web インタフェースの「Actions」パネルから Oracle ILOM リモートコンソールを起動するには、次の手順を実行します:

- 1 Web インタフェースの「Actions」パネルにアクセスするには、「System Information」>「Summary」ページをクリックします。  
「Summary」ページの右上隅に「Actions」パネルが表示されます。

---

注-または、「Remote Control」>「Launch redirection」Web ページの「Launch Remote Console」をクリックして、Oracle ILOM リモートコンソールを Web インタフェースから起動することもできます。

---

- 2 「Actions」パネルから Oracle ILOM リモートコンソールを起動するには、リモートコンソールの「Launch」ボタンをクリックします。

---

注-はじめて使用するとき Web ブラウザの 32 ビット JDK プラグインが構成されていない場合には、「Opening jnlpgenerator.cli」のダイアログが表示されます。「OK」をクリックして続行する前に、『構成および保守』の「Oracle ILOM リモートコンソールの最初の設定」で説明されているブラウザの JDK プラグインの構成オプションを確認してください。

---

「Oracle ILOM Remote Console」ウィンドウが表示され、ホストサーバー SP のリダイレクションセッションが表示されます。

---

注-リダイレクションセッションが CMM から起動された場合は、サーバー SP ごとに個別のリダイレクションセッション (タブ) が「Oracle ILOM Remote Console」ウィンドウに表示されます。

---

リダイレクションセッションは、ホストサーバーのデスクトップを現在の状態で表示します。たとえば、ホストサーバーが電源投入中の場合は一連のブートメッセージが表示され、ホストサーバーのオペレーティングシステムに電源が投入されている場合はデスクトップのログインダイアログが表示され、ホストサーバーに電源が投入されていない場合は空白の画面が表示されます。

- 3 **Oracle ILOM** リモートコンソールを使用するには、「**Redirection**」、「**Device**」、および「**Keyboard**」メニューのオプションを使用します。

Oracle ILOM リモートコンソールのメニューオプションの詳細については、『構成および保守』の「Oracle ILOM リモートコンソールの起動と使用」を参照してください。

#### 参考 関連情報

- 『構成および保守』の「リモート KVMS コンソールを使用したホストサーバーのリダイレクション」
- 『構成および保守』の「ホストサーバーのデスクトップをセキュリティー保護するためにロックモードを設定する (省略可能)」

## ▼ **x86 Oracle System Assistant** を起動する

Oracle System Assistant は、オペレーティングシステムのインストール、ファームウェアの更新、RAID の構成など、サーバーのプロビジョニングのための機能を提供するツールです。これらの機能の詳細については、使用している x86 サーバーの管理ガイドを参照してください。

始める前に

- Oracle System Assistant の「Launch」オプションが Oracle ILOM に表示されるのは、ホストの x86 サーバーに Oracle System Assistant が存在する場合だけです。
- ホストサーバーのホストオペレーティングシステムの電源を切断します。この手順を実行する前にホスト OS の電源を切断しないと、Oracle ILOM では Oracle System Assistant を起動する前にホストの電源切断を求めるプロンプトが表示されます。
- Oracle System Assistant を起動するときに、新しい Oracle ILOM リモートコンソールセッションの起動を求めるプロンプトが表示されます。したがって、Oracle System Assistant を起動する前に、Oracle ILOM リモートコンソールの起動および使用のセットアップ要件 (JDK バージョン、ブラウザの Java プラグイン、および KVMS 設定) が満たされていることを確認してください。これらの要件の詳細については、58 ページの「Oracle ILOM リモートコンソールを「Actions」パネルから起動する (Web)」を参照してください。
- Oracle System Assistant を起動するには、Oracle ILOM に Admin (a) の役割が必要です。Oracle ILOM リモートコンソールを起動するには、Console (c) の役割が必要です。

この手順では、Web と CLI の両方の手順について説明します。

- **Oracle System Assistant** を起動するには、次の **Oracle ILOM** インタフェース手順のいずれかを実行します:

| Oracle ILOM インタフェース | Oracle System Assistant の起動手順  |
|---------------------|--|
| Web                 | <p>a. 「System Information」 &gt; 「Summary」 ページにある「Actions」パネルで、Oracle System Assistant の「Launch」 ボタンをクリックします。次のプロンプトが1つまたは複数表示されます:</p> <p>「Power off host」プロンプト: このプロンプトは、この手順を実行する前にホストサーバーの電源が切断されていなかった場合にのみ表示されます。「OK」をクリックしてホストサーバーの電源を切断します。</p> <p>「Launch a new Oracle ILOM Remote Console」プロンプト: このプロンプトは、Oracle ILOM リモートコンソールを起動する前に表示されます。</p> <p>注 - 次の動作が発生することがあります: 1) 「電源状態を取得できない」という警告メッセージが表示される、および 2) 「Actions」パネルの「Power」に電源切断状態が表示される。この動作が発生した場合、その原因は Oracle ILOM が一時的にホストサーバーの情報を取得できないためです。この場合には、警告メッセージの「OK」をクリックして Oracle System Assistant の起動を続行します。「Summary」ページに戻ったら、「Refresh」をクリックして、「Actions」パネルに表示されるホストの電源状態を更新します。</p> <p>b. Oracle ILOM により、Oracle System Assistant が「Oracle ILOM Remote Console」ウィンドウで起動されます。</p> <p>Oracle System Assistant の使用手順については、x86 サーバーの管理ガイドを参照してください。</p> |
| CLI                 | <p>a. Oracle ILOM CLI で次のように入力します:</p> <pre>start /HOST/provisioning/system-assistant</pre> <p>次のプロンプトが表示されます:</p> <pre>Are you sure that you want to start /HOST/provisioning/system-assistant (y/n)?</pre> <p>b. <b>y</b> と入力して Oracle System Assistant を起動します (または、<b>n</b> と入力して操作を取り消します)。</p> <p>Oracle ILOM により、Oracle System Assistant が起動されます。</p> <p>Oracle System Assistant の使用手順については、x86 サーバーの管理ガイドを参照してください。</p>   |

## 参考 関連情報

- Sun x86 サーバーの管理ガイド、Oracle System Assistant



# ホストおよびシステムの管理アクションの適用

| 説明   | リンク   |
|--|---|
| ホスト管理アクションのプロパティの設定方法を説明する Oracle ILOM 構成トピックへのリンクについては、このセクションを参照してください。  | ■ <a href="#">63 ページの「ホスト管理構成アクションの管理」</a>  |
| サーバー管理アクションのプロパティの設定方法を説明する Oracle ILOM 構成トピックへのリンクについては、このセクションを参照してください。 | ■ <a href="#">64 ページの「システム管理構成アクションの管理」</a> |

## 関連情報

- 『構成および保守』の「システム管理ポリシー構成の設定」
- 『構成および保守』の「x86 BIOS 構成パラメータの保守」
- 『構成および保守』の「ホストサーバー管理操作の構成」
- 『構成および保守』の「Oracle ILOM の保守および構成管理タスクの実行」

## ホスト管理構成アクションの管理

| 説明   | リンク   |
|--|---|
| ラック搭載型およびブレードシャーシ電力プロパティの制御手順については、このセクションを参照してください。 | ■ 『構成および保守』の「サーバーまたはブレードシステムシャーシに対するホスト電源の制御」 |
| 次のブートデバイスの制御手順については、このセクションを参照してください。                | ■ 『構成および保守』の「x86 ホストサーバーの次のブートデバイスの設定」        |
| 管理対象サーバーで SP 診断を有効にする手順については、このセクションを参照してください。       | ■ 『構成および保守』の「実行するホスト診断テストの設定」                 |

| 説明   | リンク  |
|--|--|
| <p>SPARC ホストのブート、ホストドメイン、KeySwitch、および TPM プロパティの管理手順については、これらのセクションを参照してください。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 『構成および保守』の「SPARC ホストサーバーのブート動作の設定」</li> <li>■ 『構成および保守』の「SPARC ホストブートモードのオーバーライド」</li> <li>■ 『構成および保守』の「SPARC ホストドメインの管理」</li> <li>■ 『構成および保守』の「SPARC ホストキースイッチ状態の設定」</li> <li>■ 『構成および保守』の「SPARC ホスト TPM 状態の設定」</li> </ul> |

## システム管理構成アクションの管理

| 説明   | リンク  |
|--|--|
| <p>x86 管理対象サーバーの BIOS プロパティのバックアップと復元の手順については、このセクションを参照してください。</p>                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 『構成および保守』の「x86 BIOS 構成パラメータの保守」</li> </ul>          |
| <p>管理対象デバイスのシステム管理ポリシーの設定手順については、このセクションを参照してください。</p>                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 『構成および保守』の「システム管理ポリシー構成の設定」</li> </ul>              |
| <p>Sun ブレードシャーシに取り付けられている SAS ストレージデバイスの管理手順については、このセクションを参照してください。</p>                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 『構成および保守』の「シャーシブレードストレージリソースの SAS ゾーン機能」</li> </ul> |
| <p>Oracle ILOM の構成のバックアップと復元、およびサーバー SP、NEM SP、または CMM のリセットの手順については、このセクションを参照してください。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 『構成および保守』の「Oracle ILOM の保守および構成管理タスクの実行」</li> </ul> |

# Oracle ILOM インタフェースを介したリアルタイム電力監視

| 説明   | リンク   |
|--|---|
| Oracle ILOM インタフェースを使用して管理対象デバイスの消費電力メトリックを表示する場合の用語、プロパティ、および手順が説明されているトピックについては、このセクションを参照してください。                      | ■ <a href="#">65 ページの「消費電力の監視」</a>  |
| Oracle ILOM インタフェースを使用して管理対象デバイスの電力割り当てメトリックを表示する場合のプロパティ、ハードウェアコンポーネント、監視の考慮事項、および手順が説明されているトピックについては、このセクションを参照してください。 | ■ <a href="#">69 ページの「電力割り当ての監視」</a>  |
| Oracle ILOM インタフェースを使用して電力統計情報、電力履歴、およびグラフを表示する手順が説明されているトピックについては、このセクションを参照してください。                                     | ■ <a href="#">79 ページの「電力使用統計情報の分析」</a><br>■ <a href="#">80 ページの「電力履歴パフォーマンスの比較」</a> |

## 関連情報

- 『構成および保守』の「CMM 電源装置冗長性ポリシーの設定」
- 『構成および保守』の「電源警告通知の設定とシステムの電力使用の管理」
- 『SNMP、IPMI、CIM、WS-MAN プロトコル管理』の「システム電源の監視と管理 (SNMP)」

## 消費電力の監視

Oracle ILOM インタフェースに表示される「Power Consumption」プロパティにより、次のものを取得できます:

- 管理対象デバイスによって現在消費されている入力電力(ワット)の値。
- 管理対象デバイスが消費できる最大電力(ワット)の値。
- 電力イベント通知の生成のために設定されている消費電力しきい値(ワット)。

Oracle ILOM で表示される消費電力プロパティの詳細については、次のトピックを参照してください:

- 67 ページの「消費電力の用語とプロパティ」
- 66 ページの「管理対象デバイスの「Power Consumption」プロパティを表示する」

## ▼ 管理対象デバイスの「Power Consumption」プロパティを表示する

始める前に

67 ページの「消費電力の用語とプロパティ」を確認してください。

- **SP** または **CMM** の **Web** インタフェース または **CLI** から消費電力プロパティを表示するには、次のいずれかを実行します:

- **SP** または **CMM** の **Web** インタフェースから、「**Power Management**」 > 「**Consumption**」をクリックします。
- **SP** または **CMM** の **CLI** から、**show** コマンドに続いて該当するターゲットとプロパティを入力します。

例:

- `show /SP|CMM/powermgmt actual_power`
- `show /SP|CMM/powermgmt permitted_power`
- `show /SP|CMM/powermgmt threshold1|2`
- `show /CMM/System/VPS`

ここでは:

- `SP|CMM` には、管理対象デバイスが Sun サーバーの場合は **SP** と入力し、管理対象デバイスが Sun Blade CMM の場合は **CMM** と入力します。
- `1|2` には、しきい値 1 を表示する場合は **1** と入力し、しきい値 2 を表示する場合は **2** と入力します。

### 参考 関連情報

- 『構成および保守』の「消費電力警告通知の設定」
- 『構成および保守』の「SP 電力制限および CMM 電力許可プロパティの設定」
- 『構成および保守』の「電力制限を実施するための SP 詳細電力上限ポリシーの設定」
- 『構成および保守』の「CMM 電源装置冗長性ポリシーの設定」

## 消費電力の用語とプロパティ

- 表5
- 表6

表5 消費電力の用語

| 用語              | 説明  |
|-----------------|---|
| リアルタイム電力監視      | Oracle ILOM は、ハードウェアインタフェース (CMM、SP、電源ユニット (PSU) など) を任意の時点でポーリングして、更新された電力監視メトリックを継続的に Oracle ILOM インタフェースに表示することにより、1 秒以内の精度のリアルタイム電力監視を可能にします。   |
| 消費電力            | 消費電力は、管理対象デバイスによって消費される入力電力または PSU から供給される出力電力を指します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 入力電力</li> <li>■ 出力電力</li> </ul>   |
| 管理対象デバイスごとの消費電力 | Oracle ILOM インタフェースに表示される消費電力メトリックは、次のハードウェア構成によって異なります: <ul style="list-style-type: none"> <li>■ ラック搭載型</li> <li>■ ブレードサーバー</li> <li>■ CMM</li> </ul>  |
|                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 入力電力は、外部電源からシャーシの電源ユニットに引き込まれる電力です。</li> <li>■ 出力電力は、電源ユニットからシャーシコンポーネントに供給される電力量です。</li> </ul>  |
|                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ ラック搭載型サーバーの消費電力は、ラック搭載型シャーシ電源装置によって消費されている入力電力の合計です。</li> <li>■ ブレードサーバーの消費電力は、そのローカルコンポーネントによって消費されている電力の合計です。</li> <li>■ CMM の消費電力は、ブレードシャーシ電源装置によって消費されている入力電力の合計です。</li> </ul> |

表6 Oracle ILOM インタフェースの「Power Consumption」プロパティ

| 「Power Metric」プロパティ                       | 管理対象デバイス                  | 説明  |
|---|---------------------------|---|
| Actual Power<br>(/powermgmt actual_power) | CMM<br>x86 SP<br>SPARC SP | Oracle ILOM インタフェースに表示される読み取り専用の「Actual Power」プロパティ値は、管理対象デバイス (ブレードシャーシ、ラック搭載型サーバー、またはブレードサーバー) によって消費される電力 (ワット) を示します。 |

表 6 Oracle ILOM インタフェースの「Power Consumption」プロパティ (続き)

| 「Power Metric」プロパティ                            | 管理対象デバイス                  | 説明  |
|--|---------------------------|---|
| Target Limit<br>(/powermgmt/budget powerlimit) | x86 SP<br>SPARC SP        | <p>Oracle ILOM インタフェースに表示される読み取り専用の「Target Limit」プロパティ値は、Sun サーバーに設定されている現在の「Target Limit」値 (ワットまたはパーセント) を表示します。</p> <p>電力監視の重要考慮事項:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Oracle ILOM は、設定されたターゲット制限値を使用して、Sun サーバーに許可される電力バジェットパラメータを決定します。</li> <li>すべての Sun x86 サーバーが電力管理の「Target Limit」プロパティを Oracle ILOM インタフェースに表示するわけではありません。Sun x86 サーバーで「Target Limit」プロパティがサポートされていない場合、Oracle ILOM はそのサーバーに取り付けられている電力消費ハードウェアコンポーネントに基づいて、そのサーバーの電力バジェットパラメータを決定します。</li> <li>「Target Limit」プロパティが Oracle ILOM インタフェースでサポートされている (表示される) ときに、プロパティ値が設定されていない場合は、プロパティ値「Not Configured」が Oracle ILOM インタフェースに表示されます。</li> </ul> <p>電力バジェットまたは「Target Limit」の設定手順の詳細については、『構成および保守』の「SP の「Power Target Limit」プロパティを設定する」を参照してください。</p> |
| Peak Permitted<br>(/powermgmt permitted_power) | x86 SP<br>SPARC SP<br>CMM | <p>Oracle ILOM インタフェースに表示される読み取り専用の「Peak Permitted」プロパティ値は、管理対象デバイスが消費できる最大電力 (ワット) を表示します:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Sun ラック搭載型サーバーまたはブレードサーバーの場合、許容ピーク値は、サーバーが消費できる最大入力電力を表します。</li> <li>ブレードシャーシの場合、許容ピーク値は、ブレードシャーシが消費できる最大電力を表します。</li> </ul>   |

表 6 Oracle ILOM インタフェースの「Power Consumption」プロパティ (続き)

| 「Power Metric」プロパティ   | 管理対象デバイス                  | 説明  |
|---|---------------------------|---|
| Event Notification Threshold<br>デフォルト設定: disabled<br>■ Threshold 1 = 0 ワット<br>■ Threshold 2 = 0 ワット<br>(/powermgmt threshold 1 2 = 0) | x86 SP<br>SPARC SP<br>CMM | Oracle ILOM インタフェースに表示されるユーザー定義の「Notification Threshold」プロパティ値は、警告通知をトリガーするように設定されている電力値 (ワット) を表示します。有効の場合、管理対象デバイスの消費電力 (ワット) がユーザー定義のしきい値を超えると、警告通知が Oracle ILOM によってトリガーされます。<br><br>注 - Oracle ILOM によって生成されるイベント通知は、Oracle ILOM インタフェースで電子メール警告プロパティが正しく構成されているかどうか依存します。詳細は、『構成および保守』の「電源警告通知の設定とシステムの電力使用の管理」を参照してください。 |

## 電力割り当ての監視

Oracle ILOM インタフェースに表示される「Power Management Allocation Plan」は、エネルギー効率の高いデータセンターを計画するのに役立ちます。「Allocation Plan」に表示されるプロパティにより、単一の管理対象デバイスまたは管理対象デバイスに取り付けられている個々のコンポーネントに割り当てられた正確な電力メトリックを効果的に監視および取得できます。

「Allocation Plan」に表示される電力メトリックプロパティの詳細については、次のトピックを参照してください:

- 72 ページの「管理対象デバイスごとの「Power Allocation Plan」プロパティ」
- 76 ページの「電力割り当てコンポーネントと監視の考慮事項」
- 69 ページの「管理対象デバイスの電力割り当て計画を表示する」

### ▼ 管理対象デバイスの電力割り当て計画を表示する

始める前に

- 72 ページの「管理対象デバイスごとの「Power Allocation Plan」プロパティ」を確認してください
- 76 ページの「電力割り当てコンポーネントと監視の考慮事項」を確認してください

- 1 CMM または SP の Web インタフェースから「Power Allocation Plan」プロパティを表示するには、「Power Management」>「Allocation」をクリックします。管理対象デバイスの「Power Allocation Plan」が表示されます。

## 2 SPのCLIから「Power Allocation Plan」プロパティを表示するには、次を実行します:

- SPの「System Power Specification」プロパティを表示します:
  - a. 「Allocated Power」および「Peak Permitted」電力プロパティ値を表示するには、次のように入力します:  

```
show /SP/powermgmt/ allocated_power permitted_power
```
  - b. 「Target Limit」(このプロパティはすべてのサーバーでサポートされているわけではありません)のプロパティ値を表示するには、次のように入力します:  

```
show /SP/powermgmt/budget powerlimit
```
  - c. 「Power Supply Maximum」のプロパティを表示するには、次のように入力します:  

```
show /SP/powermgmt/ available_power
```

---

注-Sun CPU ブレードサーバーの「Installed Hardware Minimum」の電力(ワット)プロパティ値は、Oracle ILOM Web インタフェースの「Allocation Plan」からのみ表示できます。

---

- SPの「Per Component Map」プロパティを表示します:
  - a. 管理対象サーバーに構成されている電力割り当てコンポーネントのリストを表示するには、次のように入力します:  

```
show /SP/powermgmt/powerconf/
```
  - b. 特定のサーバーコンポーネントの電力割り当てプロパティ値を表示するには、次のように入力します:  

```
show /SP/powermgmt/powerconf/component-type/component-name
```

*component-type* はコンポーネントカテゴリの名前、*component-name* はコンポーネントの名前です。

例:

特定のCPUに割り当てられた電力を表示するには、次のように入力します:

```
show /SP/powermgmt/powerconf/CPUs/CPUn
```

*n* は、CPUの取り付け位置番号です。

3 CMMのCLIから「Power Allocation Plan」プロパティを表示するには、次を実行します:

- CMMの「System Power Specification」プロパティを表示します:
  - a. 「Allocated Power」および「Peak Permitted」電力プロパティ値を表示するには、次のように入力します:  
`show /CMM/powermgmt/ allocated_power permitted_power`
  - b. 「Power Supply Maximum」プロパティ値を表示するには、次のように入力します:  
`show /CMM/powermgmt available_power`
  - c. 「Redundant Power」プロパティ値を表示するには、次のように入力します:  
`show /CMM/powermgmt redundant_power`
- CMMの「Blade Power Map」プロパティを表示します:
  - a. 「Grantable Power」プロパティを表示するには、次のように入力します:  
`show /CMM/powermgmt/ grantable_power`

---

注- 「Unfilled Grant Requests」のプロパティは、Oracle ILOM Web インタフェースの「Allocation Plan」からのみ表示できます。

---

- b. ブレードスロットごとの「Grant Limit」および「Granted Limit」プロパティ値を表示するには、次のように入力します:  
`show /CMM/powermgmt/powerconf/bladeslots BLn`  
*n*は、Sun ブレードシャーシ内のブレードのスロット位置です。
- c. 特定のブレードスロットの「Required Power」プロパティを表示するには、次のように入力します:  
`show /CMM/powermgmt/advanced/n`  
*n*は、Sun ブレードシャーシ内のブレードのスロット位置です。
- d. すべてのシャーシブレードスロットの「Granted Power」プロパティ値、およびすべてのI/Oシャーシブレードスロットの「Reserved Power」プロパティ値を表示するには、次のように入力します:  
`show /CMM/powermgmt/powerconf/bladeslots granted_power reserved_power`

- e. シャーシスロットに取り付けられている特定のコンポーネントの電力割り当てプロパティ値を表示するには、次のように入力します:

```
show /CMM/powermgmt/powerconf/component-type/component-name
```

*component\_type* はコンポーネントカテゴリの名前、*component-name* はコンポーネントの名前です

例:

```
show /CMM/powermgmt/powerconf/NEMs/NEMn
```

*n* は、Sun ブレードシャーシ内の NEM のスロット位置です。

## 参考 関連情報

- 72 ページの「管理対象デバイスごとの「Power Allocation Plan」プロパティ」
- 76 ページの「電力割り当てコンポーネントと監視の考慮事項」
- 『構成および保守』の「SP 電力制限および CMM 電力許可プロパティの設定」
- 『構成および保守』の「電力制限を実施するための SP 詳細電力上限ポリシーの設定」
- 『構成および保守』の「CMM 電源装置冗長性ポリシーの設定」

## 管理対象デバイスごとの「Power Allocation Plan」プロパティ

- 表 7
- 表 8
- 表 9
- 表 9
- 表 11

表 7 「System Power Specification」プロパティ (電力割り当て)

| 「Power Metric」プロパティ (読み取り専用)                         | 管理対象デバイス      | 説明   |
|--|---------------|--|
| Power Supply Maximum<br>(/powermgmt available_power) | CMM<br>x86 SP | Oracle ILOM インタフェースに表示される「Power Supply Maximum」プロパティ値は、電源装置が電源コンセントから引き出すことができる最大入力電力 (ワット) を表します。 |

表7 「System Power Specification」プロパティ (電力割り当て) (続き)

| 「Power Metric」プロパティ (読み取り専用)                    | 管理対象デバイス                  | 説明   |
|---|---------------------------|--|
| Redundant Power<br>(/powermgmt_redundant_power) | CMM                       | <p>Oracle ILOM インタフェースに表示される「Redundant Power」プロパティ値は、ブレードシャーシ電源装置に現在割り当てられていない使用可能電力(ワット)を表します。</p> <p>注-冗長電力プロパティの電力(ワット)は、CMMの「Power Supply Redundancy Policy」を介して構成できます。詳細は、『構成および保守』の「CMM 電源装置冗長性ポリシーを設定する」を参照してください。</p>  |
| Installed Hardware Minimum                      | ブレード SP                   | Oracle ILOM Web インタフェースに表示される「Installed Hardware Minimum」プロパティ値は、サーバーに取り付けられているハードウェアコンポーネントによって消費されている最小入力電力(ワット)を表します。   |
| Peak Permitted<br>(/powermgmt_peak_permitted)   | CMM<br>x86 SP<br>SPARC SP | <p>Oracle ILOM インタフェースに表示される「Peak Permitted」プロパティ値は、管理対象デバイスに保証された最大消費電力(ワット)を表します。たとえば:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ Sun x86 および SPARC サーバーの場合、「Peak Permitted」プロパティは、サーバーが任意の時点で消費できる最大入力電力(ワット)を表します。</li> <li>■ Sun CMM の場合、「Peak Permitted」プロパティは、ブレードサーバーが任意の時点で消費できる最大入力電力(ワット)を表します。</li> </ul> <p>監視の重要考慮事項:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ すべての x86 サーバー SP が「Target Limit」のプロパティを Oracle ILOM インタフェースでサポートしているわけではありません。このような場合、「Peak Permitted」に表示される同じプロパティ値(ワット)は、管理対象サーバーに取り付けられている電力消費ハードウェアコンポーネントから導き出されます。</li> <li>■ Sun サーバー SP の場合、Oracle ILOM は、「Peak Permitted」に表示するワット値を、「Allocated Power」および「Target Limit」に表示されるプロパティ値から導き出します。「Target Limit」プロパティがサポートされていない場合、Oracle ILOM は「Peak Permitted」プロパティ値を、管理対象サーバーに取り付けられている電力消費ハードウェアコンポーネントから導き出します。</li> </ul> <p>管理対象デバイスによって消費される電力のバジェットの詳細については、『構成および保守』の「電源警告通知の設定とシステムの電力使用の管理」を参照してください。</p> |

表7 「System Power Specification」プロパティ (電力割り当て) (続き)

| 「Power Metric」プロパティ (読み取り専用)                    | 管理対象デバイス                  | 説明   |
|---|---------------------------|--|
| Allocated Power<br>(/powermgmt/allocated_power) | CMM<br>x86 SP<br>SPARC SP | <p>Oracle ILOM インタフェースに表示される「Allocated Power」プロパティ値は、管理対象デバイスに割り当てられた最大入力電力(ワット)を表します。例:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ Sun ラック搭載型サーバーの場合、「Allocated Power」プロパティ値は、ラック搭載型サーバーに構成されているすべての取り付け済みシャーシコンポーネントおよびホットプラグ可能コンポーネントに割り当てられた最大電力の合計を表します。</li> <li>■ Sun ブレードシャーシの場合、「Allocated Power」プロパティ値は次のものを表します: 1) すべての取り付け済みシャーシコンポーネントに割り当てられた最大電力(ワット)、および 2) すべてのシャーシサーバーブレードに許可された最大電力(ワット)。</li> </ul>   |
| Target Limit<br>(/powermgmt/budget/powerlimit)  | x86 SP<br>SPARC SP        | <p>Oracle ILOM インタフェースに表示される「Target Limit」プロパティ値は、サーバーに構成されている電力制限値(ワットまたはパーセント)を表示します。</p> <p>電力監視の重要考慮事項:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ Oracle ILOM は、設定された電力制限値を使用して、Sun サーバーに許可される電力バジェットパラメータを決定します。</li> <li>■ Oracle ILOM で電力制限が構成されていない場合は、読み取り専用の「Target Limit」プロパティ値「Not Configured」が「Power Allocation Plan」に表示されません。</li> <li>■ すべての Sun x86 サーバー SP が「Target Limit」プロパティを Oracle ILOM インタフェースでサポートしているわけではありません。「Target Limit」プロパティがサポートされていない場合、Oracle ILOM は「Peak Permitted」ワット値を、管理対象サーバーに取り付けられている電力消費ハードウェアコンポーネントに基づいて決定します。</li> </ul> <p>電力バジェットまたは電力制限の構成手順の詳細については、『構成および保守』の「電源警告通知の設定とシステムの電力使用の管理」を参照してください。</p> |

表 8 「Per Component Power Map」プロパティ (SP の電力割り当て)

| 「Power Metric」プロパティ (読み取り専用)                    | 管理対象デバイス           | 説明   |
|---|--------------------|--|
| Allocated Power<br>(/powermgmt allocated_power) | x86 SP<br>SPARC SP | Oracle ILOM SP インタフェースに表示される「Allocated Power」プロパティ値は、次のいずれかに割り当てられた電力 (ワット) の合計を表します: 1) サーバコンポーネントカテゴリ (CPU)、または 2) サーバに取り付けられている個別のコンポーネント (MB_P0)。  |
| Can be capped                                   | x86 SP<br>SPARC SP | サーバコンポーネントごとに「Yes」または「No」のプロパティ値が Oracle ILOM SP Web インタフェースに表示され、そのサーバコンポーネントに電力バジェット制限を設定できるかどうかを示します。<br><br>注 - 管理対象の Sun サーバで電力バジェット (「Target Limit」プロパティ) がサポートされていない場合、「Can be capped」プロパティは「Power Management Allocation Plan」に表示されません。<br><br>電力バジェットの詳細については、『構成および保守』の「電源警告通知の設定とシステムの電力使用の管理」を参照してください。 |

表 9 ブレードスロット電力のサマリー (CMM の電力割り当て)

| 「Power Metric」プロパティ (読み取り専用)                    | 管理対象デバイス     | 説明   |
|---|--------------|--|
| Grantable Power<br>(/powermgmt grantable_power) | CMM ブレードスロット | Oracle ILOM CMM インタフェースに表示される「Grantable Power」プロパティ値は、許可制限を超えることなく CMM から Sun ブレードシャーシスロットに割り当て可能な残りの電力 (ワット) の合計を表します。            |
| Unfilled Grant Requests                         | CMM ブレードスロット | Oracle ILOM CMM Web インタフェースに表示される「Unfilled Grant Requests」プロパティ値は、CMM がシャーシブレードスロットに許可するようにリクエストされている、まだ許可されていない電力 (ワット) の合計を表します。 |

表 10 ブレード電力許可 (CMM の電力割り当て)

| 「Power Metric」プロパティ   | 管理対象デバイス     | 説明   |
|---|--------------|--|
| Grant Limit<br>(/powermgmt/powerconf/bladeslots<br>BLn grant_limit) | CMM ブレードスロット | Oracle ILOM CMM インタフェースに表示されるユーザー定義の「Grant Limit」プロパティ値は、CMM がブレードスロットに許可できる電力 (ワット) の最大合計を表します。<br><br>「Grant Limit」プロパティの設定手順については、『構成および保守』の「CMM の「Blade Slot Grant Limit」プロパティを設定する」を参照してください。 |

表 10 ブレード電力許可(CMMの電力割り当て) (続き)

| 「Power Metric」プロパティ  | 管理対象デバイス     | 説明  |
|--|--------------|---|
| Required Power<br>(/powermgmt/powerconf/advanced/n)              | CMM ブレードスロット | Oracle ILOM CMM インタフェースに表示される読み取り専用の「Required Power」プロパティ値は、次のいずれかに必要な電力(ワット)の最大合計を表します: 1) すべてのブレードスロット、または 2) 個別のブレードスロット。                              |
| Granted Power<br>(/powermgmt/powerconf/bladeslots/granted_power) | CMM ブレードスロット | Oracle ILOM CMM インタフェースに表示される読み取り専用の「Granted Power」プロパティ値は、CMM が次のいずれかに許可した電力(ワット)の最大合計を表します: 1) 電力をリクエストしているすべてのブレードスロット、または 2) 電力をリクエストしている個別のブレードスロット。 |

表 11 「Chassis Component」プロパティ (CMMのみ)

| 「Power Metric」プロパティ (読み取り専用)  | 管理対象デバイス    | 説明   |
|---|-------------|--|
| Allocated Power<br>(/powermgmt/powerconf/component_type/component_name) | CMM コンポーネント | Oracle ILOM CMM インタフェースに表示される読み取り専用の「Allocated Power」プロパティ値は、次のいずれかに割り当てられた電力(ワット)の合計を表します: 1) Sun ブレードシャーシカテゴリ (ファン)、または 2) 取り付けられている個別のシャーシコンポーネント (ファン 0)。<br><br>注 - Sun ブレードシャーシ構成が I/O ブレードサーバーをサポートしている場合、Oracle ILOM はすべての I/O ブレードサーバーに予約された電力(ワット)の最大合計も表示します。 |

## 電力割り当てコンポーネントと監視の考慮事項

- 表 12
- 表 13
- 表 14

表 12 サーバー SP 電力割り当てコンポーネント

| サーバー<br>コンポーネント                                   | 割り当て<br>電力 | Sun x86 および SPARC<br>サーバーに該当 | Sun ブレードサーバーに該<br>当 |
|---|------------|------------------------------|---------------------|
| すべてのサーバー電力消費コンポーネント                               | X          | X                            | X                   |
| CPU   | X          | X                            | X                   |
| メモリーモジュール (DIMM など)                               | X          | X                            | X                   |
| I/O モジュール (HDD、PEM など) <sup>1</sup><br>REM*、RFEM* | X          | X                            | X                   |

<sup>1</sup> これらのサーバー関連 I/O モジュール (PEM、REM、および RFEM) は Sun ブレードシャーシ構成にのみ該当します。

表 12 サーバー SP 電力割り当てコンポーネント (続き)

| サーバー<br>コンポーネント         | 割り当て<br>電力 | Sun x86 および SPARC<br>サーバーに該当 | Sun ブレードサーバーに該<br>当 |
|-------------------------|------------|------------------------------|---------------------|
| マザーボード (Motherboard、MB) | X          | X                            | X                   |
| 電源ユニット (PSU)            | X          | X                            | 該当しない <sup>2</sup>  |
| ファン (FM)                | X          | X                            | 非適用+                |

<sup>2</sup> これらのデバイス (PSU および FM) が Sun ブレードシャーシに取り付けられている場合は、CIMM によって電力が割り当てられます。

表 13 CMM 電力割り当てコンポーネント

| CMM   |              |                |             |
|---|--------------|----------------|-------------|
| コンポーネント   | 許可された電力(ワット) | 許可制限(ワット)      | 許可可能電力(ワット) |
| すべての CMM 電力消費コンポーネント (一覧表示される、電源が投入されているすべてのエンティティの集約値) | X            | X              | X           |
| ブレードスロット (BL#)  | X            | X <sup>1</sup> | 該当しない       |
| CMM   | X            | 該当しない          | 該当しない       |
| Network Express Module (NEM)                            | X            | 該当しない          | 該当しない       |
| 電源ユニット (PSU)  |              | 該当しない          | 該当しない       |
| ファン (FM)  |              | 該当しない          | 該当しない       |

<sup>1</sup> ブレードスロットに割り当てられる許可制限はユーザーが構成できます。

表 14 電力割り当て監視の考慮事項

| 電力割り当てコンポーネント  | Oracle ILOM の電力割り当て動作  |
|----------------|--|
| Sun ラック搭載型サーバー | Sun ラック搭載型サーバーに割り当てられる電力は、ラック搭載型シャーシコンポーネントが消費できる最大電力です。この値は、プロセッサ、メモリー、I/O、ファンで消費される最大電力 (ワット) のほか、電源装置での電力損失を表します。ラック搭載型シャーシにホットプラグ可能コンポーネント用のスロットが含まれている場合、表示される「Power Allocated」プロパティ値は、ホットプラグ可能スロットに取り付け可能な、もっとも電力を消費するコンポーネントに必要な最大電力 (ワット) を表します。 |

表 14 電力割り当て監視の考慮事項 (続き)

| 電力割り当てコンポーネント        | Oracle ILOM の電力割り当て動作  |
|----------------------|--|
| Sun ブレードサーバー         | Sun ブレードサーバーに対する電力は、ブレードサーバーが電力をリクエストしたときに、CMM によって割り当てられます。ブレードサーバーは電源が投入されるたびに電力をリクエストし、電源が切断されるたびに CMM に電力を戻します。CMM は、許可可能電力がブレードサーバーのリクエストを満たすのに十分な場合は、ブレードサーバーに電力を割り当てます。さらに、CMM は、対応するブレードスロットに許可制限が設定されているかどうかを確認します。対応するブレードスロットに許可制限が設定されている場合は、電力(ワット)リクエストがブレードスロットに設定されている「Grant Limit」プロパティ以下の場合にのみ、CMM はブレードサーバーに電力を割り当てます。  |
| Sun 自動送電式 I/O ブレード   | Sun I/O ブレードサーバーは SP によって管理されないため、Sun I/O ブレードサーバーは CMM からの電源投入の許可を求めません。Sun I/O ブレードサーバーが Sun ブレードシャーシに取り付けられている場合、I/O ブレードサーバーには自動的に電源が投入されます。   |
| ホットプラグ可能なシャーシコンポーネント | <p>Oracle ILOM は、ホットプラグ用のシャーシスロット位置に取り付けられている既知のホットプラグ可能コンポーネントについて、割り当て済みの最大電力値を自動的に表示します。次に例を示します:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ ラック搭載型のホットプラグ可能スロットの場合、Oracle ILOM は、ホットプラグ可能コンポーネントに必要な既知の最大電力値(ワット)を表示します。</li> <li>■ ブレードのホットプラグ可能スロットの場合、Oracle ILOM は、ブレードシャーシスロットに取り付け可能な Sun I/O ブレードサーバーに必要な最大電力値を表示します。ただし、Sun ブレードシャーシが Sun I/O ブレードサーバーをサポートしていない場合、Oracle ILOM は、Sun CPU ブレードサーバーに必要な最大電力値(ワット)を表示します。</li> </ul> <p>ラック搭載型シャーシまたはブレードシャーシのどのコンポーネントやスロットがホットプラグ可能かを判定するには、Sun サーバーまたは CMM ハードウェアのドキュメントを参照してください。</p> |
| シャーシコンポーネントカテゴリ      | 同じコンポーネントの複数のインスタンスを含むシャーシコンポーネントカテゴリの場合、Oracle ILOM は、1つのコンポーネントカテゴリ(ファン)に割り当てられた電力の合計のほか、個別のコンポーネント(ファン 0)に割り当てられた電力の合計を表示します。   |
| 電源ユニット (PSU)         | Oracle ILOM は、コンセントと管理対象デバイスの間での電力損失を考慮するために、電源装置に自動的に電力を割り当てます。   |

## 電力使用統計情報の分析

管理対象デバイスによって消費される電力を分析しやすくするために、Oracle ILOM は電力使用統計プロパティを棒グラフと表形式出力で提供します。詳細は、これらのトピックを参照してください:

- 79 ページの「移動平均電力統計のグラフおよびメトリック」
- 79 ページの「電力統計の棒グラフおよびメトリックを表示する」

## 移動平均電力統計のグラフおよびメトリック

は、管理対象デバイスごとの消費電力の移動平均を 15、30、および 60 秒間隔で表す電力メトリックおよび棒グラフを表示します。これらの電力使用メトリックおよび棒グラフは、管理対象デバイスによるエネルギー消費の分析に特に役立ちます。

### ▼ 電力統計の棒グラフおよびメトリックを表示する

- 1 **CMM** または **SP Web** インタフェースから電力使用メトリックおよび棒グラフを表示するには、「**Power Management**」 > 「**Statistics**」をクリックします。
  - 棒グラフと「**Power History**」テーブルに表示される電力(ワット)値と時間間隔を確認します。
  - **CMM** の棒グラフの場合は、シャーシの電力使用とブレードサーバーの電力使用の間でグラフ表示を切り替えられます。

---

注 - Sun ブレードシャーシに取り付けられている Sun I/O ブレードサーバーには、電力統計グラフは使用できません。「**Power Usage Averages**」テーブルに表示される電力履歴メトリックでは、Sun ブレードシャーシに取り付けられている各 Sun I/O ブレードサーバーに「**No Data**」プロパティ値が表示されます。

---

- 2 **CMM CLI** から 15、30、および 60 秒間隔の **CMM** 電力統計情報にアクセスするには、次のように入力します:

```
show /CH/VPS/history
```

---

注 - 15、30、および 60 秒間隔の電力使用統計情報は、SP CLI からは使用できません。ただし、/SYS CLI レガシターゲットが管理対象サーバー SP でサポートされている場合は、/SYS/VPS/history CLI ターゲットから電力統計情報を表示できます。デフォルトでは、/SYS レガシターゲットは非表示になっています。/SYS レガシターゲットを表示するには、34 ページの「レガシターゲットを表示する」を参照してください。

---

## 参考 関連情報

- 80 ページの「電力履歴グラフおよびメトリック」
- 『構成および保守』の「SP 電力制限および CMM 電力許可プロパティの設定」
- 『構成および保守』の「電力制限を実施するための SP 詳細電力上限ポリシーの設定」
- 『構成および保守』の「CMM 電源装置冗長性ポリシーの設定」

# 電力履歴パフォーマンスの比較

管理対象デバイスの電力使用を時間の経過に沿って比較しやすくするために、Oracle ILOM は履歴統計情報を棒グラフと表形式出力で提供します。詳細は、次を参照してください:

- 80 ページの「電力履歴グラフおよびメトリック」
- 81 ページの「電力履歴グラフおよびメトリックを表示する」

## 電力履歴グラフおよびメトリック

Oracle ILOM は、最小、平均、および最大消費電力を表す履歴メトリックおよび一連の棒グラフを次のように表示します:

- 管理対象デバイスについて 1 時間間隔
- 管理対象デバイスについて 14 日間隔
- 管理対象デバイスについて 1 分間隔で過去 1 時間
- 管理対象デバイスについて 1 時間間隔で過去 14 日間

Oracle ILOM によって表示される電力履歴メトリックおよびグラフは、管理対象デバイスの最高、平均、および最低のエネルギーパフォーマンスを比較する場合に特に役立ちます。

## ▼ 電力履歴グラフおよびメトリックを表示する

- 1 CMMまたはSP Web インタフェースから電力履歴メトリックおよび棒グラフを表示するには、「Power Management」>「History」をクリックします。

- SP-1時間間隔と14日間隔の間でグラフ表示を切り替えられます。
- CMM-次のオプションをクリックしてグラフ表示を変更できます:
  - **Hardware options:** シャーシの電力使用とブレードの電力使用の間で電力使用を切り替えます。

---

注-Sun ブレードシャーシに取り付けられている Sun I/O ブレードサーバーには、電力履歴グラフは使用できません。「Power History」テーブルに表示される電力履歴メトリックでは、Sun ブレードシャーシに取り付けられている各 Sun I/O ブレードサーバーに「No Data」プロパティ値が表示されます。

---

- **Time period:** 1時間間隔と14日間隔の間で履歴を切り替えます。
  - **Graph series:** 最小消費電力(ワット)、平均消費電力(ワット)、最大消費電力(ワット)の間で一連のグラフを切り替えるか、これらのオプションの組み合わせを選択します。
- 2 SPまたはCMMのWebインタフェースから追加の電力履歴サンプルセットを表示するには、「Power History」テーブルの「Sample Set」列の下にあるリンクをクリックします:

「Sample Set」のリンクを使用すると、1分間隔で過去1時間、または1時間間隔で過去14日間の消費電力(ワット)を表す棒グラフを表示できます。

---

注-Oracle ILOMによって表示される電力履歴メトリックおよびグラフは、SP CLIからは使用できません。ただし、CMM CLIから次の show コマンドを入力して、分単位または時間単位の消費電力履歴メトリック、およびこれらのサンプルセットのタイムスタンプと電力(ワット)を表示できます: `show /CH/VPS/history/0 show /CH/VPS/history/0/list`

---

### 参考 関連情報

- 79 ページの「移動平均電力統計のグラフおよびメトリック」
- 『構成および保守』の「SP 電力制限およびCMM 電力許可プロパティの設定」
- 『構成および保守』の「電力制限を実施するためのSP 詳細電力上限ポリシーの設定」
- 『構成および保守』の「CMM 電源装置冗長性ポリシーを設定する」



# Oracle ILOM 管理対象デバイスのトラブルシューティング

| 説明   | リンク   |
|--|---|
| Oracle ILOM との管理接続を確立するときの問題を解決するための推奨事項については、このトピックを参照してください。         | ■ <a href="#">83 ページの「ネットワーク接続の問題: Oracle ILOM インタフェース」</a> |
| 管理対象システムを監視およびデバッグするために使用できるオフラインおよびオンラインのツールの一覧については、このトピックを参照してください。 | ■ <a href="#">85 ページの「システム動作の監視およびデバッグのためのツール」</a>          |
| Oracle ILOM SP 診断ツールを使用可能にして実行する手順を説明するトピックについては、このセクションを参照してください。     | ■ <a href="#">86 ページの「Oracle ILOM 診断ツールを使用可能にして実行する」</a>    |

## 関連情報

- [99 ページの「Oracle ILOM 障害管理シェルによる Sun ハードウェア障害の管理」](#)
- 『構成および保守』の「実行するホスト診断テストの設定」
- 『構成および保守』の「ネットワーク接続の問題の推奨される解決策」
- 『Oracle x86 サーバー診断ガイド Oracle ILOM 3.1 を使用するサーバー向け』
- Sun サーバーまたは CMM のサービスマニュアル

## ネットワーク接続の問題: Oracle ILOM インタフェース

Oracle ILOM インタフェースとのネットワーク接続を確立する際に問題が発生している場合、推奨される解決策については次の情報を参照してください。

表 15 接続の問題のトラブルシューティング

| 問題  | 推奨される解決策  |
|---|---|
| IPv6 アドレスを使用して Oracle ILOM Web インタフェースにアクセスできません。 | URL 内の IPv6 アドレスが角括弧で囲まれていることを確認します。例:<br><code>https://[2001:db8:0:0:0:0:0:0]</code> |

表 15 接続の問題のトラブルシューティング (続き)

| 問題  | 推奨される解決策  |
|---|---|
| IPv6 アドレスを使用してファイルをダウンロードできません。                   | <p>URL 内の IPv6 アドレスが角括弧で囲まれていることを確認します。例:</p> <pre>load -source tftp://[2001:db8:0:0:0:0:0:0]/desktop.pkg</pre>   |
| ネットワーククライアントから IPv6 を使用して Oracle ILOM にアクセスできません。 | <p>別のサブネット上の場合、次のことを試みます:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ Oracle ILOM が(リンクローカルアドレスだけでなく)動的または静的アドレスを持つことを確認します。</li> <li>■ ネットワーククライアントに(リンクローカルアドレスだけでなく)IPv6 アドレスが構成されていることを確認します。</li> </ul> <p>同じサブネットまたは別のサブネット上の場合、次のことを試みます:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ Oracle ILOM Web インタフェースの「Network Settings」ページ、または Oracle ILOM CLI の /SP/network/ipv6 ターゲットで、「IPv6 State」の設定が有効になっていることを確認します。</li> <li>■ Oracle ILOM の適切なネットワークサービスである SSH、HTTP、または HTTPS が使用可能になっていることを確認します。<br/>Web インタフェースで、「ILOM Administration」&gt;「Connectivity」をクリックして、ネットワーク接続設定を検証および変更します</li> <li>■ IPv6 Ping や Traceroute などの業界標準のネットワーク診断ツールを使用して、管理対象デバイスへのネットワーク接続をテストします。<br/>Web インタフェースまたは CLI から ping6 を実行します。または、サービス Oracle ILOM 制限付きシェルから traceroute を実行します。</li> </ul> |
| ネットワーククライアントから IPv4 を使用して Oracle ILOM にアクセスできません。 | <p>Oracle ILOM Web インタフェースの「Network Settings」ページ、または Oracle ILOM CLI の /SP/network ターゲットで、「State」の設定が有効になっていることを確認します。IPv4 ネットワークの問題を診断するための推奨されるほかの方法には、次のものがあります:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 物理的な管理ポート (NET MGMT) への LAN 接続が確立されていることを確認します。</li> <li>■ Oracle ILOM の適切なネットワークサービスである SSH、HTTP、または HTTPS が使用可能になっていることを確認します。Web インタフェースで、「ILOM Administration」&gt;「Connectivity」をクリックして、ネットワーク接続設定を検証および変更します。</li> <li>■ IPv4 Ping や Traceroute などの業界標準のネットワーク診断ツールを使用して、管理対象デバイスへのネットワーク接続をテストします。<br/>Web インタフェースまたは CLI から ping4 を実行します。または、サービス Oracle ILOM 制限付きシェルから traceroute を実行します。</li> </ul>   |

表 15 接続の問題のトラブルシューティング (続き)

| 問題   | 推奨される解決策   |
|--|--|
| Internet Explorer 6 (IE6) Web ブラウザを使用して Oracle ILOM Web インタフェースにアクセスできません。 | <p>Internet Explorer 6 ユーザーは、ブラウザをアップグレードするか、Oracle ILOM Web インタフェースで SSL を使用するためのカスタム証明書鍵をアップロードする必要があります。</p> <p>カスタム SSL 証明書をアップロードする方法の説明については、『構成および保守』の「ネットワークの配備および管理のデフォルト設定の変更」を参照してください。</p> |

## システム動作の監視およびデバッグのためのツール

サーバー動作を検証し、問題をトラブルシューティングし、修復または交換の保守作業を実行する IT 管理者および Oracle の保守担当者を支援するために、Oracle ILOM ではオンラインおよびオフラインの診断ツールコレクションが用意されています。Oracle ILOM 診断ツール、それらの使用法、およびそれらに関する追加情報の参照先の一覧については、次の表を参照してください。

表 16 推奨される診断ツール

| 実行内容:                                       | 使用:   | 詳細の参照先:   |
|---|---|---|
| x86 ホスト診断テスト                                | <ul style="list-style-type: none"> <li>Oracle ILOM ホスト管理診断: Pc-Check</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>『構成および保守』の「実行するホスト診断テストの設定」</li> <li>91 ページの「ブート時の x86 診断の実行を有効にする」</li> </ul>       |
| 回復不能エラーまたはシステムのステータスのデバッグのための x86 プロセッサ割り込み | <ul style="list-style-type: none"> <li>Oracle ILOM ホスト管理診断: NMI</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>86 ページの「x86 プロセッサ割り込みを生成する: システムのステータスをデバッグする」</li> </ul>                            |
| SPARC ホスト診断テスト                              | <ul style="list-style-type: none"> <li>Oracle ILOM ホスト管理診断</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>94 ページの「ブート時の SPARC 診断の実行を有効にする」</li> </ul>  |
| サービスプロセッサのスナップショット                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>Oracle ILOM スナップショット<sup>1</sup></li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>87 ページの「スナップショットを作成する: Oracle ILOM SP の状態」</li> </ul>                                |
| 障害管理  | <ul style="list-style-type: none"> <li>Oracle ILOM の「Open Problems」の出力</li> <li>Oracle ILOM 障害管理シナリオ<sup>*</sup></li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>42 ページの「未解決の問題の管理」</li> <li>99 ページの「ハードウェア障害から保護する: Oracle ILOM 障害マネージャー」</li> </ul> |

<sup>1</sup> 承認された Oracle の保守担当者用に設計された診断ツール。

表 16 推奨される診断ツール (続き)

| 実行内容:                                  | 使用:                                       | 詳細の参照先:   |
|--|---|---|
| ホストオペレーティングシステム管理                      | ■ Oracle ILOM CLI                         | ■ 『構成および保守』の「ホストシリアルリダイレクションセッションの開始と停止」<br>ホストコンソールを起動するためにサポートされる Oracle ILOM CLI ターゲットには、SP/console や host/console などがあります |
| Oracle ILOM 復旧タスク — x86 の「Preboot」メニュー | ■ Oracle ILOM の「Preboot」メニュー <sup>2</sup> | ■ 『Oracle x86 サーバー診断ガイド Oracle ILOM 3.1 を使用するサーバー向け』の Oracle ILOM の問題解決に関する内容   |

<sup>2</sup> Oracle ILOM x86 Sun 管理対象サーバーでのみ使用できます。

## Oracle ILOM 診断ツールを使用可能にして実行する

Oracle ILOM では、管理対象デバイス上での予期しないシステム性能または障害の発生したコンポーネント動作の解決に役立つさまざまな診断ツールが用意されています。これらのツールを使用する方法の詳細については、これらのトピックを参照してください:

- 86 ページの「x86 プロセッサ割り込みを生成する: システムのステータスをデバッグする」
- 87 ページの「スナップショットを作成する: Oracle ILOM SP の状態」
- 91 ページの「ブート時の x86 診断の実行を有効にする」
- 94 ページの「ブート時の SPARC 診断の実行を有効にする」

### x86 プロセッサ割り込みを生成する: システムのステータスをデバッグする

マスク不可能割り込み (NMI) をホストオペレーティングシステムに送信すると、ホストが応答を停止したり、外部デバッガからの入力を待機したりする場合があります。そのため、この機能は、Oracle 保守担当者からのリクエストがあった場合のみ使用するようになります。

#### ▼ マスク不可能割り込みを生成する

始める前に

- この手順を実行する前に、Oracle の保守担当者から許可を取得します。
- Oracle ILOM インタフェースから NMI を生成するには、Admin(a) の役割を有効にする必要があります。
- Oracle ILOM からマスク不可能割り込みを生成するための設定は、一部の Oracle ILOM 管理対象 Sun サーバーではサポートされないことがあります。



注意 - ホスト OS の構成によっては、マスク不可能割り込み (NMI) を生成すると、OS がクラッシュしたり、応答を停止したり、外部デバッガ入力を待機したりする場合があります。

- プロセッサ割り込みを生成するには、次のいずれかを行います:
  - Oracle ILOM Web インタフェースで、「Host Management」 > 「Diagnostics」をクリックしてから、「Generate NMI」をクリックします。
  - Oracle ILOM CLI で、次のように入力します:

```
set /HOST/diag generate_host_nmi = true
```

例:

```
-> cd /HOST
/HOST

-> show
/HOST
  Targets:
    diag

  Properties:
    generate_host_nmi = (Cannot show property)

  Commands:
    cd
    set
    show

-> set generate_host_nmi=true
set 'generate_host_nmi' to 'true'
```

## スナップショットを作成する:Oracle ILOM SP の状態

Oracle ILOM サービススナップショットユーティリティーでは、任意の時点でのサーバープロセッサのスナップショットを作成できます。



注意 - Oracle ILOM サービススナップショットユーティリティーの目的は、Oracle の保守担当者がシステムの問題の診断に使用するデータを収集することです。Oracle の保守担当者からのリクエストがないかぎり、お客様はこのユーティリティーを実行しないでください。

Oracle ILOM サービススナップショットユーティリティーは、SP 状態データを収集します。このユーティリティーは、ログファイルを収集し、各種コマンドを実行してその出力を収集し、その収集データをユーザーが定義した場所にダウンロードファイルとして送信します。

サービススナップショットユーティリティーの FRUID データセットオプションを使用すると、Oracle の保守担当者はサーバーにインストールされている現場交換可能ハードウェアに関するバイナリ形式のデータを分析できます。この FRUID オプションは、認可された Oracle 保守担当者がこのオプションを使用するようお客様に指示しないかぎり、お客様が使用するためのものではありません。

スナップショットの手順については、次のいずれかのトピックを参照してください:

- [88 ページの「Oracle ILOM SP 状態のスナップショットを作成する \(Web\)」](#)
- [89 ページの「Oracle ILOM SP 状態のスナップショットを作成する \(CLI\)」](#)

## ▼ Oracle ILOM SP 状態のスナップショットを作成する (Web)

始める前に

- サービススナップショットプロパティーを変更するには Admin(a) の役割が必要です。



---

注意- サービススナップショットユーティリティーの目的は、Oracle の保守担当者がシステムの問題の診断に使用するデータを収集することです。Oracle の保守担当者からのリクエストがないかぎり、お客様はこのユーティリティーを実行しないでください。

---

- 1 サービススナップショットユーティリティーページにアクセスするには、「**ILOM Administration**」 > 「**Maintenance**」 > 「**Snapshot**」をクリックします。
- 2 スナップショット設定を定義し、サービススナップショットユーティリティーを実行します:
  - a. データセットを指定するには、次のいずれかを指定します:
    - **Normal - Oracle ILOM**、ホストオペレーティングシステム、およびハードウェア構成に関する情報を収集します。
    - **FRUID - Normal** について収集されるデータセットに加えて、取り付けられている **FRU** に関する情報を収集します。

- **Full** – サーバーに関する最大限の情報を収集します。このオプションによって、サーバーがリセットされることがあります。
  - **Custom** – ハードウェアデータ、**Oracle ILOM** データ、基本 **OS** データ、基本診断データ、**FRU** データなどサーバーに関する特定の情報を収集します。
- b. 出力プロパティを指定するには、次を指定します:
- **Collect Log Files For Data Set** – ログファイルを収集するには、このオプションを使用可能にします (選択します)。
  - **Encrypt Output File** – 出力ファイルを暗号化するには、このオプションを使用可能にします (選択します)。
- c. 出力ファイルの転送方法を指定するには、次のいずれかを選択します:
- **Browser** – ブラウザ設定に従ってファイルをダウンロードします。
  - **SFTP** – ホストサーバー、サーバーへのディレクトリパス、およびホストサーバーのユーザー名とパスワードを指定します。
  - **FTP** – ホストサーバー、サーバーへのディレクトリパス、およびホストサーバーのユーザー名とパスワードを指定します。
- d. サービススナップショットユーティリティーを実行するには、「**Run**」をクリックします。
- スナップショットが完了すると、出力ファイルの保存を確認するダイアログボックスが表示されます。
- 3 スナップショットのファイル名とファイルの保存場所を指定するには、「**Save As**」ダイアログボックスにファイル名とディレクトリを指定し、「**OK**」をクリックします。

## ▼ Oracle ILOM SP 状態のスナップショットを作成する (CLI)



注意 - Oracle ILOM サービススナップショットユーティリティーの目的は、システムの問題を診断するために Oracle 保守担当者が使用するデータを収集することです。Oracle の保守担当者からのリクエストがないかぎり、お客様はこのユーティリティーを実行しないでください。

始める前に

- サービススナップショットユーティリティーを使用して SP データを収集するには、Admin(a) の役割を有効にする必要があります。
- 次の CLI スナップショットプロパティーを確認してください:

| プロパティー      | 値  | 説明  |
|-------------|--|---|
| <i>data</i> | <i>normal</i>  | Oracle ILOM、オペレーティングシステム、およびハードウェアに関する情報を収集します。   |
|             | <i>FRUID</i>   | <i>normal</i> オプションで収集されるデータに加えて、サーバーに現在構成されている FRU に関する情報を収集します。   |
|             | <i>full</i>  | システムに関する最大限のデータを収集します。<br>注-このオプションを使用すると、ホストオペレーティングシステムがリセットされることがあります。   |
|             | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <i>normal-logonly</i></li> <li>■ <i>fruid-logonly</i></li> <li>■ <i>full-logonly</i></li> </ul> | ログファイルのみ収集します。  |
| <i>uri</i>  | 有効なターゲットディレクトリの場所  | <p>出力ファイルの転送方法を指定します。URI 形式は次のとおりです:<code>protocol://username:password@host/directory</code></p> <p>ここで、<code>protocol</code> は SFTP または FTP のいずれかの転送方法にできます。</p> <p>たとえば、ホスト上で <code>data</code> と命名されたディレクトリにスナップショット情報を格納するには、URI を次のように定義してください:</p> <p><code>ftp://joe:mypasswd@host-ip-address/data</code></p> <p>ディレクトリ <code>data</code> はユーザーのログインに対して相対的であるため、ディレクトリは多くの場合 <code>/home/joe/data</code> になります。</p> |

Oracle ILOM CLI から Oracle ILOM SP 状態のスナップショットを作成するには、次のようにします:

- 1 **Oracle ILOM CLI** サーバー SP にログインします。
- 2 スナップショットプロパティーを表示するには、次のように入力します:  
**show SP/diag/snapshot**
- 3 データセットの収集を定義するには、次のように入力します:  
**set /SP/diag/snapshot dataset=*data***

- 4 暗号化モードを定義するには、次のように入力します:

```
set /SP/diag/snapshot encrypt_output=true|false
```

---

注-暗号化モードが `true` に設定されている場合、データ収集を開始するには、プロンプトに暗号化パスワードを入力する必要があります。その後、出力ファイルを復号化するために、プロンプトに暗号化パスワードを入力する必要があります。

---

- 5 データ収集を開始するには、次のように入力します:

```
set /SP/diag/snapshot dump_uri=uri
```

## ブート時の x86 診断の実行を有効にする

Pc-Check 診断を使用して、すべてのマザーボードコンポーネント、ハードディスクドライブ、ポート、およびスロットをテストし、問題を検出します。

- 91 ページの「ブート時の x86 診断の実行を有効にする (Web)」
- 92 ページの「ブート時の x86 診断の実行を有効にする (CLI)」

### ▼ ブート時の x86 診断の実行を有効にする (Web)

始める前に

- x86 システムのハードウェアの問題を診断するには、Reset and Host Control (r) の役割を使用可能にする必要があります。
- PC-Check 診断を構成したら、診断テストを実行する前にホストをリセットする必要があります。

PC-Check 診断を構成するには、次のようにします:

- 1 **Oracle ILOM Web** インタフェースから **Oracle ILOM** サービススナップショットユーティリティ設定を実行します:
  - a. 「Host Management」 > 「Diagnostics」 をクリックします。
  - b. 「Run Diagnostics on Boot」 リストボックスで、システムへの電源投入時に実行する Pc-Check 診断として、次のレベルのいずれかを選択します:
    - **Manual** – マニュアルモードで診断テストを実行します。マニュアルモードでは、診断テストの結果を表示できます。
    - **Disabled** – (デフォルト) 診断テストを実行しないようにします。

- **Enabled** – 完了まで約 3 分かかる基本的な **Pc-Check** 診断テストを実行します。このオプションは、**Oracle** の保守担当者から許可された場合にのみ選択するようにしてください。
  - **Extended** – 完了まで約 30 分かかる拡張診断テストを実行します。このオプションは、**Oracle** の保守担当者から許可された場合にのみ選択するようにしてください。
- c. 「**Save**」をクリックします。
- PC-Check Manual オプションが選択された場合、サーバーの電源を再投入したあとに Pc-Check 診断テストのメニューが表示されます (ステップ 3)。
- 2 **Web** インタフェースからホストコンソールをリダイレクトするには、「**Remote Control**」>「**Launch Console**」をクリックします。
- Oracle ILOM リモートコンソールはホストコンソールの現在の表示をリダイレクトします。
- 3 **Web** インタフェースからサーバーの電源を再投入するには、「**Host Management**」>「**Power Control**」をクリックし、適切なオプション(リセット、電源投入、または電源再投入)を選択します。
- リダイレクトされた表示 (Oracle ILOM リモートコンソール) は、ホスト起動メッセージを最初に表示したあと、選択された Pc-Check 診断テストの進捗状況を表示します。たとえば、ステップ 1b で「**Manual**」を選択した場合、実行できる診断テストを一覧したメニューが表示されます。

---

注- ライセンス条項が表示された場合、「**Enter**」をクリックして続行します。

---

- 4 マニュアルモードでテストを実行したときにテスト結果を表示するには、テキストエディタを使用して出力ファイル (**PCCHECK.BRN**、**PCCHECK.HII**、または **PCCHECK.JNL**) を表示するか、**Pc-Check** のメニューで「**Show Test Summary Results**」を選択します。

## ▼ ブート時の x86 診断の実行を有効にする (CLI)

始める前に

- x86 システムのハードウェアの問題を診断するには、Reset and Host Control (r) の役割を使用可能にする必要があります。
- PC-Check 診断を構成したら、診断テストを実行する前にホストをリセットする必要があります。

PC-Check 診断を構成するには、次のようにします:

- 1 システムに電源を投入したときに **x86 Pc-Check** 診断テストの実行を有効にするには、次のいずれかの **set** コマンドを入力します:

- **set /HOST/diag state=extended**
- **set /HOST/diag state>manual**
- **set /HOST/diag state=enabled**
- **set /Host/diag state=disabled**

例:

```
-> cd /HOST/diag/  
/HOST/diag  
  
-> show /HOST/diag  
Targets:  
  
Properties:  
state = disabled  
  
Commands:  
cd  
set  
show  
  
-> set state=extended This will  
enable Pc-Check to run a 20-40 minute test suite  
OR  
-> set state=enabled This will  
enable Pc-Check to run a 4-5 minute test suite  
OR  
-> set state>manual This will  
enable you to select specific Pc-Check tests to run  
  
-> show  
Targets:  
  
Properties:  
state = enabled  
  
Commands:  
cd  
set  
show
```

サーバーの電源をリセットしたとき、診断テストが実行されます。

- 2 サーバーの電源をリセットするには、次のように入力します:

```
reset /SP
```

- 3 マニュアルモードでテスト結果を表示するには、テキストエディタを使用して出力ファイル (**PCCHECK.BRN**、**PCCHECK.HII**、または **PCCHECK.JNL**) を表示するか、マニュアルモードで表示されるメニューから「**Show Test Results Summary**」を選択します。

## ブート時の SPARC 診断の実行を有効にする

Oracle ILOM を使用する Oracle SPARC システムでは、診断モードを有効にし、診断のトリガー、レベル、および診断出力の詳細度を指定できます。SPARC プラットフォームの診断の詳細については、プラットフォームに固有のサービスマニュアルを参照してください。

- 94 ページの「ブート時の SPARC 診断の実行を有効にする (Web)」
- 95 ページの「ブート時の SPARC 診断の実行を有効にする (CLI)」

### ▼ ブート時の SPARC 診断の実行を有効にする (Web)

始める前に

- SPARC システムの Oracle ILOM 内で SPARC 診断プロパティを変更するには、Reset and Host control (r) の役割が必要です。

システムに電源を投入したときに SPARC 診断テストの実行を有効にするには、次のようにします:

- 1 **Oracle ILOM Web** インタフェースで、「**Host Management**」 > 「**Diagnostics**」をクリックします。  
「Diagnostics」ページが表示されます。
- 2 診断テストが実行されるタイミングについてのトリガーを指定するには、次のいずれかを選択します:
  - **Power On** - 電源投入時に診断を実行します。
  - **HW Change** - ユーザーによる電源リセット時に診断を実行します。
  - **Error Reset** - エラーによる電源リセット時に診断を実行します。
- 3 各トリガーのテストレベルを指定するには、次のいずれかを選択します:
  - **Min** - 最小レベルの診断を実行してシステムを検証します。
  - **Max** - 最大セットの診断を実行してシステムの健全性を完全に検証します (デフォルト値)。
- 4 各トリガーについて報告される詳細度を指定するには、次のいずれかを選択します:
  - **None** - 障害が検出されないかぎり、診断の実行時に出力をシステムコンソールに表示しません。

- **Min**-診断の実行時に、限定的な出力をシステムコンソールに表示します。
  - **Normal**-各テストの名前と結果を含む中程度の量の出力を、診断の実行時にシステムコンソールに表示します。
  - **Debug**-テストされているデバイスと各テストのデバッグ出力を含む詳細なデバッグの出力を、診断の実行時にシステムコンソールに表示します。
- 5 診断を有効にするモードを指定するには、次のいずれかを選択します:
- **Off**-診断テストを実行するすべてのトリガーを無効にします。
  - **Normal**-(デフォルト)ステップ 2 で指定されたトリガーに基づき診断テストを実行します。
- 6 このページの変更を保存するには、「**Save**」をクリックします。

## ▼ ブート時の SPARC 診断の実行を有効にする (CLI)

始める前に

- SPARC システムの Oracle ILOM 内で SPARC 診断プロパティーを変更するには、Reset and Host control (r) の役割が必要です。
- ホストモードプロパティー `/HOST/diag` を使用して、診断を有効にするかどうかを制御し、有効にする診断モードを指定します。

システムに電源を投入したときに SPARC サーバー診断テストの実行を有効にするには、次のようにします:

- 1 SPARC 診断テストを実行するトリガーを指定するには、次のように入力します:

```
set /HOST/diag trigger=value
```

ここで、*value* は、次のいずれかにできます:

- **none**-診断テストを実行しません。
- **user-reset**-ユーザーによる電源リセット時に診断を実行します。
- **power-on-reset**-ホストオペレーティングシステムに電源を投入したときに診断を実行します。
- **error-reset**-エラーによる電源リセット時に診断を実行します。
- **all-resets**-電源リセットが発生するたびに診断を実行します。

2 実行する診断のレベルを指定するには、次のいずれかを選択します:

- ホストオペレーティングシステムへの電源投入の場合、次のように入力します:  
`set /HOST/diag power_on_level=value`
- ユーザーによるホストオペレーティングシステムのリセットの場合、次のように入力します:  
`set /HOST/diag user_reset_level=value`
- システムエラーによるホストオペレーティングシステムのリセットの場合、次のように入力します:  
`set /HOST/diag error_reset_level=value`

ここで、*value* は、次のいずれかです:

- *min* – 最小セットの診断を実行してシステムの健全性を部分的に検証します。
- *max* – (デフォルト) 最大セットの診断を実行してシステムの健全性を完全に検証します。

3 診断テストが実行されたときのレポートの詳細度を指定するには、次のいずれかを実行します:

- ホストへの電源投入の場合、次のように入力します:  
`set /HOST/diag power_on_verbosity=value`
- ユーザーによるホストのリセットの場合、次のように入力します:  
`set /HOST/diag user_reset_verbosity=value`
- システムエラーによるホストのリセットの場合、次のように入力します:  
`set /HOST/diag error_reset_verbosity=value`

ここで、*value* は、次のいずれかです:

- *none* – 障害が検出されないかぎり、診断の実行時に出力をシステムコンソールに表示しません。
- *min* – 診断の実行時に、限定的な出力をシステムコンソールに出力します。
- *normal* – (デフォルト) 中程度の量の出力を、診断の実行時にシステムコンソールに表示します。
- *max* – 各テストの名前と結果を含む完全な出力を、診断の実行時にシステムコンソールに表示します。
- *debug* – デバイスのテストと各テストのデバッグ出力を含む詳細なデバッグの出力を、診断の実行時にシステムコンソールに表示します。

4 診断モードを指定するには、次のように入力します:

```
set /HOST/diag mode=value
```

ここで、*value* は、次のいずれかです:

- **off** - 診断テストを実行しないようにします。
- **normal** - (デフォルト) ステップ 1 で指定されたトリガーに基づき診断テストを実行します。



# Oracle ILOM 障害管理シェルによる Sun ハードウェア障害の管理

| 説明   | リンク   |
|--|---|
| ハードウェア障害の通知、修正作業、および障害の自動クリアーについて説明するトピックについては、このセクションを参照してください。   | <ul style="list-style-type: none"><li>99 ページの「ハードウェア障害から保護する: Oracle ILOM 障害マネージャー」</li></ul>   |
| Oracle ILOM 障害管理シェルから障害管理コマンドを起動および実行する手順については、これらのセクションを参照してください。 | <ul style="list-style-type: none"><li>101 ページの「Oracle ILOM 障害管理シェル」</li><li>104 ページの「<code>fmadm</code> を使用してアクティブな Sun ハードウェア障害を管理する」</li><li>104 ページの「障害の発生したアクティブなコンポーネントについての情報を表示する (<code>fmadm faulty</code>)」</li><li>108 ページの「<code>fmdump</code> を使用して障害管理履歴ログを表示する」</li><li>111 ページの「<code>fmstat</code> を使用して障害管理統計レポートを表示する」</li></ul> |

## 関連情報

- 『Oracle x86 サーバー診断ガイド Oracle ILOM 3.1 を使用するサーバー向け』
- Oracle Sun サーバーのサービスマニュアル

## ハードウェア障害から保護する: Oracle ILOM 障害マネージャー

Oracle ILOM の障害マネージャーは、Oracle ILOM Sun 管理対象デバイス上で発生する可能性がある問題についての解決を支援するためのものです。たとえば、障害マネージャーはエラーを検出および解釈し、障害または不具合が管理対象システムに存在するかどうかを判定します。判定が実行されると、障害マネージャーは、問題の原因となっていると可能性がある疑わしいハードウェアコンポーネントの一覧を出力します。

Sun 管理対象デバイスにハードウェア障害が検出されたときに Oracle ILOM によって稼働時間を向上させるための方法についての詳細は、次を参照してください:

- 100 ページの「ハードウェア障害通知」
- 100 ページの「ハードウェア障害の修正措置」
- 100 ページの「障害イベントのクリアー: 修復されたハードウェア」

## ハードウェア障害通知

ハードウェア障害または不具合が診断されたことを示す通知は、「Open Problems」表示形式出力に表示され、Sun ハードウェアのお客様は Oracle ILOM インタフェースからこの出力を表示できます。「Open Problems」出力で提供されるハードウェア障害通知に加えて、障害マネージャーはイベントログおよび障害管理ログにイベントメッセージを記録します。お客様は Oracle ILOM インタフェースからイベントログを表示できます。Oracle の保守担当者は Oracle ILOM 障害管理シェルから障害管理ログを表示できます。

---

注 - Simple Network Management Protocol (SNMP) または Simple Mail Transfer Protocol (SMTP) を使用することによって、障害イベントの通知を構成することも可能です。SNMP 構成の詳細については、『SNMP、IPMI、CIM、WS-MAN プロトコル管理』の「Oracle ILOM での SNMP 設定の構成」を参照してください。SMTP 構成の詳細については、『構成および保守』の「電子メール警告用の SMTP クライアントを構成する」を参照してください。

---

## ハードウェア障害の修正措置

診断された問題が通知されたら、推奨されるナレッジ記事を常に参照して詳細を調べてください。「Open Problems」出力のイベント通知とログファイルのイベントメッセージには、推奨されるナレッジ記事への <http://> 参照が提供されています。

## 障害イベントのクリアー: 修復されたハードウェア

Oracle ILOM の障害イベントおよび通知は、修復または交換されたリソースが現場交換可能ユニット (FRU) に関連付けられている場合、自動的にクリアーされます。修復または交換されたリソースが FRU に関連付けられていない場合、Oracle ILOM は修復または交換を検出できないため、「Open Problems」出力またはログファイル内の障害イベント通知は自動的にクリアーされません。検出されない修復または交換に対する Oracle ILOM 内での障害イベントのクリアーについては、[105 ページの「修復または交換についての障害をクリアーする」](#)を参照してください。

## Oracle ILOM 障害管理シェル

Oracle ILOM 障害管理シェルを使用すると、Oracle の保守担当者は Sun 管理対象デバイス上で検出された障害動作を表示および管理できます。

Oracle ILOM 障害管理シェルを使用する方法の詳細については、これらのトピックを参照してください:

- 101 ページの「障害管理の用語」
- 102 ページの「障害管理シェルセッションを起動する (CLI)」



注意 - Oracle ILOM 障害管理シェルの目的は、Oracle の保守担当者がシステムの問題を診断しやすくすることです。Oracle の保守担当者からのリクエストがないかぎり、お客様はこのシェルを起動したり障害管理コマンドを実行したりしないでください。

## 障害管理の用語

| 用語      | 説明   |
|---------|--|
| 予防的自己修復 | 予防的自己修復は、ソフトウェアおよびハードウェアの障害状態を自動的に診断、レポート、および処理するための障害管理アーキテクチャーおよび方法です。予防的自己修復によって、ハードウェアまたはソフトウェアの問題をデバッグするために必要な時間が削減され、各障害の詳細データが管理者または Oracle の保守担当者に提供されます。このアーキテクチャーは、イベント管理プロトコル、障害マネージャー、障害対処エージェント、および診断エンジンで構成されます。 |
| 診断エンジン  | Oracle ILOM の障害管理アーキテクチャーには、検出されたシステムエラーについての障害イベントをブロードキャストする診断エンジンが含まれています。Oracle ILOM の障害管理アーキテクチャーでサポートされている診断エンジンの一覧については、 <a href="#">111 ページの「fmstat レポートの例および説明」</a> を参照してください。  |

| 用語             | 説明   |
|----------------|--|
| 健全性状態          | <p>Oracle ILOM は、遠隔測定情報を受信した各リソースに、次の健全性状態を関連付けます。Oracle ILOM インタフェースに表示される可能性のある状態は、次のとおりです:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>ok</b> – ハードウェアリソースはシャーシ内に存在して使用中です。既知の問題は検出されていません。</li> <li>■ <b>unknown</b> – ハードウェアリソースは存在しないか使用できませんが、既知の問題は検出されていません。この管理状態は、疑わしいリソースがシステム管理者によって無効にされていることを示している可能性があります。</li> <li>■ <b>faulted</b> – ハードウェアリソースはシャーシ内に存在しますが、1つ以上の問題が検出されたため使用できません。システムに対する追加の損害を回避するために、ハードウェアリソースは無効(オフライン)にされています。</li> <li>■ <b>degraded</b> – ハードウェアリソースは存在して使用できますが、1つ以上の問題が検出されています。影響を受けるすべてのハードウェアリソースが同じ状態の場合、このステータスはそのリストの末尾のイベントメッセージに反映されます。それ以外の場合、影響を受けるリソースごとに別の健全性状態が表示されます。</li> </ul> |
| 障害             | <p>障害とは、ハードウェアコンポーネントが存在するものの、Oracle ILOM 障害マネージャーによって1つ以上の問題が診断されたために使用できないか機能が低下していることを示します。システムに対する追加の損害を回避するために、コンポーネントは無効にされています。</p>   |
| Sun 管理対象デバイス   | <p>Sun 管理対象デバイスは、Sun ラックマウントサーバー、Sun ブレード CMM、または Sun ブレードシャーシである可能性があります。</p>   |
| FRU            | <p>FRU は現場交換可能ユニット(ドライブ、メモリー DIMM、プリント回路基板など)です。</p>   |
| CRU            | <p>CRU は顧客交換可能ユニット(Sun ブレードシャーシの NEM など)です。</p>  |
| 汎用一意識別子 (UUID) | <p>UUID は、任意のシステムのセット全体で問題を一意に識別するために使用されます。</p>   |

## ▼ 障害管理シェルセッションを起動する (CLI)

始める前に

- Sun ハードウェアのお客様はこの手順を実行する前に、Oracle の保守担当者の許可を求めるとしててください。

- Oracle ILOM CLI から障害管理シェルを起動するには、Admin (a) 役割権限が必要です。

Oracle ILOM 障害管理シェルを起動するには、次のようにします:

- 1 まだ実行していない場合、17 ページの「Oracle ILOM CLI にログインする」の説明に従って CLI にログインします。

Oracle ILOM CLI のプロンプト (->) が表示されます。

- 2 障害管理シェルのセッションを起動するには、次のように入力します:

```
start /SP/faultmgmt/shell
```

次のいずれかの障害管理シェルコマンドプロンプトが表示されます:

- Sun SP 管理対象デバイスの場合は「`faultmgmtsp>`」と表示されます。
- Sun CMM 管理対象デバイスの場合は「`faultmgmtcmm>`」と表示されます。

---

注 - 障害管理シェルを開始したあと、障害管理シェルを終了するまでは、障害管理シェルに固有のコマンドのみを実行できます。

---

- 3 障害管理シェルコマンドを実行するには、次のいずれかを実行します:

- 障害の発生したアクティブなコンポーネントを管理します (障害の発生したコンポーネントを表示するか、検出されない修復または交換についての障害をクリアします)。104 ページの「`fmadm` を使用してアクティブな Sun ハードウェア障害を管理する」を参照してください。
- 障害管理活動の履歴を表示します。108 ページの「`fmdump` を使用して障害管理履歴ログを表示する」を参照してください。
- 障害管理処理の統計レポートを表示します。111 ページの「`fmstat` を使用して障害管理統計レポートを表示する」を参照してください。

- 4 次のいずれかの外部コマンドにヘルプ情報を表示するには、次のように入力します:

```
help fmadm
```

```
help fmdump
```

```
help fmstat
```

- 5 障害管理シェルを終了するには、`faultmgmt` プロンプトで次のように入力します:

```
exit
```

---

注 - 標準の Oracle ILOM CLI コマンドを実行するには、まず障害管理シェルを終了する必要があります。

---

## 参考 関連情報

- 104 ページの「fmadm を使用してアクティブな Sun ハードウェア障害を管理する」
- 108 ページの「fmdump を使用して障害管理履歴ログを表示する」
- 111 ページの「fmstat を使用して障害管理統計レポートを表示する」

# fmadm を使用してアクティブな Sun ハードウェア障害を管理する

障害管理シェルの fmadm ユーティリティを使用して、Oracle ILOM 障害マネージャーによって従来より管理されているアクティブな Sun ハードウェア障害を表示および管理します。fmadm ユーティリティを使用して障害動作を表示および管理する方法の詳細については、これらのトピックを参照してください:

- 104 ページの「障害の発生したアクティブなコンポーネントについての情報を表示する (fmadm faulty)」
- 105 ページの「修復または交換についての障害をクリアーする」

## ▼ 障害の発生したアクティブなコンポーネントについての情報を表示する (fmadm faulty)

---

注-Sun ハードウェアのお客様の場合、障害の発生したコンポーネントに関するアクティブな情報を表示するために優先される方法は、Oracle ILOM CLI および Web インタフェースで提供されている「Open Problems」表出力内でコンポーネントの健全性状態を表示することです。

---

- 1 まだ実行していない場合、102 ページの「障害管理シェルセッションを起動する (CLI)」の説明に従って CLI から障害管理シェルを起動します。  
faultmgmtsp> または faultmgmtcmm> プロンプトが表示されます。
- 2 Sun 管理対象デバイスについて報告された、アクティブで障害のあるハードウェアコンポーネントについての情報を表示するには、次のように入力します:  
**fmadm faulty <-display\_option>**  
たとえば、次のようにして表示します:
  - アクティブで障害のあるすべてのコンポーネントについては、次のように入力します:  
**fmadm faulty -a**
  - アクティブで障害のある FRU については、次のように入力します:

**fmadm faulty -f**

- アクティブで障害のある FRU と、それらの障害管理状態については、次のように入力します:

**fmadm faulty -r**

- 障害イベントごとに 1 行に障害のサマリーを表示するには、次のように入力します:

**fmadm faulty -s**

- 特定の汎用一意識別子 (UUID) に一致する障害診断イベントについては、次のように入力します:

**fmadm faulty -u <uuid>**

- 3 該当する場合、報告された問題を解決するための追加の指示については、**fmadm faulty** 出力内にある **http://** で参照されるナレッジ記事を参照してください。

**参考 関連情報**

- 101 ページの「障害管理の用語」
- 107 ページの「交換または修復された未検出のハードウェアコンポーネントについての障害をクリアーする」
- 42 ページの「未解決の問題の管理」

## 修復または交換についての障害をクリアーする

Sun 管理対象デバイス上で障害の発生したコンポーネントを交換または修復したあとは、Oracle ILOM 障害マネージャーが修復または交換を自動的に検出し、関連付けられた障害メッセージをシステムからクリアーします。ただし、交換または修復されたハードウェアコンポーネントが FRU シリアル番号に関連付けられていない場合、修正保守作業は Oracle ILOM によって検出されず、検出されない修復に関連付けられた障害イベントメッセージは Oracle ILOM インタフェースからクリアーされません。

---

注 - Oracle ILOM 障害マネージャーは、Sun Blade CMM 顧客交換可能ユニット (CRU) の修復または交換の保守作業を検出できません。

---

Oracle の保守担当者からの許可があれば、お客様は Oracle ILOM 障害管理シェルから **fmadm** 修復コマンドを実行して、検出されていない修復または交換の保守作業についての障害メッセージを手動でクリアーできます。詳細は、これらのトピックを参照してください:

- 106 ページの「**fmadm** コマンドの使用法と構文」

- 107 ページの「交換または修復された未検出のハードウェアコンポーネントについての障害をクリアする」

## fmadm コマンドの使用法と構文

| fmadm 修復コマンド        | 使用法:  |
|---------------------|---|
| acquit fru cru      | <p>指定された障害が発生したコンポーネントは障害と見なされず、無視しても問題がないことを Oracle ILOM 障害マネージャーに通知します。fmadm acquit コマンドは、ドキュメントに記載された Sun ハードウェア修復手順に指示があった場合にのみ使用するようになっています。</p> <p>ラックマウントサーバーのシャーシスロットのスロット 1 内の疑わしいハードディスクドライブを安全に無視する構文の例:</p> <pre>fmadm acquit /SYSTEM/hdd1</pre>  |
| acquit uuid         | <p>uuid リソースによって識別される障害イベントを無視しても問題がないことを Oracle ILOM 障害マネージャーに通知します。fmadm acquit コマンドは、ドキュメントに記載された Sun ハードウェア修復手順に指示があった場合にのみ使用するようになっています。</p> <p>汎用一意識別子の構文の例:</p> <pre>fmadm acquit 6d76a0f4-b5f5-623c-af8b-9d7b53812ea1</pre>   |
| acquit fru cru uuid | <p>uuid リソースで識別される障害イベント、または uuid リソースが指定されない場合は検出されたすべての障害で、指定されたコンポーネントが障害と見なされないことを Oracle ILOM 障害マネージャーに通知します。fmadm acquit コマンドは、ドキュメントに記載された Sun ハードウェア修復手順に指示があった場合にのみ使用するようになっています。</p>  |
| repaired fru cru    | <p>指定された現場交換可能ユニットまたは顧客交換可能ユニット上で修復手順が実行されたことを Oracle ILOM 障害マネージャーに通知します。fmadm repaired コマンドは、Oracle ILOM の障害マネージャーが、修復された FRU を検出できない場合に使用するようになっています。</p> <p>修復されたハードディスクドライブについての構文の例: <code>fmadm repaired /System/hdd1</code></p> <p>このコマンドと同等のコマンド: <code>fmadm repair /System/hdd1</code></p> |
| replaced fru cru    | <p>指定された障害の発生した現場交換可能ユニットまたは顧客交換可能ユニットが交換されたことを Oracle ILOM の障害マネージャーに通知します。このコマンドは、Oracle ILOM が交換を自動検出できない場合に使用するようになっています。</p> <p>交換されたハードディスクドライブについての構文の例: <code>fmadm replaced /System/hdd1</code></p>  |

## ▼ 交換または修復された未検出のハードウェアコンポーネントについての障害をクリアーする

始める前に

- Sun ハードウェアのお客様はこの手順を実行する前に、Oracle の保守担当者の許可を求めるようにしてください。
- 106 ページの「[fmadm コマンドの使用法と構文](#)」を確認します。
- 障害の発生したコンポーネントに必要な修正保守作業が完了する前に障害イベントがクリアーされた場合、Oracle ILOM 障害マネージャーは障害を診断し、この障害イベントを、Oracle ILOM の「Open Problems」テーブルと Oracle ILOM 障害管理ログファイルに再表示します。

検出されないハードウェアの修復または交換についての障害をクリアーするには、次のようにします:

- 1 まだ実行していない場合、102 ページの「[障害管理シェルセッションを起動する \(CLI\)](#)」の説明に従って Oracle ILOM CLI から障害管理シェルを起動します。  
faultmgmtsp> または faultmgmtcmm> プロンプトが表示されます。
- 2 疑わしいアクティブなコンポーネントを識別し、情報を表示します。104 ページの「[障害の発生したアクティブなコンポーネントについての情報を表示する \(fmadm faulty\)](#)」を参照してください。
- 3 交換または修復された未検出のハードウェアコンポーネントについての障害を手動でクリアーするには、該当する修復コマンドを入力します:
  - 疑わしいコンポーネントまたは uuid リソースが交換または修復されたことを示すには、次のように入力します:  
**fmadm replaced** <fru|cru|uuid>
  - 疑わしいコンポーネントまたは uuid リソースが物理的に修復され、報告されていた問題が解決した(コンポーネントの再設置や曲がったピンの修理などが行われた)ことを示すには、次のように入力します:  
**fmadm repaired** <fru|cru|uuid>
  - 疑わしいコンポーネントまたは uuid リソースが、問題の原因でないことを示すには、次のように入力します:  
**fmadm acquit** <fru|cru|uuid>  
「<fru|cru|uuid>」と表示されている場所には、疑わしいシャーシ FRU または CRU へのシステムパスを入力するか、問題で報告されたリソースに関連付けられた汎用一意識別子 (uuid) を入力します。

---

注- 交換は修復よりも優先され、交換と修復は赦免よりも優先されます。したがって、コンポーネントを解除したあとで赦免することはできませんが、既に修復されたコンポーネントを赦免することはできません。

---

構文の説明および例については、106 ページの「[fmadm コマンドの使用法と構文](#)」を参照してください。

- 4 最後に実行した障害管理コマンドの終了コードを表示するには、次のように入力します:

**echo \$?**

次のいずれかの echo コードが表示されます:

---

| コード | 説明   |
|-----|--|
| 0   | 正常に完了しました。   |
| 1   | エラーが発生しました。エラーには、Oracle ILOM との通信が失敗した場合や、リクエストされた操作を実行する十分な権限がない場合が含まれます。 |

---

#### 参考 関連情報

- [101 ページの「障害管理の用語」](#)
- [104 ページの「障害の発生したアクティブなコンポーネントについての情報を表示する \(fmadm faulty\)」](#)
- [42 ページの「未解決の問題の管理」](#)

## fmdump を使用して障害管理履歴ログを表示する

Oracle ILOM 障害マネージャーでは、システムの問題についての履歴情報を2つのセットのログファイルに保持し、Oracle の保守担当者が使用できるようにします。ログファイルのセットは、アクティブなシステムイベントといくつかの古いシステムイベントによって構成されることがあります。

- [109 ページの「ログファイル表示コマンドおよびログの説明」](#)
- [109 ページの「障害管理ログファイルを表示する \(fmdump\)」](#)

# ログファイル表示コマンドおよびログの説明

| 表示コマンド    | ターゲットログ | 説明   |
|-----------|---------|--|
| fmdump    | 障害ログ    | 障害管理の障害ログには、人間が読み取り可能な障害診断情報と、症状に関係する可能性がある問題が記録されます。<br><br>記録されたイベントごとにタイムスタンプと説明が示されます。   |
| fmdump -e | エラーログ   | 障害管理のエラーログには、エラーの遠隔測定と、システムによって検出された問題の症状が記録されます。記録された問題ごとに、次のことを識別します: <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 問題が検出されたタイムスタンプ。</li> <li>■ 任意のシステムのセット全体で特定の問題を一意に識別する汎用一意識別子 (UUID)。</li> <li>■ Oracle サポート Web サイトに送信された対応するナレッジ記事にアクセスする <code>http://</code> 識別子。</li> </ul> |



注意-管理保守作業は、障害管理履歴ログファイルの内容ではなく、アクティブな `fmadm faulty` 出力に基づくようにしてください。障害管理ログファイルに含まれるのは履歴イベントであり、これは障害または不具合のアクティブなイベントとは見なさないでください。

## ▼ 障害管理ログファイルを表示する (fmdump)

始める前に

- Sun ハードウェアのお客様はこの手順を実行する前に、Oracle の保守担当者の許可を求めるようにしてください。
- 109 ページの「ログファイル表示コマンドおよびログの説明」を確認します。

障害管理ログファイルを表示するには、次のようにします:

- 1 まだ実行していない場合、102 ページの「障害管理シェルセッションを起動する (CLI)」の説明に従って CLI から障害管理シェルを起動します。  
`faultmgmtsp>` または `faultmgmtcmm>` プロンプトが表示されます。
- 2 障害管理ログファイルセット内に維持されている内容を表示するには、次のいずれかを実行します:
  - 障害ログを表示するには、次のように入力します:

```
fmdump
```

- 特定の汎用一意識別子 (UUID) についての障害ログを表示するには、次のように入力します:

```
fdump -u <uuid>
```

- エラーログを表示するには、次のように入力します:

```
fdump -e
```

---

注- 障害ログの場合、`fdump`によって表示されるのは今までに診断されたすべての問題であり、診断されたアクティブな問題に限らないことを理解しておくことが特に重要です。アクティブな障害のみを表示するには、`fmadm faulty` コマンドを実行します。

---

- 3 ログ表示をローテーションするには、次のいずれかを入力します:

- 障害ログ表示をローテーションするには、次のように入力します:

```
fmadm rotate fltlog
```

- エラーログ表示をローテーションするには、次のように入力します:

```
fmadm rotate errlog
```

- 4 最後に実行した障害管理コマンドの終了コードを表示するには、次のように入力します:

```
echo $?
```

次のいずれかの echo コードが表示されます:

| コード | 説明                                     |
|-----|--|
| 0   | 正常に完了しました。ログファイル内のすべてのレコードが正常に検査されました。 |
| 1   | 無効なコマンド行オプションが指定されました。                 |

## 参考 関連情報

- 101 ページの「障害管理の用語」
- 104 ページの「障害の発生したアクティブなコンポーネントについての情報を表示する (`fmadm faulty`)」
- 42 ページの「未解決の問題の管理」

## fmstat を使用して障害管理統計レポートを表示する

Oracle ILOM 障害マネージャーでは、障害管理処理に参加している診断エンジンおよびエージェントに関する表示可能な統計レポートが維持されています。このレポートの詳細については、次を参照してください:

- 111 ページの「[fmstat レポートの例および説明](#)」
- 112 ページの「[障害管理統計レポートを表示する \(fmstat\)](#)」

## fmstat レポートの例および説明

- 111 ページの「[fmstat レポートの例](#)」
- 112 ページの「[fmstat レポートプロパティの説明](#)」

### fmstat レポートの例

```
faultmgmtsp> fmstat
fdd statistics    2011-02-03/19:12:51

engine           status   evts_in  evts_out  errors
repair           empty   8        0         0
hysteresis       empty   0        0         0
SERD             empty   0        0         0
simple            empty  12       0         0
```

## fmstat レポートプロパティの説明

| プロパティ    | 説明  |
|----------|---|
| engine   | <p>fmstat 表出力の engine 列は、診断エンジンの名前を識別します:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>repair</b> – 指定した ereport が記録された場合、障害は修復済みと見なすようにすることを示す規則。たとえば、<code>ereport.chassis.boot.power-off-requested@/system</code> が記録された場合、<code>fault.chassis.power.inadequate@/sys</code> という障害は修復済みと見なされます。</li> <li>■ <b>hysteresis</b> – ereport A (開始) が記録され、その後、指定した時間内に B (キャンセル) が記録されない場合、障害と診断する規則。たとえば、ereport A は <code>ereport.fan.speed-low-asserted</code> で ereport B は <code>ereport.fan.speed-low-deasserted</code> です。開始/キャンセル間の時間制限は 10 秒以下です。</li> <li>■ <b>SERD</b> – 複数出現した ereport の追跡には Soft Error Rate Discrimination (SERD) が使用されます。N を超える数の ereports が期間 T 以内に出現した場合、障害と診断されます。たとえば、指定した期間内に記録された修正可能なメモリーエラーの ereport が多すぎる場合、DIMM 障害と診断されます。</li> <li>■ <b>simple</b> – 1 つの ereport で複数の障害の診断を出力できる規則。たとえば、修正不可能なメモリーエラーに関する 1 つの ereport は、1 つの DIMM ペアの 2 つの DIMM に関する障害と診断できます。</li> </ul> |
| status   | <p>fmstat 表出力の status 列は診断エンジンの現在の状態を識別し、<code>uninit</code>、<code>empty</code>、<code>enqueued</code>、<code>busy</code>、または <code>exiting</code> が含まれることがあります。</p>  |
| evts_in  | <p>fmstat 表出力の evts_in 列は、診断に関してエンジンが受け取ったイベントの数を識別します。</p>   |
| evts_out | <p>fmstat 表出力の evts_out 列は、エンジンによって検出および送信された障害の数を示します。</p>   |
| errors   | <p>fmstat 表出力の errors 列は、エンジンによって検出された内部エラーの数を識別します。</p>  |

## ▼ 障害管理統計レポートを表示する (fmstat)

始める前に

- Sun ハードウェアのお客様はこの手順を実行する前に、Oracle の保守担当者の許可を求めるようにしてください。
- 111 ページの「[fmstat レポートの例および説明](#)」を確認します。

障害管理操作の統計を表示するには、次のようにします:

- 1 まだ実行していない場合、102 ページの「障害管理シェルセッションを起動する (CLI)」の説明に従って CLI から障害管理シェルを起動します。  
faultmgmtsp> または faultmgmtcmm> プロンプトが表示されます。
- 2 障害管理統計レポートを表示するには、次のように入力します:

```
fmstat
```

#### 参考 関連情報

- 101 ページの「障害管理の用語」
- 104 ページの「fmadm を使用してアクティブな Sun ハードウェア障害を管理する」
- 105 ページの「修復または交換についての障害をクリアする」
- 108 ページの「fmdump を使用して障害管理履歴ログを表示する」
- 42 ページの「未解決の問題の管理」



# コマンド行インタフェースの使用

---

| 説明   | リンク                                       |
|--|---|
| Distributed Management Task Force コマンド行プロトコルについては、このトピックを参照してください。 | 115 ページの「コマンド行インタフェース (CLI) について」         |
| CLI コマンド構文については、このトピックを参照してください。                                   | 116 ページの「CLI コマンド構文」                      |
| サポートされる CLI コマンドについては、このトピックを参照してください。                             | 117 ページの「サポートされているコマンドおよびオプション」           |
| コマンドを実行する方法を説明するトピックについては、このセクションを参照してください。                        | 120 ページの「CLI コマンドを実行して 1 つ以上のプロパティを変更する」  |
| 管理タスクがターゲットネームスペース階層内で実行される場所を説明するトピックについては、このセクションを参照してください。      | 123 ページの「管理タスクを CLI ネームスペースターゲットにマッピングする」 |

## 関連情報

- 27 ページの「コマンド行インタフェース (CLI) のターゲットネームスペースをナビゲートする」

## コマンド行インタフェース (CLI) について

Oracle ILOM CLI は、Distributed Management Task Force (DMTF) の『Server Management Command-Line Protocol Specification (SM CLP), version 11.0a.8 Draft』に基づいています。この仕様全体は、次のサイトで参照できます：

<http://www.dmtf.org/>

Oracle ILOM において、SM CLP は、サーバーの状態、アクセス方法、またはインストールされているオペレーティングシステムにかかわらず、サーバーを管理するためのユーザーインタフェースを提供します。

サーバー管理 CLP アーキテクチャーでは、階層的な名前スペースをモデル化しており、システム管理下にあるすべてのオブジェクトを含むツリーがあらかじめ定義されています。このモデルでは、少数のコマンドを使用してターゲットの大きな名前スペースを操作し、ターゲットは、オプションやプロパティーで変更できません。この名前スペースでは、各コマンド動詞のターゲットが定義されています。

サーバー管理 CLP は、スクリプト環境にも適しています。Expect などのスクリプトツールを使用することで、複数のサーバー上でテストを自動化し、プロビジョニング (共通の構成およびファームウェア更新など) を容易にできます。

Oracle ILOM CLI 名前スペースでのオブジェクトの管理の詳細については、[27 ページの「Oracle ILOM 3.1 CLI のターゲット名前スペース」](#)を参照してください。

## 関連情報

- [116 ページの「CLI コマンド構文」](#)
- [120 ページの「CLI コマンドを実行して1つ以上のプロパティーを変更する」](#)
- [123 ページの「管理タスクを CLI 名前スペースターゲットにマッピングする」](#)

# CLI コマンド構文

Oracle ILOM 内で CLI コマンドを正しく実行するには、必要なコマンド行構文を適用する必要があります。Oracle ILOM CLI を使用するとき、コマンド構文は次のように入力します:

```
command [option] [target] [property] [=value]
```

たとえば、内部の Oracle ILOM Web サーバーの https ポート番号を設定するには、次のようにします (*command target property=value*):

```
-> set /SP/services/http port=80
```

https ターゲットのプロパティーのみを表示するには、次のようにします (*command option target*):

```
-> show -d properties /SP/services/http
```

---

注- コマンド動詞、ターゲット、およびプロパティーの大文字小文字の区別は、CLI 名前スペースによって異なります。問題を回避するために、名前スペースに表示されているものと大文字小文字を一致させるようにしてください。

---

## サポートされているコマンドおよびオプション

次の表に、DMTF サーバー管理 CLP コマンドを示します。すべての CLI ターゲットですべてのコマンドがサポートされているわけではありません。show コマンドを使用して、ターゲットに対してサポートされているコマンドおよびプロパティを表示します。コマンド、ターゲット、およびそれらでサポートされているプロパティ値の詳細については、help コマンドを使用してください。

注 - CLI コマンドの大文字と小文字は区別されます。角括弧 ([]) で囲まれているオプションは省略可能、山括弧 (<>) で囲まれているものはキーワード、パイプ (|) で区切られているものはキーワードまたはオプションの選択を示します。

| コマンド   | 使用可能なオプション                           | 説明  |
|--------|--------------------------------------|---|
| cd     | [-default] [<target>]                | ターゲットのネームスペースをナビゲートします。<br><b>-default</b> — 初期デフォルトターゲットを選択します。  |
| create | [<target>] [<property>=<value> ...]  | ターゲットおよびプロパティ値をネームスペース内に作成します (ユーザーを追加してユーザーの role および password を追加するためなど)。   |
| delete | [-script] [<target>]                 | ネームスペースからオブジェクトを削除します (ユーザーアカウントを削除するためなど)。<br><b>-script</b> — コマンドに通常関連付けられている警告およびプロンプトをスキップします (プロンプトで「yes」を前提)。  |
| dump   | [-force] -destination <URI> [target] | URI で指定されるリモートロケーションにターゲットからファイルを転送します (たとえば、構成またはサービススナップショット)。<br><b>-f  -force</b> — 内部チェックをオーバーライドし、リクエストされたファイルをダンプします。<br><b>-destination &lt;URI&gt;</b> — URI (Uniform Resource Identifier) 形式を使用して必須の宛先パスを指定します。 |
| exit   | なし。                                  | CLI セッションを終了します。  |

| コマンド  | 使用可能なオプション   | 説明   |
|-------|--|--|
| help  | [-format wrap nowrap] [-output terse verbose]<br>[<command> legal targets <target> <target><br><property>] | <p>コマンド、ターゲット、およびターゲットプロパティのヘルプ情報を表示します。</p> <p><b>-format wrap nowrap</b> — ヘルプの画面形式を指定します。</p> <p><b>-o -output terse verbose</b> — 表示されるヘルプテキストの量を指定します。</p> <p>&lt;command&gt; legal targets &lt;target&gt; &lt;target&gt; &lt;property&gt; — ヘルプを取得するコマンド、ターゲット (すべてまたは指定されたターゲット)、またはプロパティを指定します。legal は Oracle ILOM の法的通知を表示します。</p>                      |
| load  | [-output verbose] [-force] [-script] -source<br><URI> [target]   | <p>指定されたソースから指定されたターゲットにファイルを転送します (たとえば、構成またはファームウェアイメージ)。</p> <p><b>-o -output verbose</b> — 表示される情報テキストの量を指定します。</p> <p><b>-f -force</b> — 内部チェックをオーバーライドし、リクエストされたファイルをダンプします。</p> <p><b>-script</b> — コマンドに通常関連付けられている警告およびプロンプトをスキップします (プロンプトで「yes」を前提)。</p> <p><b>-source &lt;URI&gt;</b> — URI (Uniform Resource Identifier) 形式を使用して必須のソースパスを指定します。</p> |
| reset | [-script] [<target>]   | <p>ターゲットをリセットします (たとえば、ホストまたはサービスプロセッサ)。</p> <p><b>-script</b> — コマンドに通常関連付けられている警告およびプロンプトをスキップします (プロンプトで「yes」を前提)。</p>  |
| set   | [<target>] <property>=<value><br>[<property>=<value> ...]  | ターゲットプロパティを指定の値に設定します。   |

| コマンド    | 使用可能なオプション  | 説明  |
|---------|---|---|
| show    | [-display targets properties commands all]<br>[-a] [-level 1 2 3...255 all] [-format<br>wrap nowrap] [-output table] [-t] [<target>]<br>[<property> <property> ...] | ターゲットとプロパティについての情報を表示します。<br><br>-d -display — 表示される情報を指定します。<br><br>-a — -display all と同じ。<br><br>-l -level — ターゲット階層内でアクションが適用される相対レベルを指定します。<br><br>-format wrap nowrap — 画面形式を指定します。<br><br>-o -output table — 出力を表形式で表示することを指定します。<br><br>-t - -level all -output table と同じ。 |
| start   | [-script] [-force] [<target>]   | ターゲットを開始します (ホストシステムまたは Oracle ILOM 内部シェルなど)。<br><br>-script — コマンドに通常関連付けられている警告およびプロンプトをスキップします (プロンプトで「yes」を前提)。<br><br>-f -force — 内部チェックをオーバーライドし、アクションをすぐ実行します。   |
| stop    | [-script] [-force] [<target>]   | ターゲットを停止します (ホストシステムなど)。<br><br>-script — コマンドに通常関連付けられている警告およびプロンプトをスキップします (プロンプトで「yes」を前提)。<br><br>-f -force — 内部チェックをオーバーライドし、アクションをすぐ実行します。  |
| version | なし。   | サービスプロセッサのファームウェアバージョンを表示します。   |

## 関連情報

- 27 ページの「コマンド行インタフェース (CLI) のターゲットネームスペースをナビゲートする」
- 120 ページの「CLI コマンドを実行して 1 つ以上のプロパティを変更する」
- 123 ページの「管理タスクを CLI ネームスペースターゲットにマッピングする」

## CLI コマンドを実行して1つ以上のプロパティを変更する

コマンド、ターゲット、および変更するプロパティ値を指定することによって、ほとんどの CLI コマンドを実行できます。同一コマンド行で単一のプロパティまたは複数のプロパティを変更するようにコマンド実行を選択できます。Oracle ILOM 接続を中断する可能性がある一部のプロパティでは、プロパティ値の変更をコミットすることも必要になります。

CLI コマンドの実行に関する詳細は、次のトピックを参照してください:

- 120 ページの「単一のプロパティを変更するためのコマンドを実行する」
- 121 ページの「複数のプロパティを変更するためのコマンドを実行する」
- 121 ページの「確認が必要なコマンドを実行する」

### 単一のプロパティを変更するためのコマンドを実行する

ターゲットにナビゲートするか、ターゲットへのフルパスを入力することによってコマンドを実行できます。

- ターゲットにナビゲートし、ターゲットのプロパティを表示し、コマンドを実行します。

たとえば、Oracle ILOM Web サーバーの HTTP ユーザーセッションタイムアウトを 30 分に設定するには、次のようにします:

```
-> cd /SP/services/http  
/SP/services/http
```

```
-> show
```

```
/SP/services/http  
Targets:
```

```
Properties:  
port = 80  
secureredirect = disabled  
servicestate = enabled  
sessiontimeout = 15
```

```
Commands:  
cd  
set  
show
```

```
-> set sessiontimeout=30
```

- または、プロパティへのフルパスを使用してコマンドを入力することによって、ネームスペースの任意の場所からプロパティを変更できます。

```
-> set /SP/services/http sessiontimeout=30
```

## 関連情報

- 121 ページの「複数のプロパティを変更するためのコマンドを実行する」
- 121 ページの「確認が必要なコマンドを実行する」

## 複数のプロパティを変更するためのコマンドを実行する

ターゲットの複数のプロパティ値を同一のコマンド行で設定できます。

たとえば、HTTP Web サービスを無効にし、すべての HTTP リクエストを、Oracle ILOM Web サーバーのよりセキュアな HTTPS Web サービスにリダイレクトするには、次のようにします:

```
-> set /SP/services/http servicestate=disable securerredirect=enabled
```

## 関連情報

- 120 ページの「単一のプロパティを変更するためのコマンドを実行する」
- 121 ページの「確認が必要なコマンドを実行する」

## 確認が必要なコマンドを実行する

プロパティの変更によって現在のユーザーセッションが中断される可能性があるターゲットの場合、構成には変更のコミットが含まれます。

たとえば、サービスプロセッサの IPv4 ネットワーク設定を変更するには、次のようにします:

1. 現在のネットワーク設定を表示します。

```
-> show /SP/network
```

```
/SP/network
Targets:
interconnect
ipv6
test

Properties:
commitpending = (Cannot show property)
dhcp_clientid = none
dhcp_server_ip = none
ipaddress = 192.0.2.22
ipdiscovery = static
```

```
ipgateway = 192.0.2.1
ipnetmask = 10.255.255.0
macaddress = 00:28:25:E7:18:0C
managementport = MGMT
outofbandmacaddress = 00:28:25:E7:18:0C
pendingipaddress = 192.0.2.22
pendingipdiscovery = static
pendingipgateway = 192.0.2.1
pendingipnetmask = 10.255.255.0
pendingmanagementport = MGMT
sidebandmacaddress = 00:28:25:E7:18:0D
state = enabled
```

Commands:

```
cd
set
show
```

->

2. 設定を変更するには、最初に新しい(保留中の)情報を入力します。

```
->set /SP/network pendingipdiscovery=static pendingipaddress=nnn.nn.nn.nn
pendingipgateway=nnn.nn.nn.nn pendingipnetmask=nnn.nn.nn.nn
```

3. 次に、新しい設定が正しいことを確認したあと、新しい設定をコミットして、設定がただちに有効になるようにします:

```
-> set /SP/network commitpending=true
```

---

注-コミットプロパティと保留中の情報を単一コマンド内で組み合わせることもできます。

---

---

注-ネットワーク経由で Oracle ILOM に接続している場合、ネットワーク設定を構成すると、アクティブなセッションが切断されることがあります。変更をコミットしたら、Oracle ILOM に再接続する必要があります。

---

## 関連情報

- [120 ページの「単一のプロパティを変更するためのコマンドを実行する」](#)
- [121 ページの「複数のプロパティを変更するためのコマンドを実行する」](#)
- 『構成および保守』の「Oracle ILOM への管理接続の設定とログイン」

## 管理タスクを CLI ネームスペースターゲットにマッピングする

次のトピックを使用すると、管理タスクが実行される CLI ネームスペース内の場所を識別するのに役立ちます。

- 123 ページの「Oracle ILOM 接続を管理する (Ethernet およびシリアルポート)」
- 125 ページの「Oracle ILOM Web および CLI アクセスを管理する」
- 126 ページの「Oracle ILOM 管理プロトコルのサポートを管理する (SNMP、IPMI、WS-Management)」
- 127 ページの「Oracle ILOM システム識別およびバナーメッセージを管理する」
- 128 ページの「Oracle ILOM クロックを管理する」
- 129 ページの「Oracle ILOM ユーザーを管理する」
- 129 ページの「システムポリシーを管理する」
- 130 ページの「システムの消費電力を管理する」
- 131 ページの「Oracle ILOM 構成を管理する」
- 132 ページの「システム BIOS 構成を管理する (x86 のみ)」
- 133 ページの「ファームウェアを管理する」
- 135 ページの「システムおよびコンポーネントのステータスを表示する」
- 137 ページの「Oracle ILOM ログを管理する」
- 138 ページの「警告通知を管理する」
- 139 ページの「システム機能を制御する (電源投入/切断、リセット、位置特定、ブートデバイス、ブート復旧)」
- 141 ページの「KVMS 設定を管理する」
- 142 ページの「ホストシリアルコンソールをリダイレクトする」
- 142 ページの「ホスト診断を管理する」
- 144 ページの「FRU (現場交換可能ユニット) の障害を管理する」
- 144 ページの「ブレードシャーシ NEM の保守作業を実行する」
- 145 ページの「ブレードシャーシストレージを管理する (ゾーン作成)」
- 146 ページの「ブレードサーバーをシャーシから管理する」
- 146 ページの「/SYS、/STORAGE、および/CH レガシーターゲットを表示する」

## Oracle ILOM 接続を管理する (Ethernet およびシリアルポート)

次の表を使用すると、ラックマウントまたはブレードサーバー SP にログインするか、ブレードシャーシ CMM にログインするときに、ユーザーアカウントおよび管理アクセスのタスクが実行される CLI ネームスペース内の場所を識別するのに役立ちます。すべてのターゲットがすべてのシステムで使用できるわけではありません。

| タスク  | 説明   | 必要なプロパティを含むターゲット                                   | プロパティを構成するために必要なユーザーの役割 |
|--|--|--|-------------------------|
| Oracle ILOM Ethernet ポートを構成します。  | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ Ethernet アクセスを有効または無効にします</li> <li>■ サービスプロセッサの NET MGT ポートまたはホスト ネットワークポートの使用を選択します (すべてのシステムでサポートされているわけではありません)</li> </ul> | /SP/network<br>または<br>/CMM/network                 | Admin (a)               |
| IPv4 用の Oracle ILOM NET MGT Ethernet ポートを構成します。                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ DHCP 用のポートを構成します</li> <li>■ 静的 IP 用のポートを構成します</li> </ul>  | /SP/network<br>または<br>/CMM/network                 | Admin (a)               |
| デュアルスタック IPv4/IPv6 の場合、IPv6 用の Oracle ILOM NET MGT Ethernet ポートを構成します。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 自動構成用のポートを構成します</li> <li>■ DHCPv6 用のポートを構成します</li> <li>■ ポート用の静的 IPv6 アドレスを構成します</li> <li>■ IPv6 動的アドレスを表示します</li> </ul>      | /SP/network<br>ipv6<br>または<br>/CMM/network<br>ipv6 | Admin (a)               |
| ネットワークポートをテストします。  | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ IPv4 または IPv6 テストの ping を送信します</li> </ul>   | /SP/network<br>test<br>または<br>/CMM/network<br>test | Read only (o)           |
| Oracle ILOM の DNS (Domain Name Server) 解決サポートを構成します。                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ DNS 解決を有効にします</li> <li>■ ネームサーバーの IP アドレスを構成します</li> <li>■ ドメイン検索パスを構成します</li> <li>■ 名前検索の試行を構成します</li> </ul>                 | /SP/clients<br>dns                                 | Admin (a)               |
| Oracle ILOM 内部 USB Ethernet ポートを構成します。                                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ ホスト管理用の相互接続ポートを構成します (推奨)</li> <li>■ 静的 IP 用の相互接続ポートを構成します</li> </ul>   | /SP/network<br>interconnect                        | Admin (a)               |

| タスク                                | 説明   | 必要なプロパティを含むターゲット                              | プロパティを構成するために必要なユーザーの役割 |
|------------------------------------|--|---|-------------------------|
| Oracle ILOM SER MGT シリアルポートを構成します。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>外部 SER MGT ポート設定を構成します</li> <li>ホスト内部ポート設定を構成します</li> <li>サービスプロセッサとホストの間で SER MGT ポートの所有権を渡します</li> </ul> <p>注 - SER MGT ポートの所有権のホストへの受け渡しは、Oracle ILOM への Ethernet 接続も使用可能な場合にのみ行うようにします。</p> | /SP/serial<br>external<br>host<br>portsharing | Admin (a)               |

## 関連情報

- 『構成および保守』の「Oracle ILOM への管理接続の設定とログイン」

## Oracle ILOM Web および CLI アクセスを管理する

次の表を使用すると、ラックマウントまたはブレードサーバー SP にログインするか、ブレードシャーシ CMM にログインするときに、ユーザーアカウントおよび管理アクセスのタスクが実行される CLI ネームスペース内の場所を識別するのに役立ちます。

| タスク                     | 説明   | 必要なプロパティを含むターゲット   | プロパティを構成するために必要なユーザーの役割 |
|-------------------------|--|--|-------------------------|
| Oracle ILOM アクセスを構成します。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>Web HTTP アクセスを構成します</li> <li>Web HTTPS アクセスおよび認証を構成します</li> <li>Web セッションタイムアウトを構成します</li> <li>CLI SSH アクセスおよび認証を構成します</li> <li>シングルサインオンを構成します (CMM 経由で実行した場合、1 回のログインですべてのブレードシャーシコンポーネントにアクセス可能)。</li> </ul> | /SP/services<br>http<br>https<br>ssh<br>sso<br>または<br>/CMM/services<br>http<br>https<br>ssh<br>sso | Admin (a)               |

| タスク                             | 説明  | 必要なプロパティを含むターゲット                     | プロパティを構成するために必要なユーザーの役割 |
|---------------------------------|---|--------------------------------------|-------------------------|
| CLI セッションタイムアウトを構成します。          | <ul style="list-style-type: none"> <li>CLI セッションタイムアウトを構成します</li> </ul>                                 | /SP/cli<br>または<br>/CMM/cli           | Admin (a)               |
| Oracle ILOM ユーザーセッションの詳細を表示します。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>現在ログインしているユーザー (名前、役割) を表示します</li> <li>セッションの詳細を取得します</li> </ul> | /SP/sessions<br>または<br>/CMM/sessions | Read only (o)           |

## 関連情報

- 『構成および保守』の「ネットワークの配備および管理のデフォルト設定の変更」

## Oracle ILOM 管理プロトコルのサポートを管理する (SNMP、IPMI、WS-Management)

次の表を使用すると、ラックマウントまたはブレードサーバー SP にログインするか、ブレードシャーシ CMM にログインするときに、ユーザーアカウントおよび管理アクセスのタスクが実行される CLI ネームスペース内の場所を識別するのに役立ちます

| タスク   | 説明   | 必要なプロパティを含むターゲット   | プロパティを構成するために必要なユーザーの役割 |
|---|--|--|-------------------------|
| Oracle ILOM 管理プロトコルサポートを構成します (ホストベースの管理クライアントサポートも可能)。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ IPMI サービスを構成します</li> <li>■ SNMP サービスを構成します (MIB アクセスを含む)</li> <li>■ WS-Management アクセスを構成します</li> </ul> <p>注 - SNMP Set Request 操作を正常に完了するには、SNMP v1 または v2c コミュニティー、または SNMP v3 ユーザーアカウントを読み取り/書き込み (rw) 権限で使用する必要があります。</p> <p>注 - WS-Management は Oracle ILOM の外部の WS-Management クライアント経由で実行されます。wsman HTTP/HTTPS ポートは Oracle ILOM Web HTTP/HTTPS ポートと異なっている必要があります。</p> | /SP/services<br>ipmi<br>snmp<br>wsman<br>または<br>/CMM/services<br>ipmi<br>snmp<br>wsman | Admin (a)               |

## 関連情報

- 『構成および保守』の「デフォルトの管理アクセス構成プロパティの変更」

## Oracle ILOM システム識別およびバナーメッセージを管理する

次の表を使用すると、ラックマウントまたはブレードサーバー SP にログインするか、ブレードシャーシ CMM にログインするときに、管理タスクが実行される CLI ネームスペース内の場所を識別するのに役立ちます。

| タスク              | 説明   | 必要なプロパティを含むターゲット   | プロパティを構成するために必要なユーザーの役割 |
|------------------|--|--------------------|-------------------------|
| システムの説明情報を設定します。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ ホスト名およびシステムの説明を指定します</li> <li>■ システム識別子を指定します (DHCP で使用)</li> <li>■ 場所および連絡先情報を指定します</li> </ul> | /SP<br>または<br>/CMM | Admin (a)               |

| タスク             | 説明   | 必要なプロパティを含むターゲット   | プロパティを構成するために必要なユーザーの役割 |
|-----------------|--|--|-------------------------|
| バナーメッセージを設定します。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 接続メッセージを作成します</li> <li>■ ログインメッセージを作成します</li> </ul> | /SP/preferences<br>banner<br><br>または<br><br>/CMM/preferences<br>banner | Admin (a)               |

## 関連情報

- 『構成および保守』の「システム識別情報の割り当て」

## Oracle ILOM クロックを管理する

次の表を使用すると、ラックマウントまたはブレードサーバー SP にログインするか、ブレードシャーシ CMM にログインするときに、管理タスクが実行される CLI ネームスペース内の場所を識別するのに役立ちます。

| タスク                       | 説明  | 必要なプロパティを含むターゲット   | プロパティを構成するために必要なユーザーの役割 |
|---------------------------|---|--|-------------------------|
| Oracle ILOM の日付と時間を設定します。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 日付と時間を設定します</li> <li>■ タイムゾーンを設定します</li> <li>■ サービスプロセッサの稼働時間統計を表示します</li> <li>■ 時間情報プロトコル同期を有効にします (NTP サーバーが構成されている必要があります)</li> </ul> | /SP/clock<br><br>または<br><br>/CMM/clock                   | Admin (a)               |
| NTP サーバーを構成します。           | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ NTP サーバーを有効にします (IP または DNS ホスト名を使用)</li> </ul>  | /SP/clients<br>ntp<br><br>または<br><br>/CMM/clients<br>ntp | Admin (a)               |

## 関連情報

- 『構成および保守』の「SP または CMM クロックのプロパティの設定」

## Oracle ILOM ユーザーを管理する

次の表を使用すると、ラックマウントまたはブレードサーバー SP にログインするか、ブレードシャーシ CMM にログインするときに、ユーザーアカウントおよび管理アクセスのタスクが実行される CLI ネームスペース内の場所を識別するのに役立ちます。

| タスク   | 説明   | 必要なプロパティを含むターゲット   | プロパティを構成するために必要なユーザーの役割  |
|---|--|--|--|
| Oracle ILOM ユーザーをローカルで管理します (サービスプロセッサあたり 10 まで)。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ ユーザーを追加、削除します</li> <li>■ ユーザーアクセスの役割を設定します</li> <li>■ ユーザーパスワードを設定します</li> <li>■ ユーザー生成の SSH 鍵をアップロードします</li> </ul>   | /SP/users<br>または<br>/CMM/users   | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ ほかのユーザーを管理する場合は User management (u)</li> <li>■ 自分用のアカウントを管理する場合は Read only (o)</li> </ul> |
| 認証サーバーを使用してユーザーの役割および認証を構成します。                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ ユーザーまたはユーザーグループのアクセスおよび認証のための Active Directory を構成します</li> <li>■ ユーザーアクセスおよび認証のための LDAP を構成します</li> <li>■ ユーザーまたはユーザーグループのアクセスおよび認証のための LDAP/SSL を構成します</li> <li>■ ユーザーアクセスおよび認証のための RADIUS を構成します</li> </ul> | /SP/clients<br>activedirectory<br>ldap<br>ldapssl<br>radius<br>または<br>/CMM/clients<br>activedirectory<br>ldap<br>ldapssl<br>radius | User management (u)  |

### 関連情報

- 『構成および保守』の「ユーザーアカウントの設定および管理」

## システムポリシーを管理する

次の表を使用すると、ラックマウントまたはブレードサーバー SP にログインするか、ブレードシャーシ CMM にログインするときに、管理タスクが実行される CLI ネームスペース内の場所を識別するのに役立ちます。

注- ポリシーはシステム固有であるため、一部のシステムでは使用できないこともあります。

| タスク             | 説明   | 必要なプロパティを含むターゲット                 | プロパティを構成するために必要なユーザーの役割 |
|-----------------|--|----------------------------------|-------------------------|
| システムポリシーを構成します。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ ポリシーを有効または無効にします (特殊な電源投入状態など)</li> </ul> | /SP/policy<br>または<br>/CMM/policy | Admin (a)               |

## 関連情報

- 『構成および保守』の「システム管理ポリシー構成の設定」

# システムの消費電力を管理する

次の表を使用すると、ラックマウントまたはブレードサーバー SP にログインするか、ブレードシャーシ CMM にログインするときに、管理タスクが実行される CLI ネームスペース内の場所を識別するのに役立ちます。

| タスク            | 説明  | 必要なプロパティを含むターゲット                     | プロパティを構成するために必要なユーザーの役割 |
|----------------|---|--------------------------------------|-------------------------|
| システムの電力を構成します。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 現在の消費電力および設定を表示します</li> <li>■ 電力の警告のしきい値を構成します</li> <li>■ 電力ポリシーを構成します (パフォーマンス最大、節電)</li> <li>■ 電力制限と、電力制限を超えた場合の違反動作を構成します</li> <li>■ 個々のコンポーネントの電力を表示します (CPU、メモリー、IO、マザーボード)</li> <li>■ サポートされる場合、個々のコンポーネントの電力制限を構成します</li> </ul> | /SP/powermgmt<br>budget<br>powerconf | Admin (a)               |

| タスク                | 説明   | 必要なプロパティを含むターゲット                        | プロパティを構成するために必要なユーザーの役割 |
|--------------------|--|---|-------------------------|
| ブレードシャーシの電力を構成します。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 現在のシャーシの消費電力および設定を表示します</li> <li>■ シャーシ電源の冗長性ポリシーを構成します (使用可能な電力に影響します)</li> <li>■ 電力の警告のしきい値を構成します</li> <li>■ 個々のコンポーネントの電力を表示します (ブレードスロット、NEM、ファン、PSU、CMM)</li> <li>■ サポートされる場合、個々のコンポーネントの電力制限を構成します</li> </ul> | /CMM/powermgmt<br>powerconf<br>advanced | Admin (a)               |

## 関連情報

- 『構成および保守』の「電源警告通知の設定とシステムの電力使用の管理」

## Oracle ILOM 構成を管理する

次の表を使用すると、ラックマウントまたはブレードサーバー SP にログインするか、ブレードシャーシ CMM にログインするときに、管理タスクが実行される CLI ネームスペース内の場所を識別するのに役立ちます。

| タスク                        | 説明  | 必要なプロパティを含むターゲット | プロパティを構成するために必要なユーザーの役割  |
|----------------------------|---|------------------|--|
| Oracle ILOM 構成を保存または復元します。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ Oracle ILOM 構成 (ユーザーが構成したすべての設定) を保存し、ファイルにダンプします</li> <li>■ Oracle ILOM 構成 (ユーザーが構成したすべての設定) を復元し、ファイルからロードします</li> </ul> | /SP/config       | <p>ユーザーの役割によって、バックアップまたは復元される構成データの量が決まります。もっとも完全なバックアップまたは復元を行うには、次が必要です:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ Admin (a)</li> <li>■ User Management (u)</li> <li>■ Console (c)</li> <li>■ Reset and HostControl (r)</li> <li>■ Read Only (o)</li> </ul> |

| タスク   | 説明  | 必要なプロパティを含むターゲット   | プロパティを構成するために必要なユーザーの役割 |
|---|---|--------------------|-------------------------|
| Oracle ILOM 構成をデフォルトにリセットします。                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ ユーザーが構成したすべての設定をデフォルトにリセットしてログファイルを削除します</li> <li>■ ユーザーが構成した設定を出荷時のデフォルトにリセットしてログファイルを保持します</li> <li>■ none を指定することによって、保留中のリセットリクエストを取り消します (SP リブートの前に実行する必要があります)</li> </ul> | /SP<br>または<br>/CMM | Admin (a)               |
| Oracle ILOM のデフォルトパスワードを復旧するために物理的プレゼンスのセキュリティを要求します。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ デフォルトの Oracle ILOM パスワードをリセットできるようにするために物理的プレゼンスの確認を強制します (システムの「Locate」ボタンを押す)</li> </ul> <p>注 - Oracle ILOM のデフォルトパスワードのリセットは、システムの SER MGT ポートへの接続を介して実行する必要があります。</p>        | /SP<br>または<br>/CMM | User Management (u)     |

## 関連情報

- 『構成および保守』の「Oracle ILOM 構成のバックアップ、復元、またはリセット」
- 『構成および保守』の「root アカウントのパスワードの復旧」

## システム BIOS 構成を管理する (x86 のみ)

次の表を使用すると、x86 ラックマウントまたはブレードサーバー SP にログインするときに、管理タスクが実行される CLI ネームスペース内の場所を識別するのに役立ちます。

注 - すべての x86 システムでこの機能がサポートされているわけではありません。

| タスク                                  | 説明  | 必要なプロパティを含むターゲット       | プロパティを構成するために必要なユーザーの役割  |
|--------------------------------------|---|------------------------|--|
| システム BIOS 構成を保存/復元します (x86 のみ)。      | <ul style="list-style-type: none"> <li>Oracle ILOM 構成 (ユーザーが構成したすべての設定) を保存し、ファイルにダンプします</li> <li>Oracle ILOM 構成 (ユーザーが構成したすべての設定) を復元し、ファイルからロードします</li> <li>サービスプロセッサとのシステム BIOS 構成の同期ステータスを確認します</li> <li>システム BIOS 構成を復元するリクエストまたはリセットするリクエストを取り消します</li> </ul> | /System/BIOS<br>Config | <ul style="list-style-type: none"> <li>保存または復元の場合は Admin (a)</li> <li>復元の場合は Reset and Host Control (r)</li> </ul> |
| システム BIOS 構成をデフォルトにリセットします (x86 のみ)。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>BIOS 構成を出荷時のデフォルトにリセットします</li> <li>取り消し動作を指定することによって、保留中のリセットリクエストを取り消します (サーバーの電源を再投入する前に実行する必要があります)</li> </ul>  | /System/BIOS           | <ul style="list-style-type: none"> <li>保存または復元の場合は Admin (a)</li> <li>復元の場合は Reset and Host Control (r)</li> </ul> |

## 関連情報

- 『構成および保守』の「x86 BIOS 構成パラメータの保守」

## ファームウェアを管理する

次の表を使用すると、ラックマウントまたはブレードサーバー SP にログインするか、ブレードシャーシ CMM にログインするときに、管理タスクが実行される CLI ネームスペース内の場所を識別するのに役立ちます。

注- ファームウェアを更新するには、システム用の正しいファームウェアイメージを Oracle Support サイトから取得しておく必要があります。

| タスク                                      | 説明  | 必要なプロパティを含むターゲット   | プロパティを構成するために必要なユーザーの役割 |
|--|---|--|-------------------------|
| システム BIOS バージョンを確認します (x86 のみ)           | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ システム BIOS 情報を表示します</li> </ul>  | /System/BIOS   | Read only (o)           |
| Oracle ILOM ファームウェアバージョンを確認します。          | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ サービスプロセッサのファームウェア情報を表示します</li> </ul>   | /SP<br>または<br>/CMM   | Read only (o)           |
| デバイスのサービスプロセッサからファームウェアを更新します。           | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ サービスプロセッサのファームウェアイメージをロードします</li> <li>■ システム BIOS イメージをロードします (x86 のみ)</li> </ul> <p>注-ファームウェアの更新後、システムの電源が切断されます。更新を実行する前に、SPARC サーバーの電源を切断する必要があります。</p> <p>注-シャーシの CMM ファームウェアを更新しても、ブレードサーバーや NEM などのほかのシャーシコンポーネントのファームウェアは更新されません。</p> | /SP/firmware<br>または<br>/CMM/firmware   | Admin (a)               |
| サーバーブレードおよびストレージブレードのファームウェアをシャーシから更新します | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ サービスプロセッサのファームウェアイメージをロードします</li> <li>■ システム BIOS イメージをロードします (x86 のみ)</li> </ul> <p>注-ファームウェアの更新後、システムの電源が切断されます。更新を実行する前に、SPARC サーバーの電源を切断する必要があります。</p>   | /Servers/Blades<br>Blade_ <i>n</i><br>または<br>/System/Firmware/Other_Firmware<br>Firmware_ <i>n</i> (関連付けられたブレードを選択します) | Admin (a)               |

| タスク  | 説明   | 必要なプロパティを含むターゲット                                       | プロパティを構成するために必要なユーザーの役割 |
|--|--|--|-------------------------|
| NEM ファームウェアをシャーシから更新します。                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ サービスプロセッサのファームウェアイメージをロードします</li> <li>■ SAS ファームウェアイメージをロードします (SAS-NEM のみ)</li> </ul> <p>注-サービスプロセッサを持たないNEMは、アップグレード可能なファームウェアを持たないため、表示されません。</p>  | /System/Firmware/Other_Firmware_n (関連付けられた NEM を選択します) | Admin (a)               |
| レガシーターゲットを使用してブレードシャーシコンポーネントのファームウェアを更新します。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ サービスプロセッサのファームウェアイメージをロードします</li> <li>■ システム BIOS イメージをロードします (x86 のみ)</li> <li>■ SAS ファームウェアイメージをロードします (SAS-NEM のみ)</li> </ul> <p>注-ファームウェアの更新後、システムの電源が切断されます。更新を実行する前に、SPARC サーバーの電源を切断する必要があります。</p> | /CH<br>BLn<br>NEMn                                     | Admin (a)               |

## 関連情報

- 『構成および保守』の「ファームウェア更新の実行」

## システムおよびコンポーネントのステータスを表示する

次の表を使用すると、ラックマウントまたはブレードサーバー SP にログインするか、ブレードシャーシ CMM にログインするときに、管理タスクが実行される CLI ネームスペース内の場所を識別するのに役立ちます。

| タスク                            | 説明   | 必要なプロパティを含むターゲット   | プロパティを表示するために必要なユーザーの役割 |
|--------------------------------|--|--|-------------------------|
| サーバーのサービスプロセッサからシステムの詳細を表示します。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ システムの詳細を表示します (モデル、ステータス、バージョン、構成情報)</li> <li>■ 注意が必要な未解決の問題を表示します</li> <li>■ プロセッサ情報を表示します (数、速度、コア、ステータス)</li> <li>■ メモリー情報を表示します (数、サイズ、ステータス)</li> <li>■ 電源の詳細を表示します (モデル、ステータス、入力/出力)</li> <li>■ 冷却の情報を表示します (数、温度、ステータス)</li> <li>■ ストレージ情報を表示します (数、サイズ、ステータス、ディスク、コントローラ、ボリューム、エクスパンダ)</li> <li>■ ネットワーク情報を表示します (取り付けられているネットワークインタフェースカード、モデル、ステータス、MACアドレス)</li> <li>■ PCIe デバイス情報を表示します (システムボード上デバイス、アドオンデバイス)</li> <li>■ サービスプロセッサのファームウェアバージョンを表示します</li> <li>■ システム BIOS バージョンを表示します (x86 のみ)</li> <li>■ RAID 拡張モジュール (REM) およびファブリック拡張モジュール (FEM) の情報を表示します</li> </ul> | /System<br>Open_Problems<br>Processors<br>Memory<br>Power<br>Cooling<br>Storage<br>Networking<br>PCI_Devices<br>Firmware<br>BIOS<br>IO_Modules | Read only (o)           |

| タスク                           | 説明  | 必要なプロパティを含むターゲット  | プロパティを表示するために必要なユーザーの役割 |
|-------------------------------|---|---|-------------------------|
| ブレードシャーシ CMM からシステムの詳細を表示します。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ システムの詳細を表示します (モデル、ステータス、バージョン、構成情報)</li> <li>■ 注意が必要な未解決の問題を表示します</li> <li>■ 取り付けられているブレードの情報を表示します</li> <li>■ 電源の詳細を表示します (モデル、ステータス、入力/出力)</li> <li>■ 冷却の情報を表示します (数、温度、ステータス)</li> <li>■ ストレージ情報を表示します (シャーシで管理されるディスクの数、サイズ、ステータス)</li> <li>■ Network Express Module (NEM) 情報を表示します (ブレードシャーシのみ)</li> <li>■ シャーシコンポーネントのファームウェアバージョンを表示します</li> </ul> | /System<br>Open_Problems<br>Blades<br>Power<br>Cooling<br>Storage<br>IO_Modules<br>Firmware | Read only (o)           |

## 関連情報

- 35 ページの「システム情報の収集、健全性ステータスの監視、およびホスト管理の開始」

## Oracle ILOM ログを管理する

以下の表を使用すると、管理タスクが実行される CLI ネームスペース内の場所を識別するのに役立ちます。

| タスク                            | 説明   | 必要なプロパティを含むターゲット   | プロパティを構成するために必要なユーザーの役割  |
|--------------------------------|--|--|--|
| ログを管理します。                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ イベントログを表示します</li> <li>■ 監査ログを表示します</li> <li>■ イベントをフィルタリングします (class==、type==、および severity== による)</li> <li>■ ログをクリアーします</li> </ul> <p>注-フィルタプロパティ値の一覧については、Web インタフェースの「ILOM Administration」&gt;「Logs」ページを参照してください。</p> | /SP/logs<br>audit<br>event<br>または<br>/CMM/logs<br>audit<br>event | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 表示する場合は Read only (o)</li> <li>■ クリアーする場合は Admin (a)</li> </ul> |
| syslog サーバーを使用してログの集中管理を構成します。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ Oracle ILOM ログのコピーを維持するプライマリおよびセカンダリ syslog サーバーのアドレスまたはドメイン名を構成します</li> </ul>  | /SP/syslog<br>または<br>/CMM/syslog                                 | Admin (a)  |

## 関連情報

- 48 ページの「Oracle ILOM: ログエントリ」

## 警告通知を管理する

以下の表を使用すると、管理タスクが実行される CLI ネームスペース内の場所を識別するのに役立ちます。

| タスク               | 説明  | 必要なプロパティを含むターゲット   | プロパティを構成するために必要なユーザーの役割  |
|-------------------|---|--|--|
| 警告を構成します (15 まで)。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 警告の種類を設定します (IPMI PET、電子メール、SNMP トラップ)</li> <li>■ 警告レベルを設定します</li> <li>■ 警告の宛先を設定します</li> <li>■ 警告ルールをテストします</li> </ul> <p>注-SNMP および IPMI サービスは SNMP および IPMI 警告を受け取るように構成されている必要があります。</p> | /SP/alertmgmt<br>rules<br>または<br>/CMM/alertmgmt<br>rules | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 表示する場合は Read only (o)</li> <li>■ クリアーする場合は Admin (a)</li> </ul> |

| タスク                        | 説明  | 必要なプロパティを含むターゲット   | プロパティを構成するために必要なユーザーの役割 |
|----------------------------|---|--|-------------------------|
| 電子メール警告用に SMTP サーバーを構成します。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>電子メール警告を有効にするために SMTP サーバー詳細を構成します (IP または DNS ホスト名を使用)</li> <li>テスト電子メールを送信します</li> </ul> | /SP/clients<br>smtp<br>または<br>/CMM/clients<br>smtp                 | Admin (a)               |
| 消費電力警告を構成します。              | <ul style="list-style-type: none"> <li>消費電力警告のしきい値を構成します</li> </ul>   | /SP/powermgmt<br>powerconf<br>または<br>/CMM/powermgmt<br>powerconfig | Admin (a)               |

## 関連情報

- 『構成および保守』の「電子メール警告用の SMTP クライアントを構成する」

# システム機能を制御する (電源投入/切断、リセット、位置特定、ブートデバイス、ブート復旧)

次の表を使用すると、ラックマウントまたはブレードサーバー SP にログインするか、ブレードシャーシ CMM にログインするときに、管理タスクが実行される CLI ネームスペース内の場所を識別するのに役立ちます。

| タスク                                   | 説明   | 必要なプロパティを含むターゲット | プロパティを構成するために必要なユーザーの役割    |
|---------------------------------------|--|------------------|----------------------------|
| SP からシステムの電源を投入または切断するか、システムをリセットします。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>システムの電源を投入します (起動)</li> <li>システムの電源を切断します (停止)</li> <li>システムをリセットします</li> </ul> | /System          | Reset and Host Control (r) |
| CMM からブレードシャーシの電源を投入または切断します。         | <ul style="list-style-type: none"> <li>シャーシの電源を投入します (起動)</li> <li>シャーシの電源を切断します (停止)</li> </ul>                       | /System          | Reset and Host Control (r) |

| タスク                                   | 説明  | 必要なプロパティを含むターゲット   | プロパティを構成するために必要なユーザーの役割    |
|---------------------------------------|---|--------------------|----------------------------|
| Oracle ILOM サービスプロセッサをリセット (再起動) します。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>SP または CMM をリセットします</li> </ul>   | /SP<br>または<br>/CMM | Reset and Host Control (r) |
| システムの位置特定 LED をオン/オフにします。             | <ul style="list-style-type: none"> <li>ロケータインジケータをオンにします (起動)</li> <li>ロケータインジケータをオフにします (停止)</li> </ul>  | /System            | Admin (a)                  |
| ブートデバイスを設定します (x86 のみ)。               | <ul style="list-style-type: none"> <li>ブートデバイスを設定します - デフォルト、PXE、ディスク、診断パーティション、CD-ROM、BIOS 制御、フロッピー (またはフラッシュディスクなどのリムーバブルメディアデバイス)</li> </ul>   | /HOST              | Reset and Host Control (r) |
| ドメインブートデバイスを設定します (SPARC のみ)。         | <ul style="list-style-type: none"> <li>起動時にホストコントローラとゲストドメインの両方に自動ブートを設定します</li> <li>起動時にゲストドメインブートを有効または無効にするようにブートゲストを設定します</li> </ul>  | /HOST/domain       | Reset and Host Control (r) |
| ブート復旧モードを設定します (SPARC のみ)。            | <ul style="list-style-type: none"> <li>自動再起動ポリシーを設定します</li> <li>エラー時の自動実行モードを設定します</li> <li>ブート障害復旧モードを設定します</li> <li>ブート再起動ポリシーを設定します</li> <li>ブートタイムアウトを設定します</li> <li>ブート障害の最大数を設定します</li> </ul> | /HOST              | Reset and Host Control (r) |

| タスク  | 説明  | 必要なプロパティを含むターゲット | プロパティを構成するために必要なユーザーの役割    |
|--|---|------------------|----------------------------|
| Trusted Platform Module (TPM) デバイスを設定します (SPARC のみ)。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ TPM を使用可能にします</li> <li>■ TPM を使用不可にします</li> <li>■ TPM 状態をクリアします</li> </ul> <p>注-実際の TPM ターゲットはシステム間で異なります。</p> | /HOST/tpm        | Reset and Host Control (r) |

## 関連情報

- 『構成および保守』の「ホストサーバー管理操作の構成」

## KVMS 設定を管理する

次の表を使用すると、ラックマウントまたはブレードサーバー SP にログインするときに、管理タスクが実行される CLI ネームスペース内の場所を識別するのに役立ちます。

| タスク                  | 説明   | 必要なプロパティを含むターゲット     | プロパティを構成するために必要なユーザーの役割 |
|----------------------|--|----------------------|-------------------------|
| SP リモート KVMS を構成します。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ KVMS を使用可能にします</li> <li>■ 表示品質を構成します (Web インタフェースビデオリモートコンソールの場合のみ)</li> <li>■ マウスモードを構成します (Web インタフェースビデオリモートコンソールの場合のみ)</li> <li>■ コンソールロックモードを構成します (Web インタフェースビデオリモートコンソールの場合のみ)</li> </ul> | /SP/services<br>kvms | Admin (a)               |

## 関連情報

- 『構成および保守』の「ホストサーバー管理操作の構成」

## ホストシリアルコンソールをリダイレクトする

次の表を使用すると、ラックマウントまたはブレードサーバー SP にログインするときに、管理タスクが実行される CLI ネームスペース内の場所を識別するのに役立ちます。

注- この機能は、テキストのみのシリアルコンソールのリダイレクトのためのものです。完全なビデオグラフィックスコンソールのリダイレクトについては、Oracle ILOM Web インタフェースを使用してください。

| タスク                   | 説明   | 必要なプロパティを含むターゲット | プロパティを構成するために必要なユーザーの役割 |
|-----------------------|--|------------------|-------------------------|
| リモートコンソールセッションを開始します。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ シリアルコンソールセッションを開始または終了します (KVMS が使用可能になっている必要があります)</li> <li>■ コンソール履歴を表示します</li> <li>■ 最新のサーバーコンソールブートログを表示します</li> <li>■ コンソールテキストおよび表示プロパティを設定します</li> </ul> | /HOST/console    | Console (c)             |

### 関連情報

- 『構成および保守』の「リモート KVMS コンソールを使用したホストサーバーのリダイレクション」

## ホスト診断を管理する

次の表を使用すると、ラックマウントまたはブレードサーバー SP にログインするときに、管理タスクが実行される CLI ネームスペース内の場所を識別するのに役立ちます。

| タスク                      | 説明   | 必要なプロパティを含むターゲット | プロパティを構成するために必要なユーザーの役割    |
|--------------------------|--|------------------|----------------------------|
| x86 システムのシステム診断を構成します。   | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 診断モードを有効にします (次回システム再起動時に Pc-Check を実行します)</li> <li>■ Pc-Check 診断の拡張モードを構成します (すべての診断テストを実行します)</li> <li>■ Pc-Check 診断のマニュアルモードを構成します (実行する診断テストを選択します)</li> </ul> <p>注-診断を実行して表示するには、Oracle ILOM リモートコンソールを Web インタフェースから起動したあと、システムを再起動してください。</p>                      | /HOST/diag       | Reset and Host Control (r) |
| SPARC システムのシステム診断を構成します。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 診断モードを有効にして、次回システム再起動時に POST (電源投入時自己診断) を実行します</li> <li>■ POST 診断を実行するトリガーを構成します (電源投入、ハードウェア変更、エラーリセット)</li> <li>■ 診断レベルを指定します (最大または最小のテスト)</li> <li>■ テストメッセージの詳細度を構成します</li> </ul> <p>注-診断を実行して表示するには、Oracle ILOM リモートコンソールを Web インタフェースから起動したあと、システムを再起動してください。</p> | /HOST/diag       | Reset and Host Control (r) |

## 関連情報

- 83 ページの「Oracle ILOM 管理対象デバイスのトラブルシューティング」
- 『構成および保守』の「実行するホスト診断テストの設定」

## FRU (現場交換可能ユニット) の障害を管理する

次の表を使用すると、ラックマウントまたはブレードサーバー SP にログインするときに、管理タスクが実行される CLI ネームスペース内の場所を識別するのに役立ちます。

注 - Oracle ILOM 障害管理制限付きシェルの目的は、Oracle の保守担当者がシステムの問題を診断しやすくすることです。Oracle の保守担当者からのリクエストがないかぎり、お客様はこのシェルでコマンドを実行しないでください。

| タスク   | 説明   | 必要なプロパティを含むターゲット       | プロパティを構成するために必要なユーザーの役割 |
|---|--|------------------------|-------------------------|
| 障害管理シェルを起動して問題を診断します (Oracle の保守担当者の指示に従います)。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 障害管理シェルセッションを開始 (起動) します</li> <li>■ エラーログおよび以前のコマンドを表示します</li> <li>■ 診断エンジンを使用して障害統計を取得します</li> <li>■ 修復および交換された FRU について Oracle ILOM に通知します</li> </ul> | /SP/faultmgmt<br>shell | Admin (a)               |

### 関連情報

- [99 ページの「Oracle ILOM 障害管理シェルによる Sun ハードウェア障害の管理」](#)

## ブレードシャーシ NEM の保守作業を実行する

次の表を使用すると、シャーシ CMM にログインするときに、Network Express Module (NEM) のサービスタスクが実行される CLI ネームスペース内の場所を識別するのに役立ちます。

| タスク             | 説明   | 必要なプロパティを含むターゲット                 | プロパティを構成するために必要なユーザーの役割 |
|-----------------|--|----------------------------------|-------------------------|
| NEMの保守作業を実行します。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ NEMを取り外す準備をします</li> <li>■ NEMをサービスに復帰させます</li> <li>■ 障害状態をクリアします</li> </ul> <p>注-NEMなどの特定のコンポーネントのみがOracle ILOM経由の保守作業をサポートします。</p> | /System/IO_Modules/NEMs<br>NEM_# | Admin (a)               |

## 関連情報

- 『構成および保守』の「サーバー SP、NEM SP、またはCMMの電源をリセットする」
- [44 ページの「NEM 保守作業プロパティ」](#)

## ブレードシャーシストレージを管理する(ゾーン作成)

次の表を使用すると、シャーシCMMにログインするときに、管理タスクが実行されるCLIネームスペース内の場所を識別するのに役立ちます。

注-SAS-2ストレージデバイス(ストレージブレード、REMを持つサーバーブレード、SAS-NEMを含む)のみがCMMによって管理できます。ゾーン作成機能は、ストレージブレードリソースをホストサーバーブレードに割り当てるために使用します。

| タスク              | 説明  | 必要なプロパティを含むターゲット    | プロパティを構成するために必要なユーザーの役割 |
|------------------|---|---------------------|-------------------------|
| シャーシストレージを管理します。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ Sun Blade Zone Manager を使用して、ストレージブレードディスクをサーバーブレードに割り当てます</li> <li>■ ストレージゾーン作成構成をデフォルトにリセットします</li> <li>■ ゾーン作成パスワードをリセットします(Sun Blade Zone Manager を使用しないとき)</li> </ul> <p>注-ゾーン作成構成はCMM構成の一部として保存されます。</p> | /STORAGE/sas_zoning | Admin (a)               |

## 関連情報

- 『構成および保守』の「シャーシブレードストレージリソースの SAS ゾーン機能」

## ブレードサーバーをシャーシから管理する

次の表を使用すると、シャーシ CMM にログインするときに、管理タスクが実行される CLI ネームスペース内の場所を識別するのに役立ちます。

| タスク                     | 説明   | 必要なプロパティを含むターゲット           | プロパティを構成するために必要なユーザーの役割 |
|-------------------------|--|----------------------------|-------------------------|
| シャーシブレードを CMM 経由で管理します。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>ブレードサービスプロセッサにログインする場合と同じように、シャーシ内のブレードを監視および管理します</li> </ul> <p>注-標準ターゲットが表示されず (HOST、システム、SP など)。レガシーターゲットは、CLI レガシーターゲットが使用可能になっているか、サービスプロセッサに ILOM 3.1 以前のファームウェアを持っているブレードサーバーについて表示されます。</p> | /Servers/Blades<br>Blade_n | 役割は管理タスクによって異なります       |

## 関連情報

- 『構成および保守』の「ホストサーバー管理操作の構成」

## /SYS、/STORAGE、および/CH レガシーターゲットを表示する

次の表を使用すると、ラックマウントまたはブレードサーバー SP にログインするか、ブレードシャーシ CMM にログインするときに、レガシーターゲットを使用して管理タスクが実行される CLI ネームスペース内の場所を識別するのに役立ちます。

注- システムによっては、また以前のバージョンから Oracle ILOM 3.1 にアップグレードした場合は、レガシータargetがデフォルトで表示されることがあります。

注- 管理可能なシャーシ SAS-2 ストレージが存在しない場合のみ、/STORAGE targetは CMM 内でレガシとみなされます。シャーシ内に SAS-2 ストレージが存在する場合、/STORAGE targetが表示されます。

| タスク                         | 説明  | 必要なプロパティを含む target | プロパティを構成するために必要なユーザーの役割 |
|-----------------------------|---|--------------------|-------------------------|
| サーバーのレガシ target を表示します。     | <ul style="list-style-type: none"> <li>Oracle ILOM 3.0 で使用可能であったシステムレガシ target (/SYS および /STORAGE) の非表示を解除 (有効に) します</li> </ul> <p>注- /SYS および /STORAGE target は /System target と同様です。詳細は、Oracle ILOM 3.0 のドキュメントを参照してください。</p> | /SP/cli            | Admin (a)               |
| ブレードシャーシのレガシ target を表示します。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>Oracle ILOM 3.0 で使用可能であったシャーシレガシ target (/CH) の非表示を解除 (有効に) します</li> </ul> <p>注- /CH target は /System target と同様です。詳細は、Oracle ILOM 3.0 のドキュメントを参照してください。</p>                             | /CMM/cli           | Admin (a)               |



# 用語集

---

## A

|  |   |
|--|---|
| <b>ACL</b><br>(アクセス制御リスト)                  | サーバーにアクセス権限を持つユーザーを制御するソフトウェア承認の仕組み。単独あるいは複数のユーザーまたはグループへアクセスを許可したり拒否したりすることにより、特定のファイルやディレクトリに特化した ACL ルールを定義できます。   |
| <b>Active Directory</b>                    | Microsoft Windows Server オペレーティングシステムに導入されている分散ディレクトリサービス。ユーザー証明書の認証と、ネットワーク化されたリソースへのユーザーアクセスレベルの認証の両方を提供します。  |
| <b>actual power consumption</b><br>(実消費電力) | 管理対象デバイス (ブレードシャーシ、ラック搭載型サーバー、またはブレードサーバー) によって使用される電力量 (ワット)。  |
| <b>address</b><br>(アドレス)                   | ネットワークにおいて、ネットワーク内のノードを識別する固有のコード。「host1.companyname.com」などの名前は、ドメインネームサービス (DNS) によって「168.124.3.4」のような、ドットの付いた Quad 表記のアドレスに翻訳されます。  |
| <b>address resolution</b><br>(アドレス解決)      | インターネットアドレスを、物理メディアアクセス制御 (MAC) アドレスまたはドメインアドレスにマップする手段。  |
| <b>ARP</b><br>(アドレス解決プロトコル)                | インターネットプロトコル (IP) アドレスをネットワークハードウェアアドレス (MAC アドレス) と関連づけるために使われるプロトコル。  |
| <b>Administrator</b>                       | 管理対象ホストシステムへの完全なアクセス (root) 権限を持っている人。  |
| <b>agent</b><br>(エージェント)                   | 通常は特定のローカル管理対象ホストに対応しているソフトウェアプロセスで、管理者リクエストを実行し、ローカルのシステムおよびアプリケーション情報をリモートユーザーが使用できるようにします。   |
| <b>alert</b><br>(警告)                       | エラーイベントの収集および分析によって生成されたメッセージまたはログ。警告が出た場合、ハードウェアまたはソフトウェアの修正を行う必要があることを意味します。  |
| <b>ASF</b>                                 | プリブートまたは帯域外プラットフォーム管理仕様。これにより、インテリジェント Ethernet コントローラなどのデバイスが、マザーボード上の ASF 準拠センサーの電圧や温度その他について自立的にスキャンし、Remote Management and Control Protocol (RMCP) に Platform Event Trap (PET) 仕様に準じた警告を送ることができるようになります。ASF は、そもそも、クライアントデスクトップの帯域外管理機能のためのものでした。ASF は Distributed Management Task Force (DMTF) によって定義されています。 |

|  |   |
|--|---|
| <b>allocated power</b><br>(割り当て電力)       | 管理対象デバイスに割り当てられた最大入力電力(ワット)。  |
| <b>audit log</b><br>(監査ログ)               | ユーザーのログイン、ログアウト、構成変更、パスワード変更など、インタフェース関連のすべてのユーザーアクションを追跡するログ。ユーザー操作を監視するユーザーインタフェースには、Oracle ILOM Web インタフェース、CLI、障害管理シェル (captive shell)、制限付きシェル、SNMP および IPMI クライアントインタフェースが含まれません。                              |
| <b>authentication</b><br>(認証)            | 通信セッションにおけるユーザー、または、コンピュータシステムにおけるデバイスやほかのエンティティの属性を、システムリソースへアクセス可能になる前に検証するプロセス。セッション認証は2方向に動作します。サーバーは、アクセス制御を判断するためにクライアントの認証を行います。クライアントがサーバーを認証することもできます。クライアントは Secure Sockets Layer (SSL) を使ってサーバーを常に認証します。 |
| <b>authenticated user</b><br>(認証されたユーザー) | 認証プロセスに合格し、特定のシステムリソースへのアクセス権限を付与されたユーザー。   |
| <b>authorization</b><br>(承認)             | ユーザーに特定のアクセス権を与えるプロセス。承認は、認証およびアクセス制御に基づいています。  |
| <b>available power</b><br>(使用可能電力)       | ラック搭載型サーバーの場合、使用可能電力は、電源装置が供給できる電力すべての合計です。サーバーモジュールの場合、使用可能電力は、シャーシがサーバーモジュールに供給する用意のある電力の量です。   |

## B

|  |   |
|--|---|
| <b>bandwidth</b><br>(帯域幅)                                  | 通信リンク上で送信可能な情報量の尺度。通常、あるネットワークが配信可能な秒ごとのビット数として記述されます。  |
| <b>Baseboard Management Controller</b><br>(ベースボード管理コントローラ) | シャーシ環境や構成、サービス機能を管理し、システムのほかの部品からイベントデータを受信するのに使うデバイス。センサーインタフェースからデータを受信し、そのデータを、インタフェースを提供している SDR を使用して解釈します。BMC を使うことにより、システムイベントログ (SEL) へのまた別のインタフェースができます。BMC の典型的な機能には、プロセッサの温度や電源値、冷却ファンのステータスの測定があります。BMC は、システムの完全性を保つために自立的に動作できます。 |
| <b>baud rate</b><br>(ボーレート)                                | たとえば端末とサーバーの間といったデバイス間で送信される情報の速度。  |
| <b>bind</b><br>(バインド)                                      | LDAP (Lightweight Directory Access Protocol) において、ユーザーが LDAP ディレクトリにアクセスする際に LDAP が必要とする認証プロセスのこと。認証は、LDAP クライアントが LDAP サーバーに接続する際に行われます。   |
| <b>BIOS</b><br>(Basic Input/Output System)                 | システム電源投入時にオペレーティングシステムの読み込みおよびハードウェアのテストを制御するシステムソフトウェア。BIOS は読み取り専用メモリー (ROM) に格納されています。   |

|   |  |
|---|--|
| <b>bits per second (bps)</b>                            | データ転送速度の単位。  |
| <b>blade server power consumption</b><br>(ブレードサーバー消費電力) | ローカルコンポーネントによって消費されている電力の合計。   |
| <b>boot loader</b><br>(ブートローダー)                         | 読み取り専用メモリー (ROM) に格納されているプログラムで、システム電源投入時に自動的に実行され、システム初期化およびハードウェアテストの最初の段階を制御します。その結果、ブートローダーは、オペレーティングシステムの読み込みを行うもっと複雑なプログラムへ制御を移管します。 |

## C

|  |  |
|--|--|
| <b>cache</b><br>(キャッシュ)                    | ローカルに格納されている元のデータの複製。通常、命令やもっとも頻繁にアクセスされた情報です。キャッシュされたデータは、リクエストされたときに再度リモートサーバーから読み出す必要がありません。キャッシュによってメモリー転送速度およびプロセッサ速度が上がります。      |
| <b>certificate</b><br>(証明書)                | エンティティのアイデンティティを検証するために、信頼できる認証局 (CA) が割り当てた公開鍵データ。デジタル署名されたドキュメントです。クライアントおよびサーバーの両方が証明書を持つことができます。「公開鍵証明書」とも呼ばれます。                   |
| <b>CA</b><br>(認証局)                         | 公開鍵証明書を発行しその証明書の所有者の身分証明書を提供する、信頼された組織。公開鍵認証局は、証明書に記載されたエンティティと、そのエンティティに属しかつその証明書に記載されている公開鍵との関係を示す証明書を発行します。                         |
| <b>CMM</b><br>(シャーシ監視モジュール)                | 完全なシャーシ管理システムを形成するために、各ブレードのサービスプロセッサ (SP) と連携して動作する、一般に冗長でホットプラグ可能なモジュール。   |
| <b>client</b><br>(クライアント)                  | クライアントサーバーモデルにおいて、ネットワーク上のサーバーリソースにリモートでアクセスする、ネットワーク上のシステムまたはソフトウェア。  |
| <b>CMM power consumption</b><br>(CMM 消費電力) | ブレードシャーシの電源装置によって消費されている入力電力の合計。   |
| <b>CLI</b><br>(コマンド行インタフェース)               | テキストベースのインタフェースで、ユーザーはこれを使用してコマンドプロンプトから実行命令を入力できます。   |
| <b>Common Information Model</b><br>(CIM)   | Common Information Model (CIM) は、デバイスおよびアプリケーションの特性を定義するためのコンピュータ業界標準であり、システム管理者と管理プログラムがメーカーやソースの異なるデバイスおよびアプリケーションを同じ方法で制御できるようにします。 |

**console**  
(コンソール)

システムメッセージが表示される、端末または画面上の専用ウィンドウ。コンソールウィンドウによって、数々のサーバーソフトウェアコンポーネントの構成や監視、保守、トラブルシューティングができます。

**UTC**  
(協定世界時)

世界標準時間。UTCは、以前はグリニッジ標準時(GMT)と呼ばれていました。UTCは、ネットワーク上のシステムとデバイスを同期させるためにNTPサーバーが使用します。

**core file**  
(コアファイル)

プログラムが機能不全となり終了したときにSolarisまたはLinuxオペレーティングシステムが生成するファイル。コアファイルには、障害発生時にとらえられたメモリーのスナップショットが入っています。「クラッシュダンプファイル」とも呼ばれます。

**critical event**  
(クリティカルイベント)

サービスに深刻な障害を及ぼし早急な対処を必要とするシステムイベント。

**CRU**  
(顧客交換可能ユニット)

ユーザーが特別なトレーニングやツールなしで交換できるシステム部品。

## D

**DES**

データを暗号化および復元する共通アルゴリズム。

**DMI**

コンピュータハードウェアおよびソフトウェアについての技術サポート情報にアクセスするための標準を定めた仕様。DMIは、ハードウェアおよびオペレーティングシステム(OS)から独立で、ワークステーションやサーバー、その他のコンピュータシステムを管理できます。DMIはDistributed Management Task Force (DMTF)によって定義されています。

**digital signature**  
(デジタル署名)

デジタルデータの情報源の証明書。デジタル署名は、公開鍵暗号化プロセスから導き出される番号です。署名が作成されたあとにデータが改ざんされた場合、その署名は無効となります。このことにより、デジタル署名はデータの完全性およびデータ改ざんの発見を保証できます。

**DSA**  
(デジタル署名アルゴリズム)

DSSが規定する暗号化アルゴリズム。DSAは、デジタル署名の作成に使用する標準アルゴリズムです。

**DMA**  
(ダイレクトメモリアクセス)

プロセッサの指示なしで直接メモリーにデータ転送すること。

**directory server**  
(ディレクトリサーバー)

LDAPにおいて、組織内の人員およびリソースに関する情報を論理的な中心位置から格納および提供するサーバー。

---

|   |   |
|---|---|
| <b>DN</b><br>(識別名)                              | LDAPにおいて、ディレクトリ内のエントリの名前および位置を識別する、固有のテキスト文字列。DNは、ツリーのルートからの完全なパスを持った完全修飾ドメイン名 (FQDN) である場合もあります。   |
| <b>Distributed Management Task Force (DMTF)</b> | 200以上の団体によるコンソーシアムで、コンピュータシステムをリモート管理する能力を高めることを目的とした標準を記述および推進します。DTMFからの仕様には、DMI、CIM、ASFなどがあります。  |
| <b>domain</b><br>(ドメイン)                         | 名前によって識別する、ホストの系列化。こういったホストは通常、同一インターネットプロトコル (IP) ネットワークアドレスに属します。また、ドメインは、そのドメインを所有している団体または組織を識別する完全修飾ドメイン名 (FQDN) の最後の部分のことを指します。たとえば、「oracle.com」は、Oracle Corporationがドメインの所有者であることを示します。  |
| <b>domain name</b><br>(ドメイン名)                   | インターネット上のシステムあるいはシステムグループに与えられた固有の名前。グループ内のすべてのシステムのホスト名は、「oracle.com」のような、同一のドメイン名接頭辞を含みます。ドメイン名は、右から左に向かって解釈されます。たとえば、「oracle.com」はOracle Corporationのドメイン名であり、かつ、トップレベルの「.com」ドメインのサブドメインです。 |
| <b>DNS</b><br>(ドメインネームサーバー)                     | ドメインにおいて通常はホスト名を管理するサーバー。DNSサーバーは「www.example.com」などのホスト名を「030.120.000.168」などのインターネットプロトコル (IP) アドレスに変換します。   |
| <b>DNS</b><br>(ドメインネームシステム)                     | コンピュータがドメイン名によってネットワークあるいはインターネット上のほかのコンピュータを検索できるようにする、分散型名前解決システム。このシステムでは、「00.120.000.168」などの標準のインターネットプロトコル (IP) アドレスを、「www.oracle.com」などのホスト名と関連付けます。コンピュータは通常、この情報をDNSサーバーから取得します。        |
| <b>DDNS</b><br>(動的ドメインネームサービス)                  | ドメインネームサーバー (DNS) がドメイン名に関連する動的または静的なIPアドレスを常に把握できるようにするサービス。   |
| <b>DHCP</b><br>(動的ホスト構成プロトコル)                   | DHCPサーバーが、TCP/IPネットワーク上のシステムにインターネットプロトコル (IP) アドレスを動的に割り当てられるようにするプロトコル。   |

## E

|                           |   |
|---------------------------|---|
| <b>EPP</b><br>(拡張パラレルポート) | 標準パラレルポートの2倍の速度でシステムがデータを転送できるようにする、ハードウェアおよびソフトウェアの標準。 |
|---------------------------|---|

|  |  |
|--|--|
| <b>Ethernet</b>                            | ケーブルで直接接続されたシステム間のリアルタイム通信を可能にするローカルエリアネットワーク (LAN) の業界標準形式。Ethernet では、アクセス方法として CSMA/CD アルゴリズムを使用しており、全ノードが待機していて、かつ、いずれのノードもデータ転送を開始できます。複数のノードが同時にデータ転送をしようとする場合には (衝突)、転送しようとしているノードが任意の時間待ってからふたたび転送を試みます。 |
| <b>event</b><br>(イベント)                     | 管理対象オブジェクトの状態の変化。イベント処理サブシステムは通知を出すことができます。ソフトウェアシステムは、この通知に応答する必要がありますが、通知の要求や制御は行いません。   |
| <b>event log</b><br>(イベントログ)               | コンポーネントの追加または削除、あるいはコンポーネントの障害など、管理対象デバイスに関する情報、警告、またはエラーメッセージを追跡するログ。ログに記録されるイベントのプロパティには、イベントの重要度、イベントプロバイダ (クラス)、イベントが記録された日付と時間などがあります。  |
| <b>exhaust temperature</b><br>(排気温度)       | サーバーまたはシャーシの背面から出る空気の温度。   |
| <b>external serial port</b><br>(外部シリアルポート) | サーバーの RJ-45 シリアルポート。   |
| <b>XIR</b>                                 | ドメインのプロセッサに「ソフト」リセットを送る信号。XIR はドメインのリポートは行いません。XIR は通常、ハングしたシステムから脱出してユーザーがコンソールプロンプトにたどり着くために使用されます。そうすることにより、ユーザーはコアダンプファイルを作成して、それをシステムがハングした原因の診断に役立てることができます。   |
| <b>F</b>                                   |  |
| <b>failover</b><br>(フェイルオーバー)              | 冗長機能を提供するために、あるシステム、または多くの場合サブシステムから、別のシステムへコンピュータサービスを自動的に移管すること。   |
| <b>Fast Ethernet</b>                       | 最大 100 Mbps でデータを転送する Ethernet 技術。Fast Ethernet は 10 Mbps Ethernet 機器と下位互換性があります。  |
| <b>fault</b><br>(障害)                       | ハードウェアまたはソフトウェアで検出されたエラー条件。  |
| <b>FMA</b><br>(障害管理アーキテクチャー)               | ハードウェアまたはソフトウェアの障害が発生してもコンピュータが機能し続けられるようにするアーキテクチャー。  |
| <b>Fault Manager</b><br>(障害管理プログラム)        | ハードウェア障害の発生時にそれらを診断するだけでなく、システムハードウェアの健全性を予防保守的に監視できるようにする、Oracle ILOM の機能。コンポーネントが障害状態のときに、障害イベントが Oracle ILOM の「Open Problems」テーブルとイベントログに収集されます。  |

|  |  |
|--|--|
| <b>Fault Manager shell</b><br>(障害管理プログラム<br>シェル) | Oracle の保守担当者がシステムの問題を診断できるようにするユーザーインタフェース。Oracle の保守担当者からリクエストされた場合にのみ、ユーザーはこのシェルでコマンドを実行できます。   |
| <b>faulted state</b><br>(障害状態)                   | コンポーネントは存在しているが、Oracle ILOM で1つ以上の問題が診断されたために使用できないか機能低下していることを示すインジケータ。システムにそれ以上の損害を与えないために、Oracle ILOM は自動的にコンポーネントを無効にします。                                    |
| <b>FRU</b><br>(現場交換可能ユニット)                       | 顧客サイトで交換可能なシステム部品。   |
| <b>file system</b><br>(ファイルシステム)                 | 情報を物理メディアに整理して格納する、安定した方法。通常、ファイルシステムはオペレーティングシステムごとに異なります。ファイルシステムは、ファイルおよびディレクトリのツリー構造ネットワークであることが多く、最上位にはルートディレクトリが、ルート以下には親および子ディレクトリがあります。                  |
| <b>FTP</b>                                       | TCP/IP に基づいた基本的なインターネットプロトコル。これを使うと、ファイル転送に関連するシステムのオペレーティングシステムやアーキテクチャーにこだわることなく、インターネット上のシステム間でファイルの読み取りや保存ができます。   |
| <b>firewall</b><br>(ファイアウォール)                    | 通常はハードウェアおよびソフトウェア両方のネットワーク構成で、組織内のネットワークコンピュータを外部アクセスから保護します。ファイアウォールは、特定のサービスやホスト間で行き来する接続を監視または禁止できます。  |
| <b>firmware</b><br>(ファームウェア)                     | 通常、システムの初期ブート段階およびシステム管理をサポートするのに使用されるソフトウェア。ファームウェアは読み取り専用メモリー (ROM) または PROM に組み込まれています。   |
| <b>FQDN</b><br>(完全修飾ドメイン名)                       | 「www.oracle.com」のような、システムの完全かつ一意のインターネット名。FQDN には、ホストサーバー名 (www) とそのトップレベルドメイン名 (.com) および第2レベルドメイン名 (.oracle) が含まれます。FQDN はシステムのインターネットプロトコル (IP) アドレスにマップできます。 |
| <b>G</b>   |  |
| <b>gateway</b><br>(ゲートウェイ)                       | 2つのネットワークを相互接続し、そのネットワーク間でデータパケットを渡すコンピュータまたはプログラム。ゲートウェイには2つ以上のネットワークインタフェースがあります。  |
| <b>Gigabit Ethernet</b><br>(ギガビット Ethernet)      | 最大 1000 Mbps でデータを転送する Ethernet 技術。  |
| <b>grant limit</b><br>(許可制限)                     | CMM がブレードスロットに許可できる電力 (ワット) の最大合計。   |
| <b>grantable power</b><br>(許可可能電力)               | 許可制限を超えることなく CMM から Sun ブレードシャーシスロットに割り当て可能な残りの電力 (ワット) の合計。   |

granted power  
(許可された電力)

---

**granted power**  
(許可された電力)

電力を必要としているすべてのブレードスロットまたは電力を必要としている個別のブレードスロットに CMM が許可した電力 (ワット) の最大合計。

**GUI**  
(グラフィカル  
ユーザーインタ  
フェース)

アプリケーションを使いやすくするために、キーボードおよびマウスに加えてグラフィックスを使用したインターフェース。

## H

**health status states**  
(健全性の状態)

管理対象デバイスの健全性を示すインジケータ。示す可能性があるステータスは、「OK」、「Service Required」、「Not Available」、および「Offline」です。

**host**  
(ホスト)

インターネットプロトコル (IP) アドレスおよびホスト名を割り当てられた、バックエンドサーバーなどのシステム。ホストは、ネットワーク上のほかのリモートシステムからアクセスされます。

**host ID**  
(ホスト ID)

ネットワーク上のホストを識別するのに使用する 32 ビットのインターネットプロトコル (IP) アドレスの一部。

**host name**  
(ホスト名)

ドメイン内の特定のコンピュータの名前。ホスト名は常に特定のインターネットプロトコル (IP) アドレスへマップします。

**hot-plug**  
(ホットプラグ)

システム稼働中に取り外しをしても安全な部品のこと。ただし、部品を取り外す前に、システム管理者はシステムに対してホットプラグ操作の準備を行う必要があります。新しい部品を挿入したあとで、システム管理者はそのデバイスを含めてシステムを再構成するよう、システムに指示する必要があります。

**hot-swap**  
(ホットスワップ)

稼働中のシステムから部品を取り外したり新しい部品を取り付けたりするだけで、取り付けまたは取り外しができる部品のこと。部品が変更されたことをシステムが自動的に認識して構成を行うか、システムの構成をユーザーが対話的に行う必要があるかのどちらかです。ただし、いずれの場合もリブートの必要はありません。ホットスワップ可能なコンポーネントはすべてホットプラグ可能ですが、ホットプラグ可能なコンポーネントがすべてホットスワップ可能であるとは限りません。

**HTTP**  
(ハイパーテキスト転送  
プロトコル)

リモートホストからハイパーテキストオブジェクトを取り込むインターネットプロトコル。HTTP メッセージは、クライアントからサーバーへのリクエストおよびサーバーからクライアントへの応答から構成されます。HTTP は TCP/IP に基づいています。

**Hypertext Transfer  
Protocol Secure**  
(HTTPS)

Secure Sockets Layer (SSL) を使用した HTTP の拡張。TCP/IP ネットワーク上でのセキュア転送を可能にします。

## I

|  |  |
|--|--|
| <b>in-band system management</b><br>(帯域内システム管理)            | オペレーティングシステムが初期化されていて、かつ、サーバーが正常に機能している場合のみ使用可能な、サーバー管理機能。   |
| <b>inlet air temperature</b><br>(吸気温度)                     | サーバーまたはシャーシの前面に入る温度。   |
| <b>installed hardware minimum</b><br>(取り付けられているハードウェアの最小値) | サーバーに取り付けられているハードウェアコンポーネントによって消費されている入力電力(ワット)の最小量。   |
| <b>Integrated Lights Out Manager (ILOM)</b>                | シャーシ内またはブレード内でのシステム管理のための、ハードウェアやファームウェア、ソフトウェアの統合ソリューション。   |
| <b>IPMI</b>  | 多くの異なる物理的相互接続上のサーバーシステムの帯域外管理のために主に設計された、ハードウェアレベルのインタフェース仕様。IPMI仕様には、センサーに関する幅広い抽象概念が記載されています。これによって、オペレーティングシステム(OS)上またはリモートシステム内で実行されている管理アプリケーションは、システム的环境構成を把握でき、システムのIPMIサブシステムに登録してイベントを受信できるようになります。IPMIは異なるベンダー製の管理ソフトウェアと互換性があります。IPMIの機能には、現場交換可能ユニット(FRU)インベントリのレポート、システム監視、記録、システム復旧(ローカルおよびリモートシステムのリセットと電源投入/電源切断の機能も含む)、警告などがあります。 |
| <b>internal serial port</b><br>(内部シリアルポート)                 | Oracle ILOMユーザーがホストのシリアルコンソールにアクセスできるようになる、ホストサーバーとOracle ILOM間の接続。Oracle ILOMの内部シリアルポートの速度は、ホストサーバーのシリアルコンソールポート(多くの場合シリアルポート0、COM1、または/dev/ttyS0と呼ばれる)の速度と同じである必要があります。通常、ホストのシリアルコンソール設定は、Oracle ILOMのデフォルト設定(9600ボー、8N1(データビット8、パリティなし、ストップビット1)、フロー制御なし)に一致しています。   |
| <b>ICMP</b>  | ルーティング、信頼性、フロー制御、データの順序づけなどを提供する、インターネットプロトコル(IP)に対する拡張機能。ICMPは、IPで使用されるエラーおよび制御メッセージを指定します。   |
| <b>IP</b><br>(インターネットプロトコル)                                | インターネットの基本的ネットワークレイヤープロトコル。IPは、あるホストから別のホストに対し、信頼性が低い状態での個々のパケットの送信を可能とします。IPでは、パケットが配信されるかどうかや配信にかかる時間、また、複数のパケットが送信されたとおりの順序で配信されるかどうかについて、保証していません。IPの上に階層化されたプロトコルにより、接続の信頼性が高まります。  |

Internet Protocol  
(IP) address  
(インターネットプロトコル  
(IP) アドレス)  
**Internet Protocol  
(IP) address**  
(インターネットプロト  
コル  
(IP) アドレス)

TCP/IP において、ネットワーク上の各ホストまたはほかのハードウェアシステムを認識する、固有の 32 ビットの数字。IP アドレスは、「192.0.2.1」のようにドットで区切られた数字のセットで、イントラネットまたはインターネット上でのコンピュータの実際の位置を指定します。

**input power**  
(入力電力)

外部電源からシャーシの電源ユニットに入る電力。

**IPMItool**

IPMI デバイスの管理に使用するユーティリティ。IPMItool では、ローカルシステムまたはリモートシステムのどちらの IPMI 機能も管理できます。機能には、現場交換可能ユニット (FRU) 情報やローカルエリアネットワーク (LAN) 構成、センサー読み取り、リモートシステム電源制御の管理などがあります。

## J

**Java Remote Console**  
(Java リモートコン  
ソール)

実行中のアプリケーションにユーザーをアクセスできるようにする、Java で記述されたコンソール。

**Java Web Start  
application**  
(Java Web Start アプリ  
ケーション)

Web アプリケーション起動ツール。Java Web Start では、Web リンクをクリックすることによってアプリケーションを起動します。そのアプリケーションが手元のシステムにならない場合には、Java Web Start はアプリケーションをダウンロードし手元のシステム上にキャッシュします。アプリケーションは、いったんキャッシュにダウンロードすれば、デスクトップアイコンまたはブラウザから起動できるようになります。

## K

**kernel**  
(カーネル)

オペレーティングシステム (OS) の核心で、ハードウェアを管理し、ファイリングおよびリソース割り当てといった、ハードウェアが提供していない基本的サービスを管理します。

**Keyboard Controller  
Style**  
(KCS) interface  
(KCS インタフェース)

レガシーパーソナルコンピュータ (PC) のキーボードコントローラに実装されているインタフェースの形式。データは、バイトごとのハンドシェイクを使って KCS インタフェース全体に転送されます。

**KVMS**  
(キーボード、ビデ  
オ、マウス、スト  
レージ)

キーボードやビデオ、マウス、ストレージイベントにシステムが応答できるようにする一連のインタフェース。

**L**

- LOM** オペレーティングシステムが動作していなくてもサーバーとの帯域外通信を可能にする技術。これによってシステム管理者は、サーバーの電源オン/オフをしたり、システム温度やファン速度などを見たり、リモートロケーションからシステムを再起動できます。
- LDAP** ユーザープロファイルや配布一覧、構成データなどの情報の格納、取り出し、配布に使用するディレクトリサービスプロトコル。LDAPはTCP/IP上で複数のプラットフォームに渡って動作します。
- Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) server (LDAP サーバー)** LDAPディレクトリおよびそのディレクトリへのサービスクエリーを保守するソフトウェアサーバー。Oracle Directory Services および Netscape Directory Services は、LDAPサーバーの実装です。
- LAN (ローカルエリアネットワーク)** 接続するハードウェアおよびソフトウェア経由で通信できる、至近距離にあるシステムの集まり。LAN技術ではEthernetがもっとも広範に使われます。
- local host (ローカルホスト)** ソフトウェアアプリケーションが動作しているプロセッサまたはシステム。

**M**

- major event (メジャーイベント)** システムイベントのうち、深刻ではないがサービスに障害を与えるもの。
- MIB (管理情報ベース)** ネットワークのリソースについての情報を分類する、ツリーに似た階層システム。MIBでは、マスターSNMPエージェントがアクセス可能な変数を定義しています。MIBによって、サーバーのネットワーク構成、ステータス、および統計情報へのアクセスが可能になります。SNMPを使うと、こういった情報をネットワーク管理ステーション(NMS)から見るができます。業界協定により、各ディベロッパーにはツリー構造の一部分が割り当てられ、そこにディベロッパー独自のデバイスに特化した記述を加えることもできます。
- man pages (マニュアルページ)** オンラインUNIXドキュメント。
- media access control (MAC) address (メディアアクセス制御 (MAC) アドレス)** 各ローカルエリアネットワークインタフェースカード(NIC)に製造時にプログラムされる、世界で唯一の48ビットハードウェアアドレス番号。
- Message Digest 5 (MD5)** 任意の長いデータ文字列を一意で固定長の短いダイジェストデータに変換する、セキュアなハッシュ関数。

minor event  
(マイナーイベント)

---

**minor event**  
(マイナーイベント) システムイベントのうち、現時点でサービスに障害は発生していないが、さらに深刻になる前に修正を必要とするもの。

## N

**namespace**  
(ネームスペース) LDAPディレクトリのツリー構造における固有の名前のセットで、この名前からオブジェクト名が由来して解釈されます。たとえば、ファイルはファイルネームスペース内で命名され、プリンタはプリンタネームスペース内で命名されます。

**NFS** ユーザーに気づかせることなく、各種ハードウェア構成を協調して機能させるプロトコル。

**NIS** UNIXシステムが使用する、プログラムおよびデータファイルのシステム。コンピュータシステムネットワーク全体のコンピュータ、ユーザー、ファイルシステム、およびネットワークパラメータに関する特定の情報の収集、照合、および共有のために使用します。

**NIC**  
(ネットワークインタフェースカード) ワークステーションやサーバーをネットワークデバイスに接続する内部回路基盤またはカード。

**NMS**  
(ネットワーク管理ステーション) 1つまたは複数のネットワーク管理アプリケーションがインストールされた高性能なワークステーション。NMSはネットワークをリモート管理するのに使用されます。

**network mask**  
(ネットワークマスク) ローカルサブネットアドレスをほかの既知のインターネットプロトコル (IP) アドレスから区別するためにソフトウェアが使用する番号。

**NTP** TCP/IP ネットワークのインターネット標準。NTPは、UTCを使用して、ネットワークデバイスのクロック時間をNTPサーバーのミリ秒に同期します。

**node**  
(ノード) ネットワーク上でアドレス参照可能なポイントまたはデバイス。ノードにより、コンピュータシステムや端末、各種周辺機器をネットワークに接続できます。

**nonvolatile memory**  
(非揮発性メモリー) システム電源がオフになったときにデータが失われないことを保証するメモリーの種類。

**notification threshold**  
(通知しきい値) 警告通知をトリガーする消費電力量(ワット)を定義する値。

**O**

|  |  |
|--|--|
| <b>OID</b><br>(オブジェクト識別子)  | グローバルオブジェクト登録ツリーにおけるオブジェクトの位置を識別する番号。ツリーのノードにはそれぞれ番号が割り当てられ、OID は一連の番号となっています。インターネットでの使用では、OID 番号はたとえば「0.128.45.12」といったようにドットで区切られます。LDAPにおいて、OID は、オブジェクトクラスおよび属性タイプなどのスキーマ要素を一義的に識別するために使用されます。 |
| <b>OpenBoot PROM</b>   | 電源投入時の自己診断テスト (POST) が部品のテストを問題なく終了したあとに、初期化されたシステムを制御するソフトウェアレイヤー。OpenBoot PROM は、メモリーにデータ構造を構築してオペレーティングシステムをブートします。   |
| <b>OpenIPMI</b>  | Intelligent Platform Management Interface (IPMI) へのアクセスを容易にする、オペレーティングシステムから独立したイベント駆動型ライブラリ。  |
| <b>open problem</b><br>(未解決の問題)                                  | 管理対象デバイスに問題または障害状態が検出されたことを示すインジケータ。Oracle ILOM は、「Open Problems」 Web ページまたは表形式の「Open Problems」 CLI 出力で問題を特定します。   |
| <b>Operator</b><br>(オペレータ)                                       | 管理対象ホストシステムへの制限付き権限を持つユーザー。  |
| <b>out-of-band (OOB) system management</b><br>(帯域外 (OOB) システム管理) | オペレーティングシステムのネットワークドライバまたはサーバーが正常に機能していないときに使用可能なサーバー管理機能。   |
| <b>output power</b><br>(出力電力)                                    | 電源ユニットからシャーシコンポーネントに供給される電力量。  |

**P**

|                                  |   |
|----------------------------------|---|
| <b>parity</b><br>(パリティ)          | 受信したデータが送信されたデータと一致するかどうかを検査するのにコンピュータが使用する方法。また、ディスク上のデータと一緒に格納されている情報も指し、これを使用すると、ドライブ障害発生後にコントローラがデータを再構築できます。 |
| <b>Pc-Check</b>                  | Eurosoft (UK) Ltd. によって作成された、コンピュータハードウェア上で診断テストを実行するアプリケーション。  |
| <b>peak permitted</b><br>(許容ピーク) | 管理対象デバイスが消費できる最大電力 (ワット)。   |

|  |  |
|--|--|
| <b>permissions</b><br>(アクセス権)                      | ユーザーまたはグループに許可あるいは拒否される権限のセットで、ファイルまたはディレクトリへの読み込みや書き込み、実行といったアクセスを指定します。アクセス制御のために、アクセス権には、そのディレクトリ情報へのアクセスが許可されているのか拒否されているのか、および、許可あるいは拒否されているアクセスのレベルが記載されています。  |
| <b>permitted power consumption</b><br>(許容消費電力)     | 任意の時点でサーバーが使用を許可する最大電力(ワット)。   |
| <b>physical address</b><br>(物理アドレス)                | メモリーの位置と一致する実際のハードウェアアドレス。仮想アドレスを参照するプログラムは、あとで物理アドレスへとマップされます。  |
| <b>PEF</b>   | サービスプロセッサが、たとえば電源切断やシステムのリセット、警告のトリガーなどといったイベントメッセージを受信したときに、特定の動作をするように構成する仕組み。   |
| <b>PET</b>   | ハードウェアまたはファームウェア (BIOS) イベントによってトリガーされる構成済み警告。PET は Intelligent Platform Management Interface (IPMI) 仕様の SNMP トラップで、オペレーティングシステムから独立で動作します。  |
| <b>port</b><br>(ポート)                               | TCP/IP 接続が確立される場所(ソケット)。Web サーバーは従来からポート 80 を使用し、ファイル転送プロトコル (ftp) はポート 21 を、Telnet はポート 23 を使用します。ポートによって、クライアントプログラムは、ネットワーク上のコンピュータの特定のサーバープログラムを指定できます。サーバープログラムは、はじめて起動したときに、指定されたポート番号にバインドします。そのサーバーを使用しようとするすべてのクライアントは、指定されたポート番号にバインドするためにリクエストを送る必要があります。 |
| <b>port number</b><br>(ポート番号)                      | ホストマシン上の個別の TCP/IP アプリケーションを指定する番号で、送信データの宛先を定めます。   |
| <b>power allocation plan</b><br>(電力割り当て計画)         | 単一の管理対象デバイスまたは管理対象デバイスに取り付けられている個々のコンポーネントに割り当てられた正確な電力メトリックをユーザーが効果的に監視および取得できるようにする機能。これはエネルギー効率の高いデータセンターを計画するのに役立ちます。  |
| <b>power consumption</b><br>(消費電力)                 | 管理対象デバイスによって消費される入力電力または電源ユニット (PSU) から供給される出力電力を示す値。  |
| <b>power cycling</b><br>(電源の再投入)                   | システムの電源をオフにしてからふたたびオンにするプロセス。  |
| <b>power supply maximum</b><br>(電源装置の最大値)          | 電源装置が消費できる入力電力(ワット)の最大量。   |
| <b>Power Monitoring interface</b><br>(電源監視インタフェース) | ユーザーが電力消費をリアルタイムで監視できるようにするインタフェース。この電力消費には、使用可能電力、実電力、および許容電力が含まれ、サービスプロセッサ (SP) または個別の電源装置について、電力使用の発生から 1 秒以内の精度で監視できます。  |

---

|   |   |
|---|---|
| <b>POST</b><br>(電源投入時自己診断)                                    | システムの起動時に初期化されていないシステムハードウェアを受け取り、部品を丹念に調べてテストするプログラム。POSTは、有用な部品を首尾一貫した初期化済みシステムとして構成し、そのシステムをOpenBoot PROMに渡します。POSTは、テストが成功した部品のみの一覧をOpenBoot PROMに渡します。   |
| <b>Preboot Execution Environment (PXE)</b>                    | 業界標準クライアントサーバーインタフェースで、Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP) を使用して Transmission Control Protocol/Internet Protocol (TCP/IP) ネットワーク上のオペレーティングシステム (OS) をサーバーがブートできるようにします。PXE仕様には、プライマリブートストラッププログラムに基本的なネットワーク機能を提供するように、ネットワークアダプタカードおよびBIOSを協調して動作させる方法が記述されており、これによって、プライマリブートストラッププログラムが、OSイメージのTFTPを介した読み込みなど、ネットワーク上でセカンダリブートストラップを実行できるようになります。したがって、プライマリブートストラッププログラムは、PXE標準に従ってコーディングされている場合、システムのネットワークハードウェアについての情報を必要としません。 |
| <b>PEM</b>  | プライバシーとデータの完全性を保証するようにデータを暗号化した、インターネット電子メールの標準。  |
| <b>protocol</b><br>(プロトコル)                                    | ネットワーク上のシステムまたはデバイスが情報を交換する方法を記述した規則セット。  |
| <b>proxy</b><br>(プロキシ)  | プロトコルのリクエストに応答して、あるシステムがほかのシステムの代理として動作する仕組み。   |
| <b>public key encryption</b><br>(公開鍵暗号)                       | 公開および非公開のコンポーネントで作成された2つの部分からなる鍵(コード)を使用する暗号方式。メッセージを暗号化するには、受取人の公表された公開鍵を使用します。メッセージを解読するには、受取人は、受取人のみが知っている非公開の秘密鍵を使用します。公開鍵を知っていても、対応する秘密鍵を推測することはユーザーにはできません。   |
| <b>R</b>  |   |
| <b>rackmount server power consumption</b><br>(ラック搭載型サーバー消費電力) | ラック搭載型シャーシ電源装置によって消費されている入力電力の合計。   |
| <b>RTC</b><br>(リアルタイムクロック)                                    | システムの電源オフ時にでさえもシステムの時間と日付を維持する、バッテリーバックアップ式の部品。   |
| <b>real-time power monitoring</b><br>(リアルタイム電力監視)             | ハードウェアインタフェース (CMM、SP、PSU など) をポーリングすることによって、1秒以内の精度で消費電力メトリックを継続的に更新する機能。  |

reboot  
(リブート)

---

|  |   |
|--|---|
| <b>reboot</b><br>(リブート)                                    | システムを停止してブートする、オペレーティングシステムレベルの操作。電源が入っていることが前提条件です。  |
| <b>redirection</b><br>(出力先変更)                              | システムの標準入出力へではなく、ファイルまたはデバイスへの入出力のチャネリング。出力先変更の結果、システムが通常表示する入出力をほかのシステムのディスプレイに送ります。  |
| <b>redundant power</b><br>(冗長電力)                           | ブレードシャーシ電源装置に現在割り当てられていない使用可能電力(ワット)。   |
| <b>required power</b><br>(必要電力)                            | すべてのブレードスロットまたは個別のブレードスロットに必要な電力(ワット)の最大合計。   |
| <b>Remote Authentication Dial-In User Service (RADIUS)</b> | サーバー上のデータベースに含まれている情報に照らしてユーザーを認証し、承認されたユーザーにリソースへのアクセス権限を付与するプロトコル。  |
| <b>Remote Management and Control Protocol (RMCP)</b>       | システムの電源の投入または切断、あるいはリブートを強制することにより、管理者がリモートで警告に応答できるようにするネットワークプロトコル。   |
| <b>RPC</b><br>(リモート手続き呼び出し)                                | クライアントシステムがリモートサーバーの関数を呼び出せるようにする、ネットワークプログラミングの方法。クライアントがサーバーでプロシーチャーを開始すると、その結果がクライアントに転送されて戻ります。   |
| <b>remote system</b><br>(リモートシステム)                         | ユーザーが作業しているシステム以外のシステム。   |
| <b>reset</b><br>(リセット)                                     | システムの電源を切断してから投入する、ハードウェアレベルの操作。  |
| <b>role</b><br>(役割)  | ユーザーのアクセス権利を決定する、ユーザーアカウントの属性。  |
| <b>root</b>  | UNIX オペレーティングシステムのスーパーユーザー (root) の名前。root ユーザーは、全ファイルへのアクセス、および、一般ユーザーには許可していないほかの操作を実行することが許可されています。大まかに言うと、Windows Server オペレーティングシステムの管理者 (Administrator) ユーザー名と同等です。 |
| <b>root directory</b><br>(ルートディレクトリ)                       | ベースディレクトリで、ほかのすべてのディレクトリは直接あるいは間接的にここから生じます。  |
| <b>router</b><br>(ルーター)                                    | ネットワークパケットまたはその他のインターネットトラフィックを送るパスを割り当てるシステム。ホストとゲートウェイの両方がルーティングを行います。通常、「ルーター」という用語は、2つのネットワークを接続するデバイスを指します。  |
| <b>RSA algorithm</b><br>(RSA アルゴリズム)                       | RSA Data Security 社が開発した暗号化アルゴリズム。暗号およびデジタル署名の両方に使用できます。  |

**S**

|   |   |
|---|---|
| <b>schema</b><br>(スキーマ)   | ディレクトリにエントリとして格納できる情報の種類を記述している定義。スキーマと一致しない情報がディレクトリに格納されている場合、ディレクトリにアクセスしようとしているクライアントは正しい結果を表示できないことがあります。  |
| <b>Secure Shell</b><br>(SSH)  | セキュアでないネットワーク上のリモートシステムで、セキュアで暗号化されたログインおよびコマンドの実行を可能にする、UNIX シェルプログラムおよびネットワークプロトコル。   |
| <b>Secure Sockets Layer</b><br>(SSL)  | ネットワーク上のクライアントサーバー通信をプライバシーのために暗号化するプロトコル。SSLは、環境を確立するために鍵交換方式を使い、この方式では、交換されたデータすべては、盗聴や改ざんから保護するために暗号で暗号化されかつハッシュ化されています。SSLはWebサーバーとWebクライアントの間にセキュアな接続を作り出します。HTTPSではSSLを使用しています。   |
| <b>SDR</b><br>(センサーデータレコード)   | 機能の動的発見を容易にするために、Intelligent Platform Management Interface (IPMI) には、このレコードセットがあります。これには、存在するセンサー数、センサーの種類、センサーのイベント、しきい値情報などのソフトウェア情報が含まれます。センサーデータレコードによって、ソフトウェアは、プラットフォームについての予備知識がなくてもセンサーデータの解釈および提示ができます。  |
| <b>serial console</b><br>(シリアルコンソール)  | サービスプロセッサのシリアルポートに接続された端子または導線。シリアルコンソールは、システムがほかの管理タスクを行うように構成するために使用されます。   |
| <b>serial port</b><br>(シリアルポート)   | シリアルポートリダイレクトを使用して、コマンド行インタフェース (CLI) およびシステムコンソールストリームへのアクセスを提供するポート。  |
| <b>server certificate</b><br>(サーバー証明書)  | Webアプリケーションを認証するためにHypertext Transfer Protocol Secure (HTTPS) で使用する証明書。証明書は、自身で署名したものあるいは認証局 (CA) が発行したものとなります。   |
| <b>Server Message Block</b><br>(SMB) protocol<br>(サーバーメッセージブロック<br>(SMB) プロトコル) | ファイルおよびプリンタをネットワーク全体で共有できるようにするネットワークプロトコル。SMBプロトコルによって、クライアントアプリケーションが、ネットワーク内のサーバープログラムのファイルの読み書きおよびサーバープログラムからのサービスのリクエストができるようになります。SMBプロトコルを使うと、WindowsとUNIXシステムの間でファイルシステムをマウントできます。SMBプロトコルは、IBMによって設計されたあとにマイクロソフトによって変更が加えられ、マイクロソフトは、このプロトコルの名前を共通インターネットファイルシステム (CIFS) に変更しました。 |
| <b>SP</b><br>(サービスプロセッサ)  | シャーシ環境や構成、サービス機能を管理し、システムのほかの部品からイベントデータを受信するのに使うデバイス。センサーインタフェースからデータを受信し、そのデータを、インタフェースを提供しているSDRを使用して解釈します。SPを使用すると、システムイベントログ (SEL) への別のインタフェースが提供されます。SPの典型的な機能には、プロセッサの温度や電源値、冷却ファンのステータスの測定があります。SPは、システムの完全性を保つために自立的に動作できます。   |
| <b>session time-out</b><br>(セッションタイムアウト)  | サーバーがユーザーセッションを無効にするまでの一定の時間。   |

---

|  |   |
|--|---|
| <b>SMTP</b>  | メール送受信に使用する TCP/IP。   |
| <b>SNMP</b>  | ネットワークの動作状態についてのデータ交換に使用する簡単なプロトコル。SNMP では、管理対象デバイスとネットワーク管理ステーション (NMS) との間でデータがやりとりされます。管理対象デバイスには、ホストやルーター、Web サーバー、またはネットワーク上のその他のサーバーなどの、SNMP が動作しているいずれのデバイスも含まれます。 |
| <b>SSO</b><br>(シングルサインオン)  | ユーザーが複数のアプリケーションにアクセスするために証明書を 1 回入力する認証形式。   |
| <b>Snapshot utility</b><br>(スナップショットユーティリティ)                         | サーバープロセッサ (SP) の状態に関するデータを収集するアプリケーション。Oracle Services では、このデータを診断目的で使用します。   |
| <b>subnet</b><br>(サブネット)   | 組織のネットワークを識別可能な方法で分割した部分。サブネットを使用すると、ルーティングを単純化するために、単一の論理ネットワークを複数の小さな物理ネットワークに分割できます。サブネットはホスト ID のブロックを認識するインターネットプロトコル (IP) アドレスの部分です。                                |
| <b>subnet mask</b><br>(サブネットマスク)                                     | サブネットアドレッシングのためにインターネットアドレスからビットを選択するのに使うビットマスク。マスクは 32 ビット長で、インターネットアドレスのネットワーク部分およびローカル部分の 1 つまたは複数のビットを選択します。「アドレスマスク」とも呼ばれます。   |
| <b>Sun Blade Modular System</b><br>(Sun Blade モジュラーシステム)             | 複数の Sun ブレードサーバーモジュールを保持するシャーシ。   |
| <b>Sun blade server module</b><br>(Sun ブレードサーバーモジュール)                | シャーシに差し込むことができるサーバーモジュール (ブレード) で、モジュラーシステムとも呼ばれます。   |
| <b>Sun Oracle ILOM Remote Console</b><br>(Sun Oracle ILOM リモートコンソール) | ユーザーがデバイス (キーボード、マウス、ビデオディスプレイ、ストレージメディア) をデスクトップからリモートホストサーバーにリダイレクトできるようにするグラフィカルユーザーインターフェース。  |
| <b>superuser</b><br>(スーパーユーザー)                                       | UNIX システムですべての管理機能を実行する権限を持っている特別なユーザー。「ルート (root)」とも呼ばれます。   |
| <b>syslog</b>  | ログメッセージをサーバーに送信できるプロトコル。  |
| <b>SEL</b><br>(システムイベントログ)   | システムイベント用の非揮発性ストレージを供給するログで、サービスプロセッサにより自発的に記録されるか、またはイベントメッセージと一緒にホストに直接送付されません。   |

|   |   |
|---|---|
| <b>system identifier</b><br>(システム識別子)     | ホストシステムを識別しやすくするテキスト文字列。この文字列は、SUN-HW-TRAP-MIB から生成される SNMP トラップに <code>varbind</code> として含まれています。システム識別子は任意の文字列に設定できますが、ホストシステムを識別しやすくするために使用するのがもっとも一般的です。ホストシステムは、場所の説明によって識別するか、ホストのオペレーティングシステムが使用するホスト名を参照することによって識別できます。 |
| <b>T</b>                                  |   |
| <b>target</b><br>(ターゲット)                  | Oracle ILOM コマンド行インタフェースにおいて、CLI ネームスペース内のすべてのオブジェクト。   |
| <b>target limit</b><br>(ターゲットの制限)         | Sun サーバーに設定され、そのサーバーに許可される電力バジェットパラメータを (ワットまたはパーセントで) 決定する値。   |
| <b>target namespace</b><br>(ターゲットネームスペース) | Oracle ILOM コマンド行インタフェースにおいて、システム内のすべての管理対象オブジェクトを含む階層型の定義済みツリー。詳細は、 <a href="#">namespace (ネームスペース)</a> を参照してください。   |
| <b>Telnet</b>                             | あるホストのユーザーがリモートホストにログインできるようにする仮想端末プログラム。リモートホストにログインしているあるホストの Telnet ユーザーは、そのリモートホストの通常の端末ユーザーのように対話できます。   |
| <b>threshold</b><br>(しきい値)                | センサーが温度や電圧、電流、ファン速度を監視する際にこの範囲内で使用する最大値および最小値。  |
| <b>time-out</b><br>(タイムアウト)               | サーバーが、この時間を過ぎたら、ハングアップしたサービスルーチンを終了しようとする試みを停止するように指定された時間。   |
| <b>TCPB</b>                               | 接続状態についての情報を記録して保守する TCP/IP の一部。  |
| <b>TCP/IP</b>                             | あるホストから別のホストへデータストリームを確実に送信できるインターネットプロトコル。TCP/IP は、Oracle Solaris や Microsoft Windows、Linux ソフトウェアシステムといった各種のネットワークシステム間でデータを転送します。TCP はデータ配信を保証し、パケットは送信されたときのままのシーケンスで配信されます。  |
| <b>trap</b><br>(トラップ)                     | 特定の状態が検知されたときに SNMP エージェントが自らの主導権で作成するイベント通知。SNMP には形式的に 7 種のトラップが定義されていて、サブタイプを定義できません。  |
| <b>TFTP</b>                               | システムにファイルを転送する簡単なトランスポートプロトコル。TFTP は UDP を使用しています。  |

## U

**unfilled grant requests**  
(満たされていない許可リクエスト) シャーシ監視モジュールがシャーシブレードスロットに許可するようにリクエストされている、まだ許可されていない電力(ワット)の合計。

**URI**  
(Uniform Resource Identifier) インターネットまたはイントラネット上のリソースを識別する一意の文字列。

**USB**  
(ユニバーサルシリアルバス) 450 Mbps (USB 2.0) のデータ転送レートをサポートする外部バス標準。USB ポートは、マウスポインタなどのデバイスをコンピュータシステムに接続します。

**user account**  
(ユーザーアカウント) システムに格納されている、不可欠なユーザー情報レコード。システムにアクセスするユーザーはそれぞれユーザーアカウントを1つ持ちます。

**UDP** インターネットプロトコル (IP) に信頼性と多重化をもたらすコネクションレス型のトランスポートレイヤープロトコル。UDP によって、アプリケーションプログラムは、IP 経由でほかのコンピュータのほかのアプリケーションプログラムにデータグラムを配信できます。通常、SNMP が UDP 上に実装されます。

**user privilege levels**  
(ユーザー権限レベル) ユーザーが実行できる操作とアクセスできるリソースを指定する、ユーザーの属性。

**user identification**  
(userid)  
(ユーザー ID  
(userid)) システムのユーザーを識別する固有の文字列。

**user identification number**  
(UID number)  
(ユーザー ID 番号  
(UID 番号)) UNIX システムにアクセスしているユーザーにそれぞれ割り当てられる番号。システムが、ファイルおよびディレクトリの所有者を番号によって識別するのに UID 番号を使用します。

**user name**  
(ユーザー名) システムでユーザーを識別する、文字または場合によっては番号の組み合わせ。

## W

**web server**  
(Web サーバー) インターネットまたはイントラネットにアクセスするためのサービスを提供するソフトウェア。Web サーバーは Web サイトをホストし、HTTP-HTTPS およびその他のプロトコルをサポートし、サーバー側プログラムを実行します。

---

|  |   |
|--|---|
| <b>Web Services for Management (WS-Management) protocol and Common Information Model (CIM)</b><br>(WS-Management プロトコルおよび CIM) | Oracle ILOM に実装されている Distributed Management Task Force (DMTF) 標準で、これらによって開発者は Oracle の Sun システムハードウェアに関する情報を監視および管理するネットワーク管理アプリケーションを構築して配備できます。 |
| <b>WAN</b><br>(広域ネットワーク)   | ファイル転送サービスを提供する数多くのシステムから構成されるネットワーク。WAN は広い物理範囲に、場合によっては世界中に及びます。  |

## X

|   |  |
|---|--|
| <b>X.509 certificate</b><br>(X.509 証明書) | もっとも一般的な証明書標準。X.509 証明書は、公開鍵および関連するアイデンティティ情報を持ち、認証局 (CA) によってデジタル署名されたドキュメントです。 |
| <b>X Window System</b><br>(X ウィンドウシステム) | 一般的な UNIX ウィンドウシステムで、ワークステーションまたは端末が複数セッションを同時に制御できるようにします。                      |



# 索引

---

## B

- BIOS 構成 (保存、復元、リセット)、CLI コマンドターゲット, 132
- BIOS バージョン、CLI コマンドターゲット, 133

## C

- chassis view, 20
- /CH レガシーターゲット、CLI コマンドターゲット, 146
- CLI
  - 下位互換性, 34
  - コマンド構文, 116
  - ターゲットネームスペース, 27
  - ログイン, 17
- CLI コマンド
  - 確認が必要なコマンドの実行, 121
  - 個別に実行, 120
  - 複数のプロパティを変更するための実行, 121
- CLI コマンドターゲット
  - BIOS 構成の保存、復元、リセット, 132
  - BIOS バージョンの表示, 133
  - http/https アクセス, 125
  - ILOM 構成の保存、復元、リセット, 131
  - IPMI, 126
  - KVMS 構成, 141
  - NEM の保守作業, 144
  - Oracle ILOM アクセスの構成, 125
  - SMTP サーバー構成, 138
  - SNMP, 126

## CLI コマンドターゲット (続き)

- SPARC 診断構成, 142
- SPARC の電力構成, 130
- SSH アクセス, 125
- /SYS、/STORAGE、/CH の表示, 146
- syslog 構成, 137
- USB 内部ポート構成, 123
- WS-Management, 126
- x86 診断構成, 142
- x86 の電力構成, 130
- アクティブセッションの詳細の表示, 137
- 以前の Oracle ILOM バージョンとの下位互換性, 34
- 管理プロトコルサポート, 126
- クロック設定, 128
- 警告ルール, 138
- サービスプロセッサのリセット, 139
- 再起動ポリシーの設定, 139
- システムおよびコンポーネントのステータスの表示, 135
- システムの識別, 127
- システムのリセット, 139
- システムポリシー構成, 129
- シャーシストレージ SAS ゾーン作成, 145
- 障害管理シェル, 144
- 消費電力の警告ルール, 138
- シリアルポート構成, 123
- シングルサインオン, 125
- セッションの表示, 125
- ゾーン作成パスワード, 145
- ターゲットおよびプロパティの表示, 32
- ターゲットネームスペースの概要, 27

## CLI コマンドターゲット (続き)

- ターゲットネームスペースのナビゲート, 27
  - ターゲットプロパティおよびコマンドの一覧表示, 32
  - デフォルトの Oracle ILOM 3.1 ターゲット, 29
  - 電源投入/切断, 139
  - ドメインブートデバイス, 139
  - ネットワークポート構成, 123
  - バナーメッセージ構成, 127
  - ファームウェアの更新, 133
  - ファームウェアバージョンの表示, 133
  - ブートデバイスの選択, 139
  - 物理的プレゼンスの設定, 131
  - ブレードシャーシの電力構成, 130
  - ユーザーアカウント, 129
  - リモートサーバーを使用したユーザー認証, 129
  - リモートシリアルコンソール構成, 142
  - レガシーターゲット, 31, 146
  - レガシーターゲットの非表示の解除, 34
  - ログの管理, 137
- CLI コマンドのターゲット, ターゲットへのタスクのマッピング, 123
- CLI ターゲットの種類
- /CH, 29
  - /CMM, 28
  - /HOST, 28
  - /Servers, 28
  - /SP, 28
  - /SYS, 28, 29
  - /System, 28
- CMM
- 電力割り当ての考慮事項, 77
  - ブレードサーバーサポート, 27
- CRU, 102
- D**
- Distributed Management Task Force コマンド行プロトコル (DMTF CLP), 115

**E**

- ENTITY-MIB, 13
- Ethernet ポート, CLI コマンドターゲット, 123

**F**

- fault management statistics report, 112
- fmadm
  - コマンドの使用法と構文, 106
  - ユーティリティー, 104
- fmstat reports, example, 111
- fmstat レポート, プロパティ, 112
- FRU, 102

**I**

- Intelligent Platform Management Interface (IPMI), 機能, 12
- IPMI, CLI コマンドターゲット, 126
- IP アドレス, 16

**K**

- KVMS 構成, CLI コマンドターゲット, 141

**M**

- 「memory」 Web ページ, 21

**N**

- NEM
  - 取り外す準備 (CMM CLI), 46
  - 取り外す準備 (Web), 45
  - 保守作業プロパティ, 44
- NEM の保守作業, CLI コマンドターゲット, 144

**O**

- Oracle Enterprise Ops Center, 14
- Oracle ILOM
  - 概要, 9
  - 障害マネージャー, 99
- Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM)
  - CLIへのログイン, 17
  - 一般的な管理アクションの実行 (Web), 52
  - インタフェース, 12
  - 概要, 9
  - 構成 (保存、復元、リセット)、CLI コマンドターゲット, 131
  - サービスプロセッサ
    - 組み込みオペレーティングシステム, 10
  - サポートされるユーザーインタフェース, 10, 12
  - 障害管理シエル, 43
  - 使用開始, 15-34
  - 特長と機能, 10
  - ほかの管理ツールとの統合, 14
  - リモートコンソール, 58
  - ログエントリ, 49
  - ログエントリの管理, 47
  - ログの説明, 48
  - ログのタイムスタンプ, 49
- Oracle ILOM サービススナップショット
  - ユーティリティー, 87
- Oracle ILOM へのインタフェース, 12

**S**

- SMTP サーバー構成、CLI コマンドターゲット, 138
- SNMP-FRAMEWORK-MIB, 13
- SNMP-MPD-MIB, 13
- SNMP、CLI コマンドターゲット, 126
- SNMPv2-MIB, 13
- SPARC 診断、構成 (Web インタフェース), 94-95
- SSH アクセス、CLI コマンドターゲット, 125
- /STORAGE レガシーターゲット、CLI コマンドターゲット, 146
- SUN-HW-TRAP-MIB, 13
- SUN-ILOM-CONTROL-MIB, 13
- SUN-ILOM-PET-MIB, 13

- SUN-PLATFORM-MIB, 13
- Sun xVM Ops Center, ILOM での使用, 14
- Sun 管理対象デバイス, 102
- Sun ブレードシャーシ NEM, 44
- syslog, 48
- Syslog 構成、CLI コマンドターゲット, 137
- system information、ナビゲーションオプション, 20
- /SYS レガシーターゲット、CLI コマンドターゲット, 146

**T**

- TPM 構成、CLI コマンドターゲット, 139

**U**

- USB 内部 Ethernet ポート、CLI コマンドターゲット, 123
- UUID, 102

**W**

- Web アクセス、CLI コマンドターゲット, 125
- Web インタフェース
  - 3.1 での再設計, 19
  - CMM ブレードサーバーのビュー, 27
  - 新しい, 10
  - 機能, 12
  - コンポーネント, 19
  - サポートされるブラウザ, 13
  - ナビゲーションオプション, 20
  - ナビゲート, 18
- Web ナビゲーションオプション, 20
- Web ブラウザ, 13
- Web ページ
  - active directory, 25
  - active sessions, 25
  - alerts, 26
  - allocation, 23
  - audit logs, 24
  - backup/restore, 26
  - banner messages, 25

## Web ページ (続き)

- BIOS, 23
- blades, 21
- chassis view, 20
- CLI, 25
- clock, 26
- consumption, 23
- cooling, 21
- diagnostics, 23
- DNS, 25
- event logs, 24
- firmware, 22, 26
- history, 24
- host control, 23
- host management, 22
- I/O modules, 22
- identification, 24
- IPMI, 24
- KVMS, 22
- LDAP, 25
- LDAP/SSL, 25
- limit, 23
- network, 25
- networking, 22
- open problems, 22
- Oracle ILOM administration, 24
- PCI devices, 22
- policy, 23
- power, 21
- power control, 23
- power management, 23
- processors, 21
- RADIUS, 25
- redirection, 22
- redundancy, 24
- reset components, 26
- reset defaults, 26
- SAS zoning, 23
- serial port, 26
- settings, 23
- SMTP client, 26
- snapshot, 27
- SNMP, 24
- SSH server, 24

## Web ページ (続き)

- SSL certificate, 24
- statistics, 24
- storage, 22
- summary, 21
- syslog, 26
- System Information, 20
- system management, 23
- timezone, 26
- user accounts, 25
- web server, 24
- WS-MAN, 25

WS-Management、CLI コマンドターゲット, 126

**X**

- x86 システムの Pc-Check 診断, 構成 (CLI), 92-93
- x86 システムの診断, 構成 (CLI), 92-93
- x86 プロセッサ割り込みの生成, 86

**あ**

- アクティブセッションの詳細、CLI コマンド  
ターゲット, 137

**い**

- 以前の Oracle ILOM バージョンとの互換性、CLI  
コマンドターゲット, 34
- 一般的なアクションの開始, 35
- イベント通知しきい値, 69
- イベントログ, 47

**え**

- エラーと障害の管理, 12
- エラーログ, 109

## か

## 概要

- Oracle Enterprise Ops Center, 14
- Oracle ILOM, 9
- Oracle ILOM 構成のバックアップ、復元、およびリセット, 85
- Oracle ILOM サービススナップショットユーティリティー, 87
- x86 および SPARC の診断ツール, 85
- 障害のクリアー, 100
- 障害マネージャー, 99
- 電力履歴グラフおよびメトリック, 80
- ハードウェア障害通知, 100
- ファームウェアの更新, 85

## 簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP)

- 機能, 13
- サポートされる MIB, 13

## 監査ログ, 47

## 管理

- システム管理構成アクション, 64
- 保守作業, 44
- ホスト管理構成アクション, 63
- 未解決の問題, 42

## 管理ツールとの統合, 14

## き

## 起動

- Oracle ILOM リモートコンソール, 58
- x86 Oracle System Assistant, 60
- 障害管理シェル, 102

## 許容ピーク, 68

## く

## クリアー

- 検出されないコンポーネントについての障害, 107
- 障害, 105
- ログエントリ (CLI), 50
- ログエントリ (Web), 50

## クロック、CLI コマンドターゲット, 128

## け

- 警告ルールの構成、CLI コマンドターゲット, 138
- 健全性状態, 102
- 健全性状態の定義, 42
- 健全性ステータスの状態
  - not available, 42
  - offline, 42
  - OK, 41
  - service required, 41

## こ

## 更新、デバイスのファームウェア (Web), 55

## 更新と構成変更, 14

## 考慮事項

- CMM 電力割り当てコンポーネント, 77
- サーバー SP 電力割り当てコンポーネント, 76
- 電力割り当て監視, 77

## コマンド行インタフェース

- cd コマンド, 117
- CLI を使用したシステム管理, 123
- create コマンド, 117
- delete コマンド, 117
- dump コマンド, 117
- exit コマンド, 117
- help コマンド, 118
- load コマンド, 118
- reset コマンド, 118
- set コマンド, 118
- show および help コマンドの使用, 32
- show コマンド, 119
- start コマンド, 119
- stop コマンド, 119
- version コマンド, 119

## 新しい, 10

## 概要, 115

## 機能, 12

## コマンド行構文, 116

## サポートされているコマンドおよびオプション, 117

## 使用, 115-147

## ターゲットツリー, 167

## 単一または複合コマンドの実行, 120

## ナビゲート, 27

- コマンド行インタフェース (続き)
    - ログイン, 17
  - コンソール、ホストシリアルのリダイレクト、CLI コマンドターゲット, 142
  - コンポーネントごとの電力マップ
    - 上限設定可能プロパティ, 75
    - プロパティ, 75
    - 割り当て電力, 75
  - コンポーネントのステータス、CLI コマンドターゲット, 135
  - コンポーネントの電力割り当て
    - CMM の考慮事項, 77
    - サーバー SP の考慮事項, 76
- さ
- サードパーティーの管理ツール, 14
  - サーバー SP、電力割り当ての考慮事項, 76
  - サービスプロセッサ (SP)、収集および診断, 88-89
  - サービスプロセッサのリセット、CLI コマンドターゲット, 139
  - サービスプロセッサのリモート制御, 14
  - 再起動ポリシー、CLI コマンドターゲット, 139
  - サポートされる
    - CMM ブレードサーバー, 27
    - IP アドレス, 16
    - MIB, 13
    - Oracle ILOM の特長と機能, 10
    - 管理インタフェース, 12
    - 管理ツール, 14
  - サポートされる MIB, 13
- し
- 識別、CLI コマンドターゲット, 127
  - システム警告, 12
  - システム電力仕様
    - 許容ピーク, 73
    - 冗長電力, 73
    - ターゲットの制限, 74
    - 電源装置の最大, 72
    - 取り付けられているハードウェアの最小, 73
    - プロパティ, 72
  - システム電力仕様 (続き)
    - 割り当て電力, 74
  - システムのステータス、CLI コマンドターゲット, 135
  - システムの電源制御と監視, 11
  - システムのリセット、CLI コマンドターゲット, 139
  - システムポリシー、CLI コマンドターゲット, 129
  - 実行
    - ブート時の SPARC 診断 (Web), 94, 95
    - ブート時の x86 診断 (CLI), 92
    - ブート時の x86 診断 (Web), 91
  - 実電力, 67
  - シャーシコンポーネントプロパティ、割り当て電力, 76
  - 収集
    - システム情報, 35-61
    - 情報とステータス, 35
  - 出力電力, 67
  - 取得、ネットワークアドレス, 16
  - 障害
    - クリアー, 100
    - 検出されないコンポーネントについてのクリアー, 107
    - 健全性状態, 102
    - 修正, 100
    - 修復または交換の場合のクリアー, 105
    - 障害管理シェルによる管理, 99-113
    - 障害管理ログファイルの表示, 109
    - 障害の発生したコンポーネントの表示, 104
    - 障害マネージャー, 99
    - 診断エンジン, 101
    - 定義, 102
    - ハードウェア通知, 100
    - 保護する, 99
    - 用語, 101
    - 予防的自己修復, 101
  - 障害管理、CLI コマンドターゲット, 144
  - 障害管理シェル, 101
    - 起動, 102
    - コマンド, 111
    - セッションの起動、終了、および記録, 102-104

- 障害管理シェルを使用した診断、CLI コマンド
    - ターゲット, 144
  - 使用開始, 15
  - 障害状態, 43
  - 障害マネージャー, 99
  - 障害ログ, 109
  - 冗長電力, 73
  - 消費電力, 67
    - CMM, 67
    - 許容ピーク, 68
    - 実電力, 67
    - ターゲットの制限, 68
    - 通知しきい値, 69
    - 表示, 65
    - ブレードサーバー, 67
    - ラック搭載型サーバー, 67
  - 消費電力警告の構成、CLI コマンド
    - ターゲット, 138
  - 消費電力プロパティ, 66
  - 初期構成, 10
  - シリアルポート、CLI コマンドターゲット, 123
  - シングルサインオン、CLI コマンド
    - ターゲット, 125
  - 診断
    - SPARC システム, 94
    - SPARC システム、CLI を使用, 94
    - SPARC システム、Web インタフェースを使用, 94-95
    - SPARC についてブート時に実行 (Web), 94, 95
    - x86 についてブート時に実行 (CLI), 92
    - x86 についてブート時に実行 (Web), 91
    - 概要, 85
    - ツール, 85
  - 診断、CLI コマンドターゲット, 142
  - 診断、スナップショットユーティリティの使用, 88-89
  - 診断ツールの実行, 86
  - 診断のためのツール, 85
- す
- ストレージゾーン作成 (シャーシ)、CLI コマンド
    - ターゲット, 145
  - スナップショット
    - Oracle ILOM SP 状態 (CLI), 89
    - Oracle ILOM SP 状態 (Web), 88
    - プロパティ, 90
    - ユーティリティ, 87
  - スナップショットの作成 (CLI), 89
  - スナップショットの作成 (Web), 88
  - スナップショットユーティリティ、使用
    - (Web), 88-89, 89-91
  - スナップショットユーティリティを使用したト
    - ラブルシューティング, 88-89
- せ
- 専用のサービスプロセッサ, 10
- そ
- ゾーン作成 (シャーシ)、CLI コマンド
    - ターゲット, 145
- た
- ターゲットネームスペース, 27
  - ターゲットの制限, 68
  - 帯域外管理, 10
  - ダウンロード可能なファームウェア更新, 10
- つ
- 通知、ハードウェア障害の, 100
  - 通知しきい値, 69
- て
- 電源装置の最大, 72
  - 電源投入/切断、CLI コマンドターゲット, 139
  - 電力監視の考慮事項, 68
  - 電力管理、システムおよびシャーシ CLI コマンド
    - ターゲット, 130

電力使用統計情報の分析, 79

電力統計情報

移動平均グラフおよびメトリック, 79

概要, 79

グラフおよびメトリックの表示, 79

プレビュー, 79

分析, 79

電力履歴

概要, 80

グラフおよびメトリックについて, 80

グラフおよびメトリックの表示, 81

電力履歴グラフおよびメトリック, 80

電力割り当て監視の考慮事項, 77

電力割り当て計画, 69

表示, 69

電力割り当ての監視, 69

と

特長と機能, 10

ドメインブートデバイス、CLI コマンド

ターゲット, 139

トラブルシューティング

Oracle ILOM 管理対象デバイス, 83-97

ネットワーク接続の問題, 83

取り付けられているハードウェアの最小, 73

取り外す準備

NEM をサービスに (CMM CLI), 46

NEM をサービスに (Web), 45

に

入力電力, 67

ね

ネットワークアドレス

CMM, 16

サーバー SP, 16

ネットワーク接続の問題, 83

ネットワークポート、CLI コマンド

ターゲット, 123

ネットワーク要件, 15

は

ハードウェア障害

修正措置, 100

通知, 100

ハードウェアと FRU のインベントリ, 11

バナーメッセージ、CLI コマンドターゲット, 127

ひ

表示

健全性ステータス (Web), 36

サブコンポーネントレベルの情報 (CLI), 39

サブコンポーネントレベルの情報 (Web), 37

システムレベルの情報 (Web), 36

障害管理統計レポート, 112

障害管理ログファイル, 109

障害の発生したアクティブなコンポーネント, 104

消費電力, 65

消費電力プロパティ, 66

デバイスの電源状態 (Web), 53

デバイスのロケータ状態 (Web), 54

電力統計グラフおよびメトリック, 79

電力履歴グラフおよびメトリック, 81

電力割り当て計画, 69

未解決の問題, 43

ログエントリ (CLI), 50

ログエントリ (Web), 50

ふ

ファームウェア

更新, 14

デバイスに対する更新 (Web), 55

ファームウェアの更新、CLI コマンド

ターゲット, 133

ファームウェアバージョン、CLI コマンド

ターゲット, 133

ブートデバイスの選択、CLIコマンド  
 ターゲット, 139  
 復帰させる準備  
 NEMをサービスに (CMM CLI), 46  
 NEMをサービスに (Web), 45  
 物理的なネットワーク管理接続, 15  
 ブレードスロット電力のサマリー  
 許可可能電力, 75  
 満たされていない許可リクエスト, 75  
 ブレード電力許可  
 許可された電力, 76  
 許可制限, 75  
 必要電力, 76

へ  
 変更  
 デバイスの電源状態 (Web), 53  
 デバイスのロケータ状態 (Web), 54

ほ  
 保守作業  
 NEMのプロパティ, 45  
 管理, 44  
 保守の概要, 85  
 ホストおよびシステムの管理, 63-64

ま  
 マスク不可能割り込み (NMI)  
 CLIを使用して生成, 86-87  
 概要, 86

み  
 未解決の問題, 43  
 管理, 42  
 表示, 43  
 用語, 43

ゆ  
 ユーザーアカウント, 構成, 11  
 ユーザーアカウント、CLIコマンド  
 ターゲット, 129  
 ユーザーセッションタイムアウト、CLIコマンド  
 ターゲット, 125  
 ユーザー認証、CLIコマンドターゲット, 129

よ  
 用語, 障害管理, 101  
 予防的自己修復, 101

り  
 リアルタイム電力監視, 67  
 手順, 65-81  
 リモートアクセス, 11  
 リモートハードウェアの監視, 11

れ  
 レガシーCLIターゲット、非表示の解除, 34  
 レガシーサーバー, 27

ろ  
 ログ  
 syslog, 48  
 イベント, 47  
 エラー, 109  
 エントリ, 49  
 監査, 47  
 障害, 109  
 説明, 48  
 タイムスタンプ, 49  
 ログ、CLIコマンドターゲット, 137  
 ログイン  
 CLI, 17  
 ネットワーク要件, 15

ログエントリ

Class, 49

Date and Time, 48

Event ID, 48

Severity, 49

Type, 49

表示およびクリアー (CLI), 50

表示およびクリアー (Web), 50

フィルタリング, 51

ログエントリのフィルタリング, 51